

**「氷取沢防災まちづくりの会」の地域まちづくり組織としての認定 及び
「氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン」のプラン認定について**

1. 地区の状況とまちづくりの歩み

(1) 氷取沢地区の状況

氷取沢地区は、磯子区の最南端に位置し、大岡川流域に沿って笹下釜利谷道路が横断した谷間と周辺の丘陵地帯を開発してできた戸建てを主体とした住宅と3団地からなる住宅地です。また大岡川源流や氷取沢市民の森など豊かな自然環境を有する一方で、土砂災害特別警戒区域に指定された崖や洪水浸水想定区域も抱えています。

本地区では、平成19年に町内の小学校が統廃合で廃止されたことに伴い、地域防災拠点が遠方化しました。高齢化に伴い地域防災拠点への避難が困難な住民等の避難の対策を始めとして、首都直下地震等大震災や豪雨による大災害に備えた地域の課題に対する取組が求められていました。

そこで、災害に強いまちを住民主体で創っていくため、コミュニティ・防災・減災力の向上に努めながら、大規模自然災害に備えたプランの策定を目的に、「氷取沢防災まちづくりの会」が発足しました。

(2) これまでの経緯

活動年月		活動内容
28年度	平成28年6月	氷取沢防災まちづくりの会のグループ登録
	平成28年9～10月	まちあるき開催
	平成28年10月	第1回住民アンケートの実施
29年度	平成29年10～11月	まちあるき開催
	平成29年12月	第1回「減災を学ぼう会」の開催
30年度	平成30年4～12月	まちあるき開催
	平成30年7月	第2回「減災を学ぼう会」の開催
	平成30年11月	第3回「減災を学ぼう会」の開催
元年度	令和元年7月	第4回「減災を学ぼう会」の開催
	令和元年11月	第2回アンケートの実施
	令和2年2月	プラン素案についての意見交換会の開催
2年度	令和2年11月	第3回アンケートの実施（最終アンケート）
3年度	令和3年8月	最終意向調査

2. 組織認定における認定基準等への適合について

(1) 団体の活動の対象となる地域の地域住民等で構成されていること又は当該地域住民等及び地域まちづくりに関する活動を行う者で構成されていること（条例第9条第1項第1号）

本会の会員は、会則第2条に定める区域内に居住する者、事業を営む者及び土地・建物を有する者、又は地域まちづくりの活動を行う者を対象としています。（会則第5条）

【資料5（会則）】

(2) その取組が、団体の活動の対象となる地域の地域住民等の多数の支持を得ていること

(条例第9条第1項第2号)

当会は、会則第2条に定める区域に在する、氷取沢町町内会、磯子台パークハイツ自治会、パイロットハウス磯子台自治会、興人磯子台マンション自治会を母体として、地域主体の災害に強いまちづくりに取り組むために発足しており、4自治町内会の役員を当会の理事に選出し活動の報告並びに情報提供を行うことにより、活動の理解をいただいています。【資料5（会則）】

活動内容については、「氷取沢防災まちづくりの会会報」を全戸に配布することで周知を図っています。【資料8（会報）】

最終アンケート結果を踏まえ、関係行政とも調整を進め、令和3年8月には氷取沢地区「防災まちづくりプラン」及び「氷取沢防災まちづくりの会」認定に関する最終意向確認を、会報16号により全戸配布しました。結果として、電話での問い合わせを含めて全体で11件の意見がありました。プランを詳しく知りたいという方から問合せがあったほか、活動に賛同する意見はあったものの、反対する意見はありませんでした。

【資料9-2（最終意向確認について）】

(3) 特定のものの利益を図り、又はこれに損害を加えることを活動の目的とするものでないこと

(条例施行規則第5条第3項第1号)

当会は、防災まちづくりを主体に4自治町内会が連携しながら創意工夫し、コミュニティ・防災・減災力の向上に努め、安全で快適な魅力ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目的としています。(会則第3条)

【資料5（会則）】

(4) 具体的かつ継続的な活動の計画が策定されていること。(条例施行規則第5条第3項第2号)

当会の活動にあたっては、「活動計画書」を策定し、プランの実現に向け積極的に活動を行います。

【資料3（活動計画書）】

(5) 当該団体の代表者及び事務局の所在地並びに団体の意思決定の方法が定められていること

(条例施行規則第5条第3項第3号)

- ・当会の代表者である会長は、会員より選出されたものとします(会則第6条)
- ・当会の事務局は、磯子区氷取沢町204-40番地 興人磯子台マンション管理事務所に置く(会則第1条)
- ・総会の開催は、会員の3分の1以上の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決することとしています(会則第10条第5項及び第6項)

【資料5（会則）】

3 プラン認定における認定基準等への適合について

(1) プランの対象となる地域住民等の多数の支持を得ていること（条例第10条第1項第1号）

グループ登録した平成28年度以降、まちあるきや防災に関する勉強会を主催し、地域住民の意見や課題を収集してきました。【資料8（会報）】

プラン策定にあたっては、素案（たたき台）段階において令和元年9月に「防災まちづくりプランのたたき台」についてのアンケートを実施し、この結果を踏まえ令和2年2月8日に意見交換会を開催し、結果についての説明と対応について意見交換を行っています。その成果を反映し「防災まちづくりプラン（案）」を作成し、令和2年11月に「防災まちづくりプラン（案）についてのアンケートへのご協力のお願い」を実施しています。その結果を踏まえ要望事項等を反映しながら最終のプラン案を作成しています。【資料9-1（最終アンケート結果）】

最終アンケート調査（令和2年11月実施）

・ 配布数：1,195（うち地権者への配布数：50）		
・ 回収数：633（うち地権者からの回収数：36）		
・ 回収率：53.0%		
・ プラン認定について（5項目のビジョン）		
① 賛同数：620	賛同率：51.9%	回収数に対する賛同率：97.9%
② 賛同数：613	賛同率：51.3%	回収数に対する賛同率：96.8%
③ 賛同数：611	賛同率：51.1%	回収数に対する賛同率：96.5%
④ 賛同数：611	賛同率：51.1%	回収数に対する賛同率：96.5%
⑤ 賛同数：607	賛同率：50.8%	回収数に対する賛同率：95.9%

【資料9-1（最終アンケート結果）】

(2) 都市計画法第18条の2の規定に基づき定められた横浜市都市計画マスタープランその他市が策定した地域まちづくりに関する計画に整合していること（条例第10条第1項第2号）

都市計画マスタープラン磯子区プランにおいて、以下の目標及び方針に整合しています。

【都市防災・防犯の方針】

- 日常的な地域交流により、見守り、支えあいの活動を推進し、必要な時に助け合うことができる共助の体制を整えます。
- （前略）自治会町内会などまちの防災組織、消防団員や家庭防災員の活動を通して地域防災力の強化を図ります。
- 災害時の避難場所や避難ルートを周知するとともに、危険な箇所を点検
- （前略）まちの防災組織、各家庭や各事業所でも、救助用品、救護用品、生活用品、食料、水、非常持ち出し品などの備蓄に努めます。
- ハザードマップ等を活用して、自宅周辺の災害危険度の理解を深めるなど、事前の備えや訓練を着実に進め、災害時に必要な情報をあらかじめ入手するなど、自分の身のまわりのことは自分で対応できるよう（自助）に、できることから取り組んでいきます。

【資料 10（横浜市都市計画マスタープラン・磯子区プラン抜粋）】

- (3) 特定のものの利益を図り、又はこれに損害を加えることを内容とするものでないこと
（条例施行規則第 9 条第 3 項第 1 号）

当プランは、首都直下地震及び記録的豪雨時の地域の課題に備えて「4 自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組」、「町内の避難所確保に向けた取組」、「大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組」、「災害時の医療対策に対する取組」、「氷取沢町ハザードマップ作製に対する取組」の 5 項目の取組を実施する内容となっています。

【資料 2（防災まちづくりプラン）】

- (4) 対象となる地域及びその内容が地域まちづくり組織の活動対象地域及び活動計画に整合していること（条例施行規則第 9 条第 3 項第 2 号）

当プランの対象となる地域は、氷取沢防災まちづくりの会の活動対象区域と一致しています。

また、プランの内容は災害に強いまちにしていくためのものであり、氷取沢防災まちづくりの会の活動内容と整合しています。

【資料 7（活動対象区域図）】

【資料 2（防災まちづくりプラン）】

以上により、

「氷取沢防災まちづくりの会」及び「氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン」について
認定することとしたい。

資料一覧

資料 1	組織及びプラン認定申出書	6
資料 2	氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン	8
資料 3	活動計画書	23
資料 4	活動実績書	26
資料 5	会則	27
資料 6	構成員名簿	30
資料 7	活動対象区域図	31
資料 8	活動内容の周知を示す書類	32
資料 9	地域住民等の多数の支持を得ていることを示す書類	
資料 9-1	防災まちづくりプランに関する最終アンケート	57
資料 9-2	最終意向確認結果	70
資料 10	都市計画マスタープランその他市が策定した地域まちづくりに関する計画に適合していることを示す書類	77

地域まちづくり組織認定申出書

令和 4 年 2 月 2 日

(申出先)
横浜市長

団体名 氷取沢防災まちづくりの会
 代表者住所 [REDACTED]
 代表者氏名 野口 明照
 代表者電話番号 [REDACTED]

横浜市地域まちづくり推進条例第 9 条第 1 項の規定により、地域まちづくり組織として認定を受けたいので、次のとおり関係書類を添えて申し出ます。

地域 ま ち づ く り 組 織	所在地	横浜市磯子区氷取沢町 204-40 興人磯子台マンション管理事務所
	目的	首都直下地震等の大震災及び記録的豪雨による大災害時の地域の課題に備え、氷取沢町内 4 自治町内会が連携しながら創意工夫し、地域のコミュニティ・防災・減災力の向上に努め安全で快適な魅力ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目的とします。
	活動対象地域	横浜市磯子区氷取沢町の一部

- (注意) 1 代表者が法人その他の団体である場合は、代表者住所及び代表者氏名は、当該法人その他の団体の名称、事務所又は事業所の所在地及び代表者の氏名を記入してください。
- 2 この申出書には、次に掲げる書類を添付してください。
- (1) 活動計画書
 - (2) 活動実績書
 - (3) 会則
 - (4) 構成員名簿（各構成員が当該団体の活動の対象となる地域の地域住民等（居住者、事業者又は土地建物所有者）又は地域まちづくりに関する活動を行う者のいずれであるかを記載したもの）
 - (5) 活動対象地域図
 - (6) 活動内容の周知の状況を示す書類
 - (7) 地域住民等の多数の支持を得ていることを示す書類
 - (8) その他市長が必要と認める書類
- 3 この申出に基づき、地域まちづくり組織として認定した場合は、その旨を公表します。

(A4)

地域まちづくりプラン認定申出書

令和 4 年 2 月 2 日

(申出先)
横浜市長

地域まちづくり組織の名称
氷取沢防災まちづくりの会
代表者住所
申出者 [REDACTED]
代表者氏名 野口 明照
代表者電話番号 [REDACTED]

横浜市地域まちづくり推進条例第 10 条第 1 項の規定により、地域まちづくりプランとして認定を受けたいので、次のとおり地域まちづくりプランの案に係る書類を添えて申し出ます。

地域まちづくりプラン	名称	氷取沢防災まちづくりの会 防災まちづくりプラン
	策定目的	首都直下地震等の大地震及び記録的豪雨による大災害時の課題に備えて氷取沢町内 4 自治町内会が連携しながら創意工夫し、コミュニティ・防災・減災力の向上に努め、安全で快適な魅力ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目的とする。
	対象地域	横浜市磯子区氷取沢町の一部

- (注意) 1 代表者が法人その他の団体である場合は、代表者住所及び代表者氏名は、当該法人その他の団体の名称、事務所又は事業所の所在地及び代表者の氏名を記入してください。
- 2 この申出書には、次に掲げる書類を添付してください。
- (1) 地域まちづくりプランに係る活動計画書
 - (2) 活動実績書
 - (3) 地域住民等への地域まちづくりプランの策定に関する情報の公表及び周知の状況を示す書類
 - (4) 地域住民等の多数の支持を得ていること及び横浜市都市計画マスタープランその他市が策定した地域まちづくりに関する計画に整合していることを示す書類
 - (5) その他市長が必要と認める書類
- 3 この申出に基づき、地域まちづくりプランとして認定した場合は、その旨を公表します。

(A4)

氷取沢防災まちづくりの会

防災まちづくりプラン

2022年1月

はじめに

氷取沢地区は、磯子区の最南端に位置し、氷取沢町内には大岡川の源流及び氷取沢市民の森を有しています。この緑豊かな土地は、私どもにとって誇りと言えます。

その反面、「土砂災害特別警戒区域」「洪水浸水想定区域」を抱える当地区においては、近年各地で起こっている震災・水災害・土砂災害の報道と照らし合わせ、防災について真剣に検討すべき事案です。

「氷取沢防災まちづくりの会」は、発足前に2016年3月磯子区区政推進課による「地域まちづくり支援制度」の出前塾を受講し、首都直下地震及び記録的豪雨等大災害に備えたプランを策定する事を目的として、4自治町内会を母体として会員の募集を行い、2016年7月に発足しています。

「氷取沢防災まちづくりの会」が行った活動は、以下の9項目です。

- 1) 定例会（新型コロナウイルス禍では定例役員会）の開催
- 2) 町内まち歩き（氷取沢町内探索）
- 3) 横浜市民防災センター体験ツアーの実施
- 4) 磯子区総務課危機管理・地域防災担当との協議
- 5) 中里医院（町内診療所）副院長による「講習会」の開催
- 6) 「減災を学ぼう会」の開催
- 7) アンケートの実施
- 8) 意見交換会の実施
- 9) 会報の発行

そして、活動を通し見えてきたビジョンは、以下の5項目です。

- 1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組
- 2) 町内の避難所確保に向けた取組
- 3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組
- 4) 大災害時の医療対策に対する取組
- 5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組

この5つのビジョンについて「防災まちづくりプラン」として、まとめました。

この度、「防災まちづくりプラン」に至る経緯及び詳細をまとめましたので、是非ご一読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年1月15日

氷取沢防災まちづくりの会会長 野口 明照

～ 目次 ～

☆第1章 「防災まちづくりプラン」に至る経緯 … P1

◇Part1 地域性

- 1) 氷取沢地区について
- 2) 地区としての課題

◇Part2 『氷取沢防災まちづくりの会』発足の準備期間

- 1) 「地域まちづくり支援制度」の出前塾受講
- 2) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足の目的及び組織編成

◇Part3 『氷取沢防災まちづくりの会』活動内容

- 1) 活動年間一覧表 …P2
- 2) 活動内容の詳細 …P3～P6

☆第2章 『防災まちづくりプラン』提案の詳細内容 … P6

◇Part1 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョン …P6

◇Part2 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョンの詳細

- 1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組…P7～P8
- 2) 町内の避難所確保に向けた取組 …P8
- 3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組 …P9
- 4) 大災害時の医療対策に対する取組 …P9～P10
- 5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組 …P10～P11

☆第3章 『氷取沢防災まちづくりの会』の今後の取組 … P11

おわりに … P12

☆第1章 「防災まちづくりプラン」に至る経緯

◇Part1 地域性

1) 氷取沢地区について

氷取沢地区は磯子区（上笹下連合地区南部）と金沢区の境界に位置し、中央には大岡川流域に沿って笹下釜利谷道路が横断した谷間と周りの丘陵地帯を開発して発展した地区です。

地区には戸建主体の氷取沢町町内会と集合住宅の磯子台3団地自治会（磯子台パークハイツ、パイロットハウス磯子台及び興人磯子台マンション）の4自治町内会から構成され、約1,200世帯が居住しています。

また、地区内には土砂災害特別警戒区域及び大岡川の浸水想定区域を有しています。

2) 地区としての課題

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにも関わらず地域防災拠点も統廃合されました。高齢化に伴い坂道が大半の遠く離れた地域防災拠点にすぐには行けない町内住民（以下「住民」という）が増大して来ています。

また、首都直下地震等大震災や記録的豪雨による土砂災害及び水害等大災害を含めた様々な課題に備える事が求められています。

◇Part2 『氷取沢防災まちづくりの会』発足の準備期間

1) 「地域まちづくり支援制度」の出前塾受講

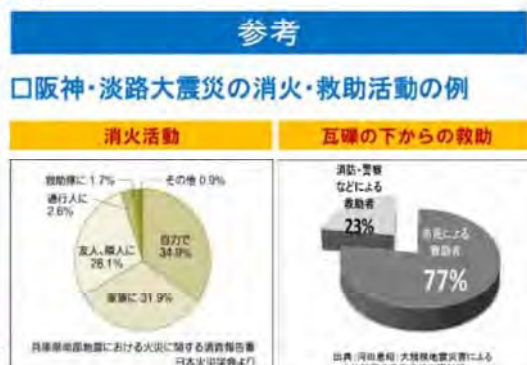
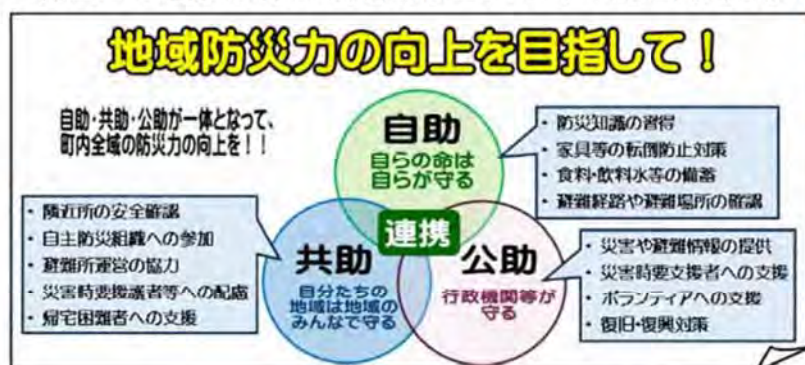
磯子区政推進課による「地域まちづくり支援制度」の出前塾を2016年3月12日に受講しました。



2) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足の目的及び組織編成

支援制度を活用し地域の实情に合わせた首都直下地震及び記録的豪雨等に備えたプランを策定する事を目的とし、「氷取沢防災まちづくりの会」を立上げるために、4自治町内会を母体として会員を募集しました。

市への登録及び地域まちづくり活動助成金交付取得のための各種申請書、会則、構成員名簿、役員選出、活動計画並びに予算書等の策定を2回の準備会及び行政との協議会にて討議した後、発足総会にて確認・承認して、活動は2016年7月に開始しました。



◇Part3 『氷取沢防災まちづくりの会』 活動内容

1) 活動年間一覧表

年度	内 容	詳 細
2016	①定例会	月 2 回開催
	②町内まち歩き	氷取沢町内探索
	③市民防災センター体験ツアーの実施	7月 18・23・31 日
	⑦アンケートの実施	10月 1 日町内全戸配布
	⑨会報の発行	No.1～3 の発行
2017	①定例会	月 1 回開催
	④磯子区総務課危機管理・地域防災担当との協議	9月 27 日開催
	②町内まち歩き	氷取沢町内探索
	⑤中里医院副院長の講習会開催	10月 14 日開催
	⑥第 1 回「減災を学ぼう会」開催	12月 10 日開催
	⑨会報の発行	No.4～8 の発行
2018	①定例会	月 1 回開催
	②町内まち歩き	氷取沢町内探索
	⑥第 2 回「減災を学ぼう会」開催	7月 15 日開催
	⑥第 3 回「減災を学ぼう会」開催	11月 25 日開催
	⑨会報の発行	No.9～11 の発行
2019	①定例会	月 1 回開催
	⑥第 4 回「減災を学ぼう会」開催	7月 14 日開催
	⑦アンケートの実施	9月 1 日町内全戸配布
	⑧意見交換会の開催	2月 8 日開催
	⑨会報の発行	No.12・13 の発行
2020	定例役員会（新型コロナ禍に付き）	月 1 回開催
	⑦アンケートの実施	11月 6 日町内全戸及び地権者配布
	⑨会報の発行	No.14・15 の発行
2021	定例役員会（新型コロナ禍に付き）	月 1 回開催
	⑨会報の発行	No.16・17 の発行
	横浜市地域まちづくり推進委員会への付議	

2) 活動内容の詳細 ※番号は2頁表右番号と同じ

① 定例会

- * 2016年度は、月2回定例会を開催し、活動を通して見えてきた検討課題の協議を行いました。
- * 2017～2019年度は、月1回定例会を開催し、課題に対しての取組の協議を行いました。
- * 2020年度は、新型コロナ感染防止のため定例役員会にて協議し、その結果を会員に報告して意見聴取する等にて計画通りに進める事ができず、2021年度に引き継ぎました。

② 町内まち歩き（氷取沢町内探索）

- * 2016年度は、特徴を知るとともに、課題点の抽出を行いました。
- * 2017年度は、活動を通し、独自のハザードマップ作成の必要性が抽出されました。
- * 2018年度は、地震と豪雨災害等が多数発生し、災害の状況調査と活動の見直し検討実施を行いました。



能見台入口交差点



河川の氾濫・浸水土砂災害、
道路下のトンネル河川に木材・土砂流入による閉塞

③ 横浜市民防災センター体験ツアーの実施 … 2016年7月18・23・31日 首都直下地震を主体とした災害に備え、横浜市民防災センターの体験ツアーを開催し、計40名 参加しました。

《体験内容》

- ・ 防災シアター
- ・ 地震シミュレーター
- ・ 減災トレーニング
- ・ 火災シミュレーター
- ・ 救出救護訓練等のワークショップ

④ 磯子区総務課危機管理・地域防災担当との協議 … 2017年9月27日開催

- * 地域防災拠点の老朽化・収容能力・遠距離等の問題により、町内に同様の機能を有した施設設置について
- * 下水使用やごみ収集が長期不可能になる事について
- * 土砂災害警戒区域及び危険な擁壁について

⑤ 中里医院副院長の講習会 … 2017年10月14日開催

会員を対象に、町内で唯一の診療所である中里医院の副院長に、講習会を開催していただきました。

* 横浜市の災害時医療体制

災害時において医療機関に多く負傷者が殺到し、非常に混乱する可能性により、限られた市内の医療機関の中で混乱なく受診するために大切となる、「平時から地域にある医療機関を知っておく」「緊急度や重症度に応じて、どの医療機関を受診するべきかの判断（医療体制イメージ）」について学びました。

* トリアージ（START法）

人的・物的資源が限られた状況で最大多数の負傷者に最善の医療を施すため、負傷者の緊急度・重症度により医療の優先度を定める「トリアージ」について学びました。

⑥ 「減災を学ぼう会」の開催

計4回開催と同時に、活動に活かすためにアンケート調査を行い、防災まちづくりプランへの反映を行いました。

* 第1回 … 2017年12月10日開催

- ・ 講話「災害時に何が必要なのか」

講師：磯子区役所総務部総務課危機管理・地域防災担当係長

- ・ 女性防災クラブ平塚パワーズ講習会「災害時は助け上手、助けられ上手」

* 第2回 … 2018年7月15日開催

- ・ 女性防災クラブ平塚パワーズ研修会「女性目線での震災に備えて」

* 第3回 … 2018年11月25日開催

- ・ 女性防災クラブ平塚パワーズ研修会
- ・ 災害時に簡単に作れる「カップケーキ」

* 第4回 … 2019年7月14日開催

- ・ これまでの活動発表
- ・ 防災まちづくりプランの必要性和5つのビジョンの提案
- ・ グループでの実習

災害時に役立つ「パッキング」「食器の作り方」

「新聞紙とラップを活用し防寒対策・骨折時の応急処置」等



⑦ アンケートの実施

- * 2016年10月実施 … 10月1日町内全戸配布
会報 No.1 と同時に、住民の意見を反映した活動計画を作成するために、アンケートを実施しました。その結果については、会報 No.2 にて報告を行いました。
- * 2019年9月実施 … 9月1日町内全戸配布
会報 No.12 にて、「防災まちづくりプランのたたき台」についての、アンケートを実施しました。その結果については、会報 No.13 にて報告を行いました。
- * 2020年11月実施 … 11月6日町内全戸及び地権者配布
会報 No.14 にて、「防災まちづくりプラン5つのビジョン」掲載と同時に、アンケートを実施しました。その結果は、会報 No.15 にて報告を行いました。

アンケート回収率：

【住民】

回収率52% (597世帯/1145世帯)、5項目の取組への賛成 96%~98%

【住民以外の施設・企業代表等地権者】

回収率72% (36人/50人)、5項目の取組への賛成 97%~100%

⑧ 意見交換会の開催

「防災まちづくりプランのたたき台」についての説明、及び多くの住民の方の意見を反映させるため、2020年2月8日に実施しました。

⑨ 会報の発行

No.1~No.15 を発行し、町内全戸に配布を行いました。

発行の目的は、氷取沢防災まちづくりの会の周知及び活動内容を紹介・報告するとともに、住民の方の意見を「防災まちづくりプラン」に反映させるためです。

《主な記載内容》

- * 防災まちづくりの会の活動状況の報告
- * 「減災を学ぼう会」の報告
- * アンケート及びアンケート結果の報告
- * 中里医院副院長による講話
 - ・ 横浜市 of 医療体制
 - ・ トリアージ
- * 横浜市民防災センター
 - ・ 体験ツアー
 - ・ 救出救護等のワークショップ
- * 防災意識の向上を目指した「いざという時に備えて」の特集
 - ・ 家族との安否確認は大丈夫ですか
 - ・ すぐに備えられる備蓄品を考えてみよう
 - ・ 家庭でできる安全対策には何がある
 - ・ 外出先でいつも身につけておきたいものは何



⑩ 2021年度の活動内容（含む予定）

- * 定例役員会（新型コロナ禍に付き）月1回開催
報告・協議を重ね、会員の意思疎通を図る
- * 横浜市地域まちづくり推進委員会への付議
活動によってまとめ上げた5つのビジョンを、「防災まちづくりプラン」として決定し、提出をする
- * 会報の発行 … No.16を発行し、プラン認定・組織認定に向けた活動・経過報告を住民へ行う
No.17を発行し、確定したプランの内容等について住民に報告を行う
- * 今後の活動 … 来年度に向けて、活動の計画を行う

☆第2章 『防災まちづくりプラン』提案の詳細内容

◇Part1 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョン

「氷取沢防災まちづくりの会」は、「防災まちづくり」を主体として、4自治町内会が連携しながら創意工夫し、地域のコミュニティ・防災・減災力の向上に努め、安全で快適な魅力ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目標としています。また、首都直下地震等の大震災及び記録的豪雨による大災害（以降、大災害と略称）時の地域の課題に備えたプランを策定する事を目的としています。

第1章の「防災まちづくりプラン」に至る経緯に記載した、全戸に配布したアンケート及び「減災を学ぼう会」でのアンケートでは、2007年度の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず地域防災拠点が統廃合されたことによる不満と、住民の高齢化により「坂道が大半の遠く離れた地域防災拠点には歩いていけない」と言った住民の意見が数多く出されています。更に、近年の大災害の事例調査結果から、大災害時のごみ・トイレ問題並びに診療所が1箇所しかない事からの医療対策も氷取沢地域にとっては重要な課題です。従って、地域防災拠点と連携して自主防災活動を行うために町内に4自治町内会の連携防災まちづくり拠点を設け、地域の課題に備えた機材類を備蓄・管理し、救援救助・応急手当等の訓練と住民が防災・減災情報を入手できるようにします。また、家屋が倒壊し、地域防災拠点に行けない被災した要援護者・高齢者の避難場所に関しては、福祉避難所等の避難施設が開設される迄の間、避難所となる場所の確保を検討します。

以下に、5項目のビジョンに分け「防災まちづくりプラン」として、まとめました。

- 1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組
- 2) 町内の避難所確保に向けた取組
- 3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組
- 4) 大災害時の医療対策に対する取組
- 5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組



◇Part2 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョンの詳細

1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組

《現状の課題と目指す目標》

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず地域防災拠点も統合され、町内には地域防災拠点がなくなりました。地域防災拠点と連携して自主防災活動を行うために町内に「4自治町内会の連携防災まちづくり拠点（以下、防災まちづくり拠点と略称）設置」を目指します。

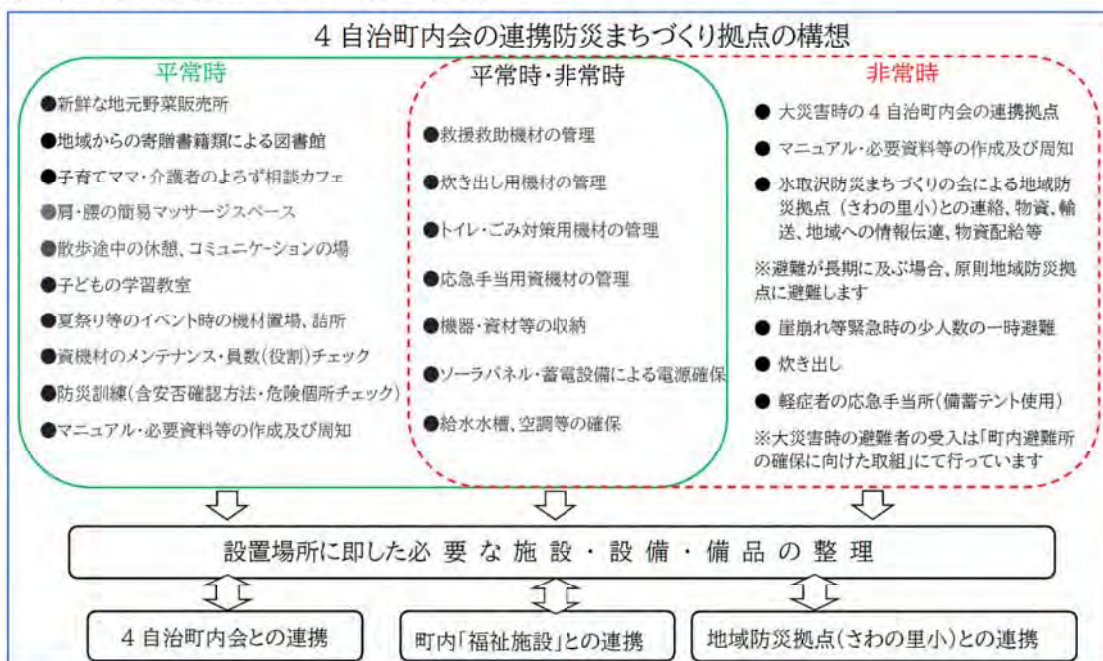
《解決のための方策》

防災まちづくり拠点としての建物の設置と備蓄機材のメンテナンス、防災訓練及び応急手当所（仮設テント等）等の活動が可能なスペースを確保します。防災まちづくり拠点の設置場所としては、土砂災害等に対して安全性が維持可能な場所とし、現時点では住民から提供を受けている空き地等を候補地としつつ、引き続き適地の調査・検討を行います。

また、防災まちづくり拠点については、防災まちづくり拠点の構想及び備蓄資機材リスト（案）を基に、関係行政等の助言を得ながら、以下の事項を検討します。

- ・ 地域の課題に備えて必要資機材（救援救護、ごみ・トイレ対策、応急手当及び炊き出し用資機材等）とその数量について検討します。
- ・ 大災害時には4自治町内会が連携・協力して復興活動を行うための拠点とします。平常時は住民が利活用しながら防災・減災情報入手ができる場所であるとともに、備蓄機材のメンテナンス・備蓄機材を活用した防災訓練等について検討します。
- ・ 大災害時の避難が困難な要援護者等の被災者の避難先に関しては、「町内の避難所確保に向けた取組」にて検討します。

なお、氷取沢公園には、防災倉庫を建てるための条件を踏まえながら防災倉庫の整備を進め、必要資機材とその数量について検討します。



備蓄資機材リスト(案)

<p>i 救援救助機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防塵マスク及びゴーグル、皮手袋及び軍手 ・ヘルメット及びヘッドライト ・投光器 ・ハンドマイク ・ロープ(200m) ・掛矢(全長970mm大木槌) ・アルミ梯子 	<ul style="list-style-type: none"> ・救助用靴(長靴)、雨具 ・ガス及びガソリン発電機 ・担架用ポール及び毛布 ・スコップ(全長970mm) ・大ポール 	<p>iii 応急手当用資機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒用水 ・マスク ・松葉杖及び毛布類 ・ラップ、レジ袋及び雑誌等 ・応急手当診療所設置用テント 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療用手袋 ・ガーゼ、包帯
<p>ii トイレ・ごみ対策用資機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ識別看板 ・ブルーシート及び固定金具 ・消臭剤 ・簡易トイレ ・段ボールトイレ用資機材 ・猫砂 ・テント 	<p>iv 炊出し用機材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック、レンガ等のかまど用機材 ・竹薪、杉の葉、新聞紙及びライター 	<p>v その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアカー ・保温シート ・暖房機 ・土嚢袋 ・ソーラーパネル及び蓄電池設備 ・情報集約用ホワイトボードシート(含むマグネット) ・筆記用具類…マーカー・ハサミ・画版等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーシート ・給水用水槽 ・仮眠用毛布 ・消火器

2) 町内の避難所確保に向けた取組

《現状の課題と目指す目標》

『小学校の統廃合により、町内にあった地域防災拠点がなくなり、大災害後に坂道が大半の遠く離れた、老朽化し災害規模によっては収容能力が不足する可能性がある「地域防災拠点(さわの里小学校)」に行けない。』といった住民意見が寄せられています。

住民意見を反映するため、被災した要援護者や体の不自由な方々等の避難先を町内の施設等に受入れてもらう事を目指します。



《解決のための方策》

- ・ 市と協定を結んでいない町内の福祉施設との地域交流協定書の締結等により、被災した要援護者や体の不自由な方を受入れて頂くとともに、協力して地域防災拠点に届く情報・物資の地域及び施設への一括運搬体制等を構築します。
- ・ 各自治町内会では、高齢者及び身障者等の要援護者の要介護認定の有無と同伴介護者を定期的に確認し、本人同意のもとに「災害時要支援者名簿」を独自に作成します。これを基に福祉施設等と協議して、定期的に名簿等の更新を行い、いざという時に活用できるよう備えます。
- ・ その他、町内の大型店舗等の駐車場での避難場所を確保するために、事業者と交渉し、協定書を締結します。

3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組

《現状の課題と目指す目標》

大災害時は公共下水道の被災状況の把握が困難で、トイレが使用可能でも水を流せるかどうか判断できません。特に、磯子台3団地は震度5強以上の大震災時は排水管の点検後でない、排泄物や生活排水が流せない事が徹底されていません。



排泄物は生活ごみ（可燃ごみ）とともに収集運搬されますが、大震災後は1週間以上収集車が来ない事を想定した対策が必要です。長期保管場所を定め、保管場所の課題及び廃棄ルール等をまとめ、いざという時に備えます。また、家具・電化製品及び瓦礫等の災害ごみが大量に発生する事も想定しなくてはなりません。生活ごみ及び災害ごみは、運搬・廃棄ルールに対する課題をまとめて、町内に災害ごみが山積みとなり、生活ごみ等と混ざらないようにする事が必要です。

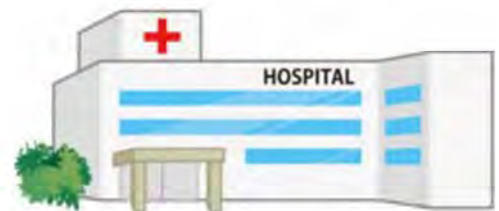
《解決のための方策》

大災害後の下水放流の可否に関しては、今後、行政等の助言を基にまとめる事とします。磯子台3団地に関しては、大災害後の排水管の点検と排水を流すための判断は、管理組合と協議します。排泄物を含んだ生活ごみ等の長期保管場所は各自治町内会において、現在の収集場所を主体として検討し、氷取沢町ハザードマップに明記していきます。長期保管場所での鳥・衛生・飛散対策と必要な資機材等のリストアップ及び保管する際のルール化の構築を行います。また、災害ごみは生ごみ等と混在しないように、今後、運搬・廃棄ルール等を構築して、いざという時に備えます。

4) 大災害時の医療対策に対する取組

《現状の課題と目指す目標》

町内には診療所が1箇所しかなく、中等症者及び重症者を受入れる医療機関は近隣にはありません。また、幹線道路である笹下釜利谷道路が通行不可や渋滞になった場合のバイパス道路がありません。



軽症者の重症化を防ぐため、手当てができる部隊及び地域防災拠点へのルートが土砂災害等によって通行不可になった場合に備えた、町内の連携による復旧部隊の構築を目指します。

《解決のための方策》

横浜市の医療体制及びトリアージ（次ページの参考資料を参照）等の啓発を行うとともに、地域の診療所と連携した応急手当のワークショップの継続実施による軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊を育成し構築します。

- ・ 応急手当用資機材を防災まちづくり拠点に備蓄し、備蓄しているテントにて応急手当所を防災まちづくり拠点に併設できるようにします。

- ・ 地域防災拠点へのルートが土砂災害等にて通行不可になった場合は、公助が届くのに時間を要するため、町内の重機を保有する会社と連携して復旧部隊を構築します。
- ・ 笹下釜利谷道路が通行不可になった時の孤立化を防ぐため、能見台方面への道路の安全性を主体に調査・検討し、氷取沢町ハザードマップに載せます。

＜参考資料 会報 No.5（2017年10月21日発行）に掲載＞

◆ 横浜市の災害時の医療提供体制
 災害時には、医療機関に多くの患者が押し寄せ、避難に際する可能性が考えられます。限られた市内の医療機関の中で、避れなくてはならない被災地を救済するために大切なことは、
 1. 平時から、地域にある医療機関を知っておく。
 2. 緊急時の優先順位を決めておく。
 ※災害時には、被災地において、被災者の災害時の医療提供体制イメージ

◆ 災害時の医療提供体制イメージ

重症	………災害拠点病院へ
中等症	………災害時救急病院へ
軽症	………診療所へ
極めて軽微の負傷	……市民の自助・共助による応急手当

◆ 災害時医療提供体制

施設名	所在地
横浜聖隷医療院	横浜市東区磯子2-1-1
横浜中央総合病院	横浜市東区下宮前2-6-1
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-1
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-2
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-3
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-4
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-5
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-6
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-7
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-8
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-9
横浜中央市民病院	横浜市東区中宮前2-1-10

◆ 災害時の救護活動に必要な知識と技術について
 ★ トリアージ (START法)
 人命・物的被害が膨らんだ状況で最大多数の傷病者に最良の医療を提供するため、傷病者の緊急性・重症度により治療の優先度を定めることがトリアージの目的です。
 救護者に対し、傷病者の病状が暗に強い場合に、判定基準を出来るだけ正確かつ簡潔にしたのがSTART法である。これは、救急救急隊で用いられる外傷初期対応ガイドライン日本版にて、プライマリ・サーベイで用いられるABCDEアプローチに基づいたものとなっており、具体的には以下のようになる。
 A: 呼吸はしているか？
 歩ける → 緑 → 状態の悪化がないと見込める
 歩けない → 黒
 口調の考えを聞き取りで自己判断させず本人に起立させ歩行出来るかどうか確認することが重要。
 B: 呼吸はしているか？
 気道確保をして、呼吸がない → 黒
 気道確保がなければ呼吸できない → 黒
 気道確保がなくても呼吸できる → 赤
 C: 出血はしているか？
 出血量 (30分/分以上) もしくは浸透度 (10分/分未満) → 赤
 10~29分/分以上 → 黒

5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組

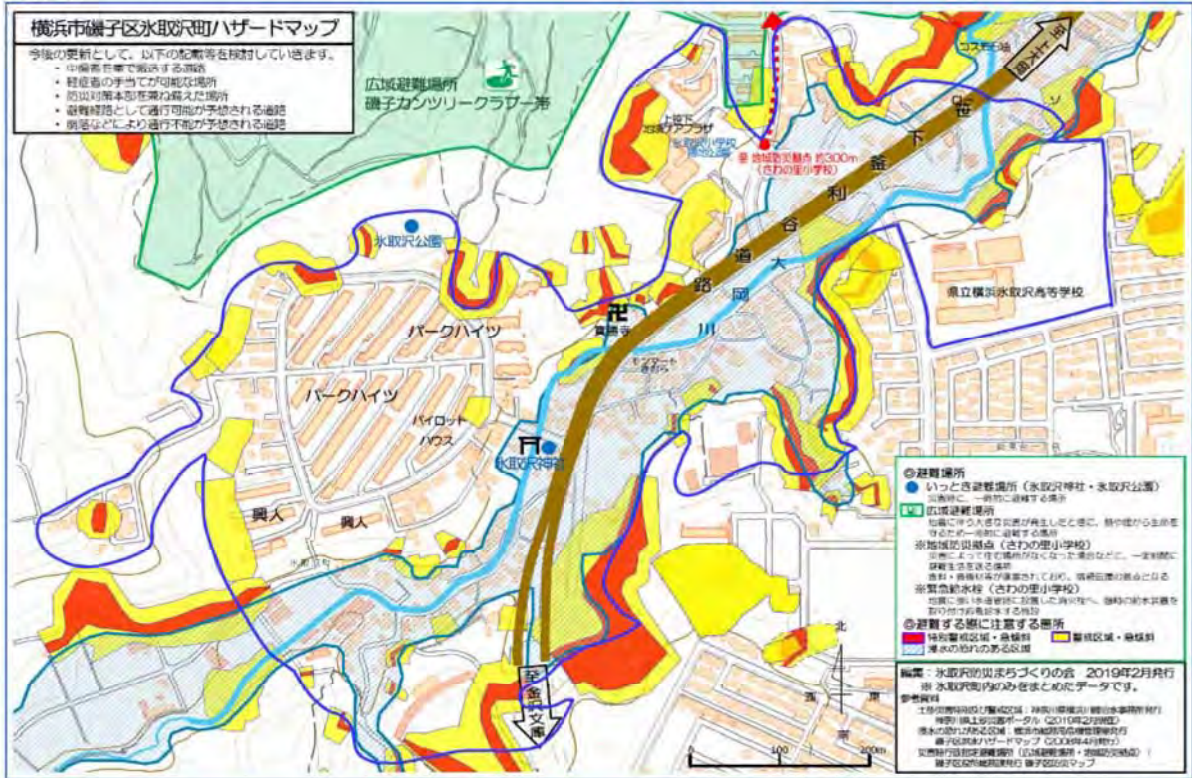
《現状の課題と目指す目標》

各種ハザードマップ等が行政から発行されていますが、地域の土砂、洪水及び浸水災害等の危険箇所、防災及び減災情報が一見できる、地域限定の拡大されたハザードマップは現在ありません。2019年度に様々な情報を可視化し独自に作成した「氷取沢町ハザードマップ（参考図）」を基に、継続的なバージョンアップを目指します。

《解決のための方策》

氷取沢町ハザードマップ（参考図）を更新し、危険箇所、防災及び減災情報を追記するとともに、「減災を学ぼう会」等にて住民からの意見聴取に努め、継続的にバージョンアップを行います。バージョンアップされた「氷取沢町ハザードマップ」は、全戸配布するとともに防災まちづくり拠点に、誰もが閲覧できるように拡大版を掲示します。

<参考図>



☆第3章 『水取沢防災まちづくりの会』の今後の取組

- 1) 防災まちづくりプラン認定後は「4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組」(2020年11月実施アンケートでの回収率52%中の住民の約98%が賛成、及び回収率72%の住民以外の施設・企業代表等の地権者の100%が賛成)を最重要課題として、建設を目指します。
- 2) 他の4項目の取組に対しては、「解決するための方策」を短～長期に分類します。
 - * 排泄物を含んだ長期保管場所は各自治町内会ごとに決め、衛生・鳥対策等含めたルール化(案)等を住民に報告して、いざという時に備えます。
 - * 軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊の育成のため、応急手当カリキュラムを作成します。
- 3) 応急手当及び復旧部隊等含め、災害に強いまちづくりを継続的に推進するため、会員募集を行うとともに各地で発生している大災害を分析等にて5項目の取組以外の取組の検討を随時行います。

おわりに

私ども「氷取沢防災まちづくりの会」は、魅了あるまちづくりに向け、さらに力強く活動してまいります。

氷取沢地区4自治町内会が連携しながら創意工夫し、コミュニティ・防災力向上に努め、「安全で快適な災害に強いまちづくり」を継続的に推進することを目指しています。

第1期は首都直下地震及び記録的豪雨等大災害に備えた氷取沢地区「防災まちづくりプラン」を策定することを目的として、「5項目の取組」を作成しました。

第2期は「5項目の取組」に行政の助言を得ながら取組み、常に住民・地権者等に報告し、地域の意見を反映して遂行してまいります。

また、「安全で快適な災害に強いまちづくり」を継続的に推進することを目指していますので、「過去に発生した大災害を分析する」「地域の意見を聴取する」等、新たな取組を創出していきます。



2022年1月15日
氷取沢防災まちづくりの会

氷取沢防災まちづくりの会「活動計画書」

§1_目標

4自治町内会が連携しながら創意工夫し、地域のコミュニティ・防災・減災力の向上に努め安全で快適な魅了ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目標とする。

§2_5項目の取組

4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置を最重要取組とする。

1_4自治町内会の連携防災まちづくり拠点(以下、防災まちづくり拠点と略称)設置の取組

2_町内の避難所確保に向けた取組

3_大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組

4_大災害時の医療対策に対する取組

5_氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組

§3_活動計画

1_防災まちづくり拠点設置の取組		
'22年度	①防災まちづくり拠点設置概要及び必要な人材等の募集要綱による会員募集 ②(仮名)防災まちづくり拠点検討チーム(以下、検討チームと略称)による設置候補場所の検討 ③検討チームによる防災まちづくり拠点の構想見直し ④検討チームによる備蓄資機材リスト見直し	・会員募集ポスター及び会報発行 ・減災を学ぼう会開催
'23年度	①防災まちづくり拠点設置場所の比較検討 ②他の検討チームからの備蓄資機材類の取り纏め ③備蓄資機材類の見積、購入優先順位及び資金検討 ④防災まちづくり拠点構想の更新	・会報発行 ・減災を学ぼう会開催
'24年度以降	①防災まちづくり拠点構想・備蓄機材の住民意見反映 ②防災まちづくり拠点設置に係わる用地調整・協議 ③防災まちづくり拠点設置費用の詳細見積 ④防災まちづくり拠点の設置申請～設置～実績報告 ⑤備蓄資機材類の購入計画書の作成及び整備 ⑥備蓄資機材類を活用した防災訓練 ⑦備蓄資機材類のメンテナンス計画等の整備 ⑧平常時の防災まちづくり拠点利活用の公募	・会報及びアンケート発行 ・減災を学ぼう会及び防災訓練開催
2_町内の避難所確保に向けた取組		
'22年度	①大災害時に於ける町内福祉施設への応援チーム人材等の募集要綱による会員募集 ②施設応援チームの結成及びチームによる計画見直し ③市と協定を結んでいない町内福祉施設との協力体制を含む細則検討 ④各自治町内会毎に「要援護者名簿(本人同意)」の作成(定期的に更新)	・会員募集ポスターの発行 ・町内福祉施設での応援チームの研修 ・町内福祉施設との協議の開催

'23年度	<p>①大災害時に地域防災拠点に届く情報・物資の運搬協力体制等の細則検討</p> <p>②町内福祉施設が開催する防災訓練等のイベントへの参画等による施設との交流推進</p> <p>③大型店舗等の駐車場での避難場所検討</p>	<p>・町内福祉施設での応援チームの研修</p> <p>・町内福祉施設との定期的協議</p>
'24年度以降	<p>①町内福祉施設との交流</p> <p>②大型駐車場を保有する会社と大災害時におけるいつとき避難場所としての運用に向けた協議</p> <p>③大型駐車場を保有する会社と大災害時の避難場所に関する協定書の締結</p> <p>④大災害直後に家屋が倒壊し、地域防災拠点に行けない年老いた方々の一時避難所の確保</p>	<p>・町内福祉施設での応援部隊への研修</p> <p>・町内福祉施設との定期的協議</p> <p>③及び④は長期取組とする。</p>
3_大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組		
'22年度	<p>①ごみ・トイレ問題募集要綱を基にした会員募集</p> <p>②各自治町内会毎に生活ごみと災害ごみの長期保管場所の検討</p> <p>③長期保管場所での鳥・衛生・飛散対策と必要な資機材のリストアップ</p> <p>④磯子台3団地は震度5強以上の地震後の排水管点検方法の調査</p> <p>⑤戸建世帯への大震災後の排水管点検要領の配布</p>	<p>・会員募集ポスターの発行</p> <p>・戸建住民への生活排水配管点検要領書の配布</p>
'23年度	<p>①各自治町内毎に長期保管場所を記載した地図の全戸配布と意見聴取等のアンケート</p> <p>②ごみ・トイレ問題に必要な備蓄資機材リストの全戸配布と意見聴取等のアンケート</p> <p>③回収した長期保管場所及び備蓄資機材リストの意見書の分析と住民意見の反映</p> <p>④磯子台3団地の管理組合との大震災後の生活排水の排出可否判定方法についての協議及び協議結果の取り纏め</p>	<p>・アンケート配布と意見書の回収</p> <p>・住民意見を反映したアンケート結果の報告</p> <p>・磯子台3団地住民への報告書作成・全戸配布</p>
'24年度以降	<p>①住民意見を反映したごみ長期保管場所及び備蓄機材リストを全戸配布するとともに長期保管場所は氷取沢町防災ハザードマップに明記</p> <p>②磯子台3団地住民に大災害後の生活排水の排出可否判定方法及び周知の取り纏め</p> <p>③大災害時の生活ごみ及び災害ごみの長期保管する際のルール等の構築</p> <p>④大災害時のごみ・トイレ問題の周知方法の検討及び訓練等</p>	<p>・住民説明会の開催</p> <p>災害ごみの長期保管場所は長期取組とする。</p>

4_大災害時の医療対策に対する取組		
'22年度	①応急手当チームを編成する為、医師・看護師及び地域防災拠点での防災訓練(応急手当)講師経験者からの募集 ②応急手当チームによるワークショップにて応急手当チームへの会員募集 ③応急手当に必要な資機材のリストアップ	・会員募集ポスターの発行 ・町内診療所による応急手当部隊の研修 ・応急手当ワークショップの開催
'23年度	①リストアップした応急手当備蓄機材についての町内診療所からの助言受講 ②地域防災拠点へのルートが土砂災害等にて、通行不可になった際に備えた町内の重機保有会社との連携 ③笹下釜利谷道路が通行不可になった際に備えて、能見台方面への道路の安全性を主体とした調査・検討	・町内診療所による応急手当部隊の研修 ・応急手当ワークショップの開催
'24年度以降	①応急手当備蓄機材の整備 ②町内復旧協議会の構築 ③重症者等を災害拠点病院等に搬送する安全ルートの検討結果を氷取沢町ハザードマップへの記載	・応急手当に係わる研修・ワークショップ ③は長期取組とする。
5_氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組		
'22年度以降	①氷取沢町ハザードマップ(参考図)の活動対象区域図及び浸水の恐れがある区域等行政発行最新図への更新 ②中等傷者及び重症者を車で災害時救急病院及び災害拠点病院に搬送する道路調査結果の記載 ③軽症者の応急手当が可能な場所の記載 ④防災まちづくり拠点の場所の記載 ⑤通行危険箇所及び不能が予想される道路の記載 ⑥その他、防災・減災情報に係わる情報の追記 ⑦継続的にバージョンアップを行い、全戸配布するとともに防災まちづくり拠点に拡大版を保管	①'22年度中に氷取沢町ハザードマップ発行 ②減災を学ぼう会にてハザードマップに記載事項を住民から聴取

年度別活動実績書

年度	内 容	詳 細
2016	①定例会	月2回開催
	②町内まち歩き	氷取沢町内探索
	③市民防災センター体験ツアーの実施	7月18・23・31日
	④アンケートの実施	10月1日町内全戸配布
	⑤会報の発行	No.1~3の発行
2017	①定例会	月1回開催
	②磯子区総務課危機管理・地域防災担当との協議	9月27日開催
	③町内まち歩き	氷取沢町内探索
	④中里医院副院長の講習会開	10月14日開催
	⑤第1回「減災を学ぼう会」開催	12月10日開催
	⑥会報の発行	No.4~8の発行
2018	①定例会	月1回開催
	②町内まち歩き	氷取沢町内探索
	③第2回「減災を学ぼう会」開催	7月15日開催
	④第3回「減災を学ぼう会」開催	11月25日開催
	⑤会報の発行	No.9~11の発行
2019	①定例会	月1回開催
	②第4回「減災を学ぼう会」開催	7月14日開催
	③アンケートの実施	9月1日町内全戸配布
	④意見交換会の開催	2月8日開催
	⑤会報の発行	No.12・13の発行
2020	①定例役員会（新型コロナ禍に付き）	月1回開催
	②アンケートの実施	11月6日町内全戸及び地権者配布
	③会報の発行	No.14・15の発行
2021	①定例役員会（新型コロナ禍に付き）	月1回開催
	②会報の発行	No.16・17の発行
	③横浜市地域まちづくり推進委員会への付議	

氷取沢防災まちづくりの会 会則

第1章 総則

(名称及び事務局)

第1条 本会は氷取沢町町内会、磯子台パークハイツ自治会、パイロットハウス磯子台自治会、興人磯子台マンション自治会（以下4自治町内会という。）を母体とした、氷取沢防災まちづくりの会（以下「会」という。）と称し、事務局を磯子区氷取沢町204-40番地 興人磯子台マンション管理事務所に置く。

(区域)

第2条 会の対象区域は、横浜市磯子区氷取沢町とし、別に定める活動対象地域図に示す区域とする。

(目標と目的)

第3条 会は、民主主義の精神に基づき会員相互に協力し、防災まちづくりを主体として、4自治町内会が連携しながら創意工夫し、コミュニティ・防災・減災力の向上に努め、安全で快適な魅力ある地域主体の災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目標とする。又、首都圏直下地震及び記録的豪雨時の地域の課題に備えたプランを策定することを目的とする。

(活動内容)

第4条 会は、前条の目的を達成するため、以下の活動を行うものとする。

横浜市の地域まちづくり支援制度を基に防災まちづくりに関する、地域の問題点の抽出から検討活動を経て防災まちづくりのプランを策定する。策定したプランに基づき活動/整備する。

第2章 会員及び役員

(会員)

第5条 会の会員は、第2条に定める区域内において、居住する世帯主若しくはこれに準ずる者、店舗等の事業を営む者、土地、建物等を所有する者又は地域まちづくりの活動を行う者を対象者とし、会への入会、脱会は妨げないものとする。

(役員を選任)

第6条 会は、会員から以下の役員を選出する。

- | | |
|--------------------|----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 3名 |
| (3) 理事 | 4名 |
| (4) 書記 | 1名 |
| (5) イベント部会長 | 1名 |
| (6) 広報部会長 | 1名 |
| (7) <u>地域交流部会長</u> | 1名 |
| (8) 会計 | 1名 |
| (9) 監事 | 2名 |

(役員の仕事)

第7条 会長は、会を代表し、会務を統轄する。

1. 会長は、行政等外部諸機関に図書を提出及び重要事項を検討する際は適宜、役員会を開催して審議する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長の指示に基づく職務を遂行し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けた時は、その職務を代理する。尚、副会長は4自治町内会より各1名を選出する。

- 3 理事は、4自治町内会の役員とし、4自治町内会と会との調整を図り、かつその他、会の運営に関することを審議決定する。
- 4 書記は、定例会及び総会等の会議録を作成する。尚、書記が出席出来ない時は会長が任命する代理人が書記を代行する。
- 5 イベント検討部会長は防災に係る出前塾等の講習会やワークショップ等のイベントを担当する。
- 6 広報部会長は、会報やアンケート等の作成と発行を担当する。
- 7 地域交流部会長は、横浜氷取沢高等学校、各種施設等との「防災に関する交流・連携」を担当する。
- 8 会計は、会の会計を担当する。
- 9 監事は、適宜、会計監査を実施する。

(役員任期)

第8条 役員任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

(役員解任)

第9条 会は、会則に違反又は会の目的に反する行為があったと認めるときは、総会の決議により役員を解任することができる。

第3章 会の運営

(総会)

第10条 総会は、年一回会長が招集し、その総会において、出席した会員の中から議長を選出する。

- 2 総会は、次の事項を審議決定する。

- (1) 予算、決算に関すること。
- (2) 役員選任に関すること。
- (3) 会則に関すること。
- (4) その他会務運営上必要な事項

- 3 会長は、必要があると判断した場合、又は会員の要求があった場合、臨時に総会を開催することができる。

- 4 総会は原則として公開とする。

- 5 総会の開催は、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

- 6 議事は、出席会員の過半数で決する。

(経費)

第11条 会の運営に要する経費は、4自治町内会からの拠出金、寄附金及びその他の収入をもって充てる。

尚、4自治町内会の拠出金の割合は世帯数比率による。

(会計年度)

第13条 会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日とする。

(剰余金の取り扱い)

第14条 剰余金は会の資産とし、防災資機材の調達等の会が必要と認可された際に活用する。

尚、資金の活用額は会員の2/3以上の賛成にて成立する。

第4章 雑則

(細則の制定)

第15条 本会則施行のため必要な細則は、総会の承認を経て定める。

(会則の改廃)

第16条 この規約の改廃については、総会出席会員の過半数の同意を必要とする。

附 則

1 この会則は、2016年5月28日から施行する。

2 会の初年度の会計年度は、第13条の規定にかかわらず、会の設立した日から当該年度の3月31日までとする。

制定年月日	改訂0	2016年05月28日	オリジナル
改訂年月日	改訂1	2017年03月11日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂2	2017年06月10日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂3	2018年03月10日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂4	2019年03月02日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂5	2020年03月15日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂6	2021年03月27日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改訂7	2021年06月25日	改訂部はアンダーラインにて明記した。
改訂年月日	改定8	2021年08月21日	改訂部はアンダーラインにて明記した。

活動対象地域図

資料7

さわの里小学校
(地域防災拠点)

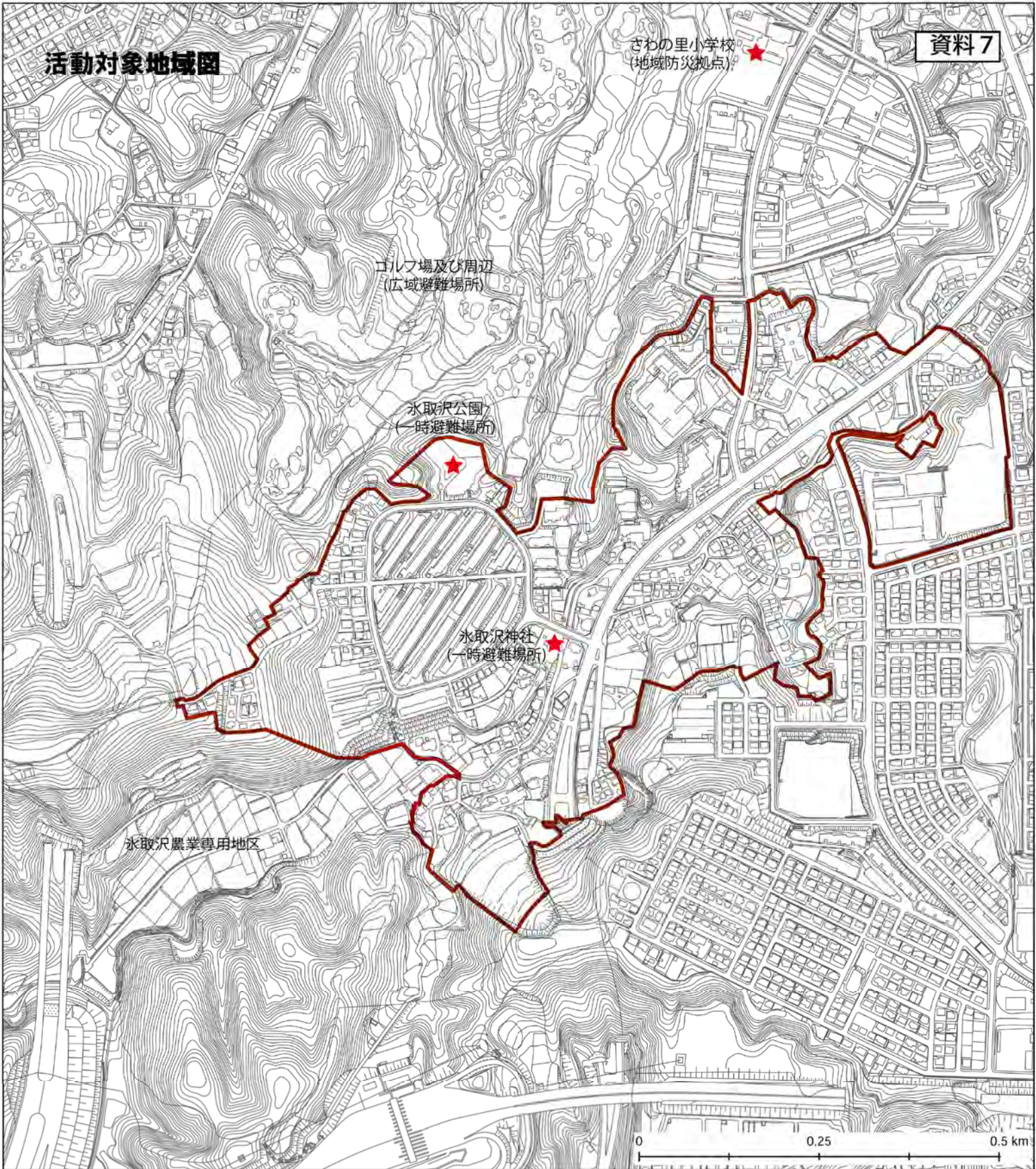
ゴルフ場及び周辺
(広域避難場所)

水取沢公園
(一時避難場所)

水取沢神社
(一時避難場所)

水取沢農業専用地区

0 0.25 0.5 km





『氷取沢防災まちづくりの会』 会報 No.1

発行日 平成 28 年 10 月 1 日
文責 氷取沢まちづくりの会
作成 広報グループ

氷取沢町内住民の皆様

氷取沢防災まちづくりの会より「会報 No.1」及び「アンケート」のお願い

「氷取沢防災まちづくりの会」は、平成 28 年 3 月 12 日に区政推進課による「まちづくり支援制度」に係る「出前塾」を受講後、4 自治町内会を母体として会員を募集し、活動を始めました。現在の会員数は 32 名となっております。この会は、意見交換や勉強会を通して、コミュニティ力と防災力の向上に努めながら、氷取沢町の皆さんが協力し合い、この地域の实情に合わせた首都圏直下型地震及び集中豪雨に備えたプランを策定していくことが目的です。また、横浜市に登録と助成金の交付を受けて活動しています。

今回は、氷取沢町内住民の皆様へ、「氷取沢防災まちづくりの会」の現在までの活動を、会報 No.1 として報告させていただきます。

併せて、今後の活動に反映させるため、アンケートを実施させていただきます。

ご協力のほどよろしくお願いいたします。



1. 現在までの活動報告

① 「氷取沢防災まちづくりの会」発足総会

5 月 28 日 17 時から氷取沢神社社務所にて開催

市への会の登録/市からの活動助成金交付を得る為の各種申請書類、会則、構成員名簿、役員選出、活動計画/スケジュール、予算書等の策定を 2 回の準備会及び行政との協議会にて討議しました。その結果を総会にて確認/承認し、活動を始めました。

② 定例会議の主な内容

7 月より原則毎月の第 2、4 土曜日の 19 時から氷取沢神社社務所にて開催

- * 防災に係る地域の問題点を抽出する為の氷取沢町内散策結果の報告、討議
- * アンケートによる地域の問題点の抽出についての討議
- * 会員を 5 グループ(G)に分け、1G は会報/アンケート作成、他の 4G は地域の問題点を深堀し、討議
- * 横浜市民防災センター団体体験ツアーの公募/実施、報告書を作成
- * 会の活動をサポートする、市に登録されているコーディネーターの派遣要請を市と協議中
- * 市から推薦頂いたコーディネーターの方に定例会に出席願ひ、面談を実施
- * 会報 NO.1 及びアンケートの作成/発行



いつ起こるかわからない
災害に対して
強いまちづくりに
参画しませんか!!



連絡先 氷取沢防災まちづくりの会

会長 [REDACTED]

後援：氷取沢町内 自治町内会 [REDACTED]

氷取沢町 [REDACTED]

異人磯子台マンション [REDACTED]

磯子台パークハイツ [REDACTED]

パイロットハウス磯子台 [REDACTED]

③ 横浜市民防災センター団体体験ツアー

7 月 16 日(月)16 名 7 月 23 日(土)14 名 7 月 31 日(日)10 名が参加

ア. ツアーは 4 か所のブースにて、災害に役立つシミュレーション体験が行われた

- * 災害シアター
迫力ある映像(180 度画面)で、地震発生時の避難に対する意識向上訓練となった
 - * 地震シミュレーター
過去発生した実際の地震を映像で見ながら体験し、起震車とは異なった地震の恐ろしさが実感できた。又、安全確保と避難行動を考えさせられた
 - * 減災トレーニング
トレーニングルームの中に入り、災害発生前の防災準備の重要性を考えさせられた
 - * 火災シミュレーター
火災発見時の対応訓練を受け、消火器の使い方と消火訓練を体験した
建物での充満した煙の中における避難訓練を受けた
- イ. ツアー後、30 分程度の救出救護訓練とワークショップを受け、災害時に役立つ訓練が受けられた

④ 氷取沢町内散策 氷取沢地域内を歩き、特徴を知るとともに問題点の抽出

ア. 氷取沢町の特徴

- * 大岡川源流の谷間から東北に細長く延び、丘陵を有した崖が多く、地形が多様化している
- * 主要道路は各方面に繋がる笹下釜利谷道路があり、本道路と大岡川沿いを主体とした地域
- * 区境界に位置し、氷取沢市民の森・磯子カンツリーと隣接し緑に恵まれている
- * 町内に氷取沢高校・地域ケアプラザ・介護保険施設・特別養護保健施設・養護施設・氷取沢神社・宝勝寺・氷取沢公園・氷取沢小学校跡公園・震専地区等がある
- * 世帯数は約 1,200、その約 80%が磯子台団地周辺に集中している
- * 磯子台団地周辺の開発後、約 40 年が経過し、少子高齢化が進行している
- * 細長く多様な地形に対し、いっつき避難場所は氷取沢神社・氷取沢公園の 2 か所のみ
- * 首都圏直下型地震/集中豪雨に備えて、氷取沢町全体を包括する防災拠点がない
- * 医療機関は [REDACTED] 医院 [REDACTED] 歯科医院の 2 か所のみである

イ. 散策時に気付いた問題点

- * 丘陵地帯を有し、土砂災害警戒区域となっている崖が多い
- * 川の上部に設置された歩道の危険性
- * 介護保険施設・特別養護老人ホーム等との防災協議の必要性
- * 氷取沢公園・氷取沢神社以外のいっつき避難場所と町内の防災拠点の必要性



2. 氷取沢地域住民の皆様へ「アンケート」のお願い

今回、氷取沢町地域住民の皆様へ広く意見をお聞きし、今後の活動に反映させるため、「アンケート」を取らせていただくことになりました。

別紙のアンケート用紙に、できるだけ多くの情報をお寄せください。
回答いただいたアンケート用紙は、10 月 23 日(日)までに、お住まいの各自治町内会で回収方法が異なりますので、各自治町内会で定められた回収ポストに投函してください。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、アンケート結果につきましては、会報にて報告を行う予定です。



氷取沢町内住民の皆様

氷取沢防災まちづくりの会が9月に行いました、アンケートへのご協力頂きありがとうございます。アンケート回収率は24%と低かった事は、活動状況報告やアンケートの配布/回収方法等に問題があったと反省しています。

但し、アンケートの結果、町内の方々が不安に感じられている事やご意見等が多く寄せられており、来年度以降の活動プラン策定に反映させていただきます。

今年度、会を立上げ、7月より2回の定例会を主体として活動しています。現在、災害の起因となる可能性がある箇所を確認のため、行政の方々と共に見廻っています。今後、町内の防災に係る問題点を整理し、来年度以降の活動プランを策定します。既に、コミュニティ力と防災力向上の為のワークショップ(体験型講座)は来年度実施する予定で考えています。

以下に、アンケートの結果を報告します。

アンケートの回収状況報告

1) 回収総数

単位: 世帯数(その割合%)

回収総数	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
	277 (24.0%)	83 (28.1%)	127 (22.2%)	37 (26.4%)	30 (20.7%)

※ 1,153世帯(氷取沢町295・パークハイツ573・興人140・パイロットハウス145)での割合

2) Q1～Q9の結果 ※ 回答数277に対しての割合です。

Q1.氷取沢町内に住んでいる年数についてお伺いします。

* 21年以上が68.2%と永く住んでいる世帯が多いです。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
10年以内	36 (13.0%)	16 (19.3%)	12 (9.4%)	2 (5.4%)	6 (20.0%)
20年以内	49 (17.7%)	11 (13.3%)	25 (19.7%)	10 (27.0%)	3 (10.0%)
それ以上	189 (68.2%)	55 (66.3%)	89 (70.1%)	25 (67.6%)	20 (66.7%)
無回答	3 (1.1%)	1 (1.2%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)

Q2.世帯主の方の年代についてお伺いします。

* 世帯主が65歳～74歳の方が41.2%と高いです。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
20～34歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
35～49歳	39 (14.1%)	15 (18.1%)	16 (12.6%)	6 (16.2%)	2 (6.7%)
50～64歳	63 (22.7%)	28 (33.7%)	20 (15.7%)	5 (13.5%)	10 (33.3%)
65～74歳	114 (41.2%)	22 (26.5%)	70 (55.1%)	17 (45.9%)	5 (16.7%)
75歳以上	60 (21.7%)	18 (21.7%)	20 (15.7%)	9 (24.3%)	13 (43.3%)
無回答	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Q3.一人暮らしですか？二人以上の世帯ですか？

* 二人暮らしが57.8%と最も高く、三人以上が一人暮らしの約2.7倍の30.7%の比率です。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
一人暮らし	31 (11.2%)	8 (9.6%)	12 (9.4%)	3 (8.1%)	8 (26.7%)
二人暮らし	160 (57.8%)	47 (56.6%)	76 (59.8%)	22 (59.5%)	15 (50.0%)
三人以上	85 (30.7%)	28 (33.7%)	38 (29.9%)	12 (32.4%)	7 (23.3%)
無回答	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Q4.いつとき避難場所を知っていますか？

* 氷取沢町内会のいつとき避難場所は、氷取沢神社です。

* 三団地(パークハイツ・パイロットハウス・興人)自治会のいつとき避難場所は、氷取沢公園です。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
知っている	229 (82.7%)	68 (81.9%)	106 (83.5%)	32 (86.5%)	23 (76.7%)
知らない	40 (14.4%)	13 (15.7%)	19 (15.0%)	2 (5.4%)	6 (20.0%)
無回答	8 (2.9%)	2 (2.4%)	2 (1.6%)	3 (8.1%)	1 (3.3%)

Q5.氷取沢町の地域防災拠点はどこか、知っていますか？

* Q4の回答より若干「知っている」の割合が低いようです。情報をもっと知らせる必要性を感じています。

* さわの里小学校が地域防災拠点になります。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
知っている	186 (67.1%)	60 (72.3%)	86 (67.7%)	26 (70.3%)	14 (46.7%)
知らない	79 (28.5%)	22 (26.5%)	34 (26.8%)	9 (24.3%)	14 (46.7%)
無回答	12 (4.3%)	1 (1.2%)	7 (5.5%)	2 (5.4%)	2 (6.7%)

Q6.家庭で災害時の食料等を備蓄していますか？

* 備蓄については、多くの世帯でされているようです。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
している	168 (60.6%)	46 (55.4%)	80 (63.0%)	25 (67.6%)	17 (56.7%)
していない	104 (37.5%)	36 (43.4%)	44 (34.6%)	12 (32.4%)	12 (40.0%)
何を揃えたらよいかわからない	4 (1.4%)	1 (1.2%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)
無回答	1 (0.4%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

Q7.地震、集中豪雨等が発生した場合に、危険となっている場所を知っていますか？

* パイロットハウスは周りに崖がないので、危険性を感じていないようです。

他の自治町内会は崖や河川に対する不安感が多いようです。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
知っている	131 (47.3%)	43 (51.8%)	66 (52.0%)	16 (43.2%)	6 (20.0%)
知らない	140 (50.5%)	39 (47.0%)	57 (44.9%)	21 (56.8%)	23 (76.7%)
無回答	6 (2.2%)	1 (1.2%)	4 (3.1%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)

Q8.氷取沢防災まちづくりの会を知っていますか？

* 半数の方が氷取沢防災まちづくりの会を知られるようになっています。今後も広報活動を行います。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
知っている	138 (49.8%)	40 (48.2%)	51 (40.2%)	27 (73.0%)	20 (66.7%)
知らない	133 (48.0%)	43 (51.8%)	71 (55.9%)	10 (27.0%)	9 (30.0%)
無回答	6 (2.2%)	0 (0.0%)	5 (3.9%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)

Q9.地震、集中豪雨時に災害が発生しそうな危険箇所や不安に感じている事がありますか？

* 全体的に少ないようです。氷取沢防災まちづくりの会として、周知していくように活動します。

* 磯子区が全戸に配付している「磯子区土砂災害ハザードマップ」を、今一度確認して下さい。

	全体	氷取沢町	パーク	興人	パイロット
ある	97 (35.0%)	41 (49.4%)	37 (29.1%)	12 (32.4%)	7 (23.3%)
ない	154 (55.6%)	40 (48.2%)	75 (59.1%)	22 (59.5%)	17 (56.7%)
よくわからない	2 (0.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.7%)
無回答	24 (8.7%)	2 (2.4%)	15 (11.8%)	3 (8.1%)	4 (13.3%)

Q10. Q9であるとお答えになった方はご自由にお書きください。

- ① 水取沢町は大岡川と笹下釜利谷道路沿いの丘陵に囲まれた地形を有する為、豪雨/地震による土砂災害、大岡川の氾濫による、洪水災害に対して、多くの方々が不安との意見がありました。
会の方針：会の総員32名にて町内を歩き、災害の起因となる可能性がある危険箇所を確認しました。現在、行政の方々と共に住居や道路に影響を及ぼす崖/擁壁及び洪水による危険箇所を見廻っています。
- ② いっつき避難場所である、水取沢公園の安全性に対して不安があるとの意見がありました。
会の方針：水取沢公園の管理元である土木事務所と協議して、安全性の確保を検討する事で考えています。
- ③ いっつき避難場所から遠い地域の方から緊急時に逃げるには遠いとの意見がありました。
会の方針：近隣の身の安全を確保出来る場所を決め、災害発生時は避難頂く事が防災力の向上となります。出来れば、近隣の方々と話し合っ決め、助け合っ避難願えればと考えています。会としては、災害に強いコミュニティカの向上を課題として活動します。
- ④ 地域防災拠点であるさわの里小に関しては収容能力に対する不安に加え、幼児/高齢/体に不安を持たれている方々にとっては遠すぎる為、拠点に行かない、との意見がありました。
会の方針：さわの里小は収容能力等の問題点があります。一方、救援物資、災害情報は拠点に届き、特別避難場所や医療機関の対応等は拠点が中心となって重要な役割を担っています。会としては、何が出来るか協議を重ねています、ハードルが高い課題ですが、検討を継続します。
- ⑤ 「まちづくりの会」と「地域防災拠点」との関係がどうなっているのか見えない、との質問がありました。
会の方針：現在、会は「地域防災拠点」の活動との関係を有していません。会是水取沢町内に特化して、地域のコミュニティカと防災力の向上に努めながら、災害前、災害時及び災害後に備えた問題点を抽出し、対策に向けたプランを検討しています。尚、地域防災拠点の役員が会のメンバーとなっていますので、拠点での活動の情報を入手しながら、活動しています。
- ⑥ 町内の防災拠点の必要性に触れているが、仮にそういうものを作るとすれば、耐震構造を持ったものでなければならぬが、設置場所とか費用を考えると実現の可能性があるとは思えない。今後の活動としては、4自治町内会の情報交換・経験交流と啓発活動を中心に行う方が良い、とのご意見がありました。
会の方針：今期から公園に防災倉庫を設置する事が可能となりました。一方、コンテナを改造した事務所が各地に建設されています。その様なコンテナ(中古)を改造して防災倉庫を建設する検討を行いました。しかし、防災倉庫設置には検討事項が多く、長期的な視野で検討する事になっています。尚、ご指摘の啓発活動等は来年度実施する事で検討しています。
- ⑦ アンケートに添付して配布した水取沢町内会の「礪子区安全安心マップ」は印刷が薄くよく見えない等のご指摘がありました。
会の方針：明瞭な水取沢町内会の「礪子区安全安心マップ」をご希望されている方々に配布しますので、末尾の会員募集の問合わせ先に連絡願います。
- ⑧ 水取沢公園から広域避難場所(礪子カンツリークラブ)に行き、地域防災拠点であるさわの里小学校に行く方法を求めている方からのご意見がありました。
会の方針：礪子カンツリークラブには上中里団地からの決められた入口があり、礪子カンツリークラブとの協定が締結されています。広域避難場所は大地震により火災が多発し、延焼が拡大した場合の避難場所として、礪子カンツリークラブ一帯が市の指定場所となっています。礪子カンツリークラブを通る避難ルートに関しては現状から判断すると困難であるが、重要な課題と考えています。
- ⑨ 大雨の時、排水が処理出来ず冠水する、とのご意見がありました。
会の方針：水取沢緑地の排水溝が閉塞して、庭が冠水するとの事で行政の方々と共に確認し、土木事務所に改修を依頼する等の対応をしました。今年度、予算化して、来年度実施する事で進んでいます。今後、公用地での不具合箇所に関しては行政の関連部門の方々と協議しながら対応します。

Q11. 「水取沢防災まちづくりの会」に対してご意見・ご要望をご自由にお書きください。

- ① 避難勧告が出た時は別として、突然災害(地震)が発生した時の対応として、どの様な指針を構築しているのか
会の方針：豪雨、地震発生時の対応は各自治町内会が行います。但し、現状では首都圏直下型地震等の突然の災害発生時に様々の混乱、問題等に対応した指針を各自治町内会は構築出来ていません。会としては、4自治町内会(3団地は管理組合を含む)と連携して、取組む事が必要と考えています。
- ② 少子化に伴い水取沢小学校が上中里と合併した事は、仕方がないが防災拠点が遠くなり、高齢化との矛盾を感じました。小学校の合併は教育委員会、防災まちづくりは他の局と分かれている。町内会として出来る事、行政として計画が必要な事は各々がしっかり行って減災になると思います。
会の方針：ご意見をしっかり受止め、活動して行きます。
- ③ 住民同士の日常的なつながりを作る事が大事だし、地域にあるケアプラザ・高齢者施設との連携等から始めてはどうか？
会の方針：コミュニティカと防災力の向上の為に住民同士の日常的なつながりを作る事は重要と判断しています。ケアプラザ・高齢者施設他、地域にある各施設との防災に係る協議を計画しています。
- ④ さわの里小まで行こうとは思わない。単自治町内会で防災時に対応できるしっかりした組織が重要不可欠だと思う。
会の方針：皆様方が防災拠点である、さわの里小に行かなくとも、物資/情報入手が可能な組織は今後、自治町内会と協議して、検討します。各自治町内会の災害時の組織構築は重要な課題と判断しています。会としては、来年度から講演会等のイベントを開催し、組織構築に役立つ勉強会を検討します。
- ⑤ 実際に災害が発生した時に、何をどこまで期待して良いのか？どんな内容を準備できるのか？…ほとんどわかっていません。
会の方針：町内の防災に係る課題を把握しながら、今回のアンケートにて頂いたご意見等を基に来年度以降の活動を策定します。今後の活動に関しては、自治町内会のご協力を頂きながら、広報に努めます。
- ⑥ 医療機関が2カ所のみというのが、一番気になる所で、災害時「特別医療センター」が設置されるとしたら、何処なのかが問題だと思う。
会の方針：地域防災拠点であるさわの里小学校に「医療救護隊」が設置され、軽症者の治療を行います。重症者は災害拠点病院(市大付属、南共済病院etc)、中等症者は災害時緊急病院(文庫病院etc)へが市の医療体制となっています。尚、近隣の医療機関の把握は重要と判断し、医療機関マップを作成/配布します。
- ⑦ 災害時には、すばやく対応できる人と人のネットワークが大切かと思えます。それぞれの家庭の中でも役割もあり緊急時に働ける人の把握も必要かと思えます。
会の方針：豪雨の予想はある程度可能ですが、地震発生の予想は困難な為、地震発生時にどこにいるのか等にて、緊急時に働ける人も異なります。緊急時に働ける人の把握は重要な課題と判断しています。緊急時に働ける方々は会員になって頂ければと考えています。現在、定例会は原則、第2、第4土曜日の19:00から約1時間半を目途に水取沢神社社務所にて、活動しています。毎回出席しなくても構いません。以下に記載する要領にて会員を募集していますので、気楽に参画願います。

会員募集

第2、4土曜日/月、19:00~20:30、水取沢神社社務所にて開催する事を原則としていますが、開催場所等の変更が生じる事がありますので、各自治町内会の以下の役員等にお問合せして頂ければ、開催日時、場所お伝えします。同じ地域に住む仲間として、気楽に見に来て下さい。

礪子台パークハイツ自治会 :
水取沢町 :
パイロットハウス礪子台自治会 :
興人礪子台マンション自治会 :

◆ 2017年度活動計画(案)

'16年度の活動の結果、得られた地域の課題を'17年度は取組めます。課題の取組は市の「地域まちづくり」の認定を受けて、課題を整理して行きます。以下に今後の取組について、記載します。



1 重要な課題

1) 救援救護に必要な機材を備蓄する、防災備蓄庫の整備

首都圏直下地震後、救援隊が到着するのは災害救助の目安となる、72時間(3日間)以上を要する事が予想されます。地域で総力をあげて助け合わなければなりません。救援救護に必要な機材、設置場所及び設置後の維持管理等多くの課題があります。行政の協力を得ながら課題を整理して行きます。

2) 災害時のトイレ問題

下水処理場は沿岸部にあり、地震の揺れ以外に津波による被害も想定出来ます。更に、下水道管渠の更新が遅れている、当地域では災害時のトイレ問題に向け、行政の協力を得ながら課題を整理して行きます。

2 地域の防災力/コミュニティ力の向上に向けた取組

災害時の体制構築に向けた出前塾や災害時に役立つワークショップ等のイベントを2回/年、開催します。

3 区、土木事務所と協力した、災害に備えた取組

道路/家屋に影響を及ぼす崖/擁壁、いっとき避難場所(氷取沢公園、氷取沢神社の安全性確保)、大岡川上部に設置された歩道のメンテや川底清掃及び緊急車両通行道路の迂回路の検討等を土木事務所と協力して取組めます。

4 その他の取組

以下の各テーマの優先順位を決め、小グループにて取組めます。

- 1) 各種施設/大型駐車場を有する店舗等との災害に備えた協議
- 2) 災害時に「管理棟の避難所としての活用」等の防災協議を3団地の管理組合及び自治会と協議
- 3) 氷取沢町の「磯子区安全安心マップ」のバージョンアップ検討
- 4) 地域防災拠点や町内の情報網、通信ツールの検討
- 5) 災害時の医療に備えた取組
- 6) 広報グループによる会報の10回/年の発行
- 7) 磯子カンツリークラブ(広域避難場所)と、氷取沢町からの入口に関する協議



(横浜市ホームページより)

※ 他の重要な課題が有れば、討議して目標を設定していきます。



『氷取沢防災まちづくりの会』 会報No.3 発行日 平成29年3月10日
文責 氷取沢防災まちづくりの会

氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は2016年5月28日に、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体として発足しました。



2016年度は町内の特徴を捉えながら、地域の問題点を把握する、まち歩きを行ってきました。

又、9月に4自治町内会の全世帯を対象にした「アンケート」の回収結果から、町内の方々の不安事項、意見等が得られました。これらの事を定例会にて討議し、その結果から、来年度以降の活動を計画していきます。更に、会としては重要な課題に対する目標を定め、達成に向けたプランの策定と活動を今後に向けて、検討してまいります。

いざという時に備えて、この地域の特徴に合わせた防災力を考えていくことが大切です。氷取沢防災まちづくりの会のこれまでの活動、及び来年度に向けての計画を載せましたので、ぜひご一読いただき、防災意識を高めご賛同いただきますよう、よろしくお願いいたします。



～★～ 会員募集 ～★～

2017年度の第1回定例会は、5月13日(土)を予定しています。第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所にて開催します。会合への参加や、活動を一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる事がありますので、お問合せして頂ければ、開催日時・場所をお伝えします。

- 磯子台パークハイツ自治会 : _____
- 氷取沢町 : _____
- パイロットハウス磯子台自治会 : _____
- 興人磯子台マンション自治会 : _____

◆ これまでの活動報告

1) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足前

- 1 出前塾 3月12日(土)10:00~12:00
氷取沢神社社務所にて
行政2名+4自治町内会の会長含め17名
- 2 準備会 4月16日(土)16:00~18:00
氷取沢神社社務所にて12名出席
- 3 総会準備会 5月14日(土)16:00~18:00
氷取沢神社社務所にて12名出席
- 4 行政との調整会 5月24日(火)18:30~21:00
氷取沢神社社務所にて行政4名+11名出席

2) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足後

- 1 総会 5月28日(土)17:00~19:15
氷取沢神社社務所にて
27名出席(4名欠席、会員総数31名)
- 2 行政との調整会 6月24日(金)15:30~17:00
氷取沢神社社務所にて行政4名+14名出席
- 3 定例会 全13回



3) 定例会以外の活動

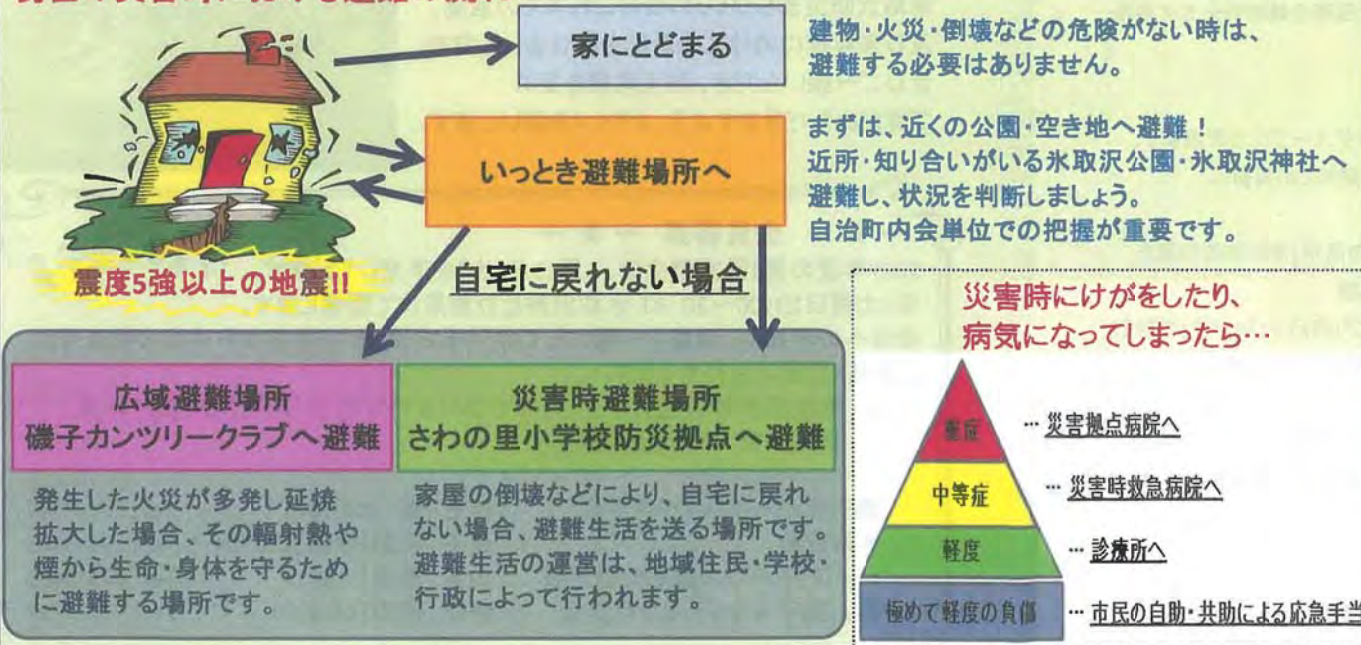
- 1 まち歩き 6月20・24・25日
町内を散策し、問題点抽出
- 2 市民防災センター団体体験ツアー
7月18・23・31日
公募で参加者も募り、3回で計40名の参加
災害シアター/地震シミュレーター/
減災トレーニング/火災シミュレーターを
体験し、その後救出救護訓練や災害時に
役立つ物を作る、ワークショップを受講しました。
- 3 氷取沢町世帯を対象のアンケートの実施 9月
アンケートの回収率が24%と低かった事に対する反省点はあったが、
町内の方々が不安に感じられている事やご意見等が多く寄せられました。
- 4 会報の発行 9・12・3月
会の周知・防災意識の向上を目的として発行。
- 5 行政/コーディネーターの方とのまち歩き
11月11日・2月7日
- 6 小グループでの活動4回



※掲載フォトは、まち歩き・活動時の風景です。



現在の災害時における避難の流れ



自助共助が大切！
まずはご家庭での
備蓄品の見直しを
してませんか!!





氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は平成28年度に、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体として発足しました。

平成28年度は町内の特徴を捉えながら、地域の問題点を把握する、まち歩きを行ってきました。

又、昨年9月に4自治町内会の全世帯を対象にした「アンケート」の回収結果から、町内の方々の不安事項、意見等が得られました。その結果から、今年度以降の活動を計画しています。また、会としては重要な課題に対する目標を定め、達成に向けたプランの策定と活動を今後に向けて、検討しているところです。



いざという時に備えて、この地域の特徴に合わせた防災力を考えていくことが大切です。氷取沢防災まちづくりの会のこれまでの活動及び計画を載せましたので、ぜひ一読いただき、ご賛同いただきますよう、よろしくお願いします。



1) 昨年度(平成28年度)の活動報告

1 「氷取沢防災まちづくりの会」発足前

- ① 出前塾平成28年 3月12日(土)10:00~12:00
氷取沢神社社務所にて
行政2名+4自治町内会の会長含め17名
- ② 準備会 平成28年4月16日(土)16:00~18:00
氷取沢神社社務所にて12名出席
- ③ 総会準備会 平成28年5月14日(土)16:00~18:00
氷取沢神社社務所にて12名出席
- ④ 行政との調整会 平成28年5月24日(火)18:30~21:00
氷取沢神社社務所にて行政4名+11名出席

2 「氷取沢防災まちづくりの会」発足後

- ① 総会 平成28年5月28日(土)17:00~19:15
氷取沢神社社務所にて27名出席
- ② 行政との調整会 平成28年6月24日(金)15:30~17:00
氷取沢神社社務所にて行政4名+14名出席
- ③ 定例会 全13回



3 定例会以外の活動

- ① まち歩き 平成28年6月20・24・25日
町内を散策し、問題点抽出
- ② 市民防災センター団体体験ツアー 平成28年7月18・23・31日
公募で参加者も募り、3回で計40名の参加
過去の地震の体験/減災トレーニング/火災シミュレーターを体験し、その後救出救護訓練や災害時に役立つ物を作る、ワークショップを受講しました。
- ③ 氷取沢町世帯を対象のアンケートの実施 平成28年9月
アンケートの回収率が24%と低かった事に対する反省点はあったが、町内の方々が不安に感じられている事やご意見等が多く寄せられました。
- ④ 会報の発行 平成28年9・12月、平成29年3月
会の周知・防災意識の向上を目的として発行。
- ⑤ 行政/コーディネーターの方とのまち歩き 平成28年11月11日、平成29年2月7日
- ⑥ 小グループでの活動4回



2) 今年度(平成29年度)の活動及び予定

- ① 定例会を5月13日、6月10日、7月15日、9月9日19時から開催しました。
- ② 4グループ(課題検討・イベント検討・広報・特命事項検討)での活動
 - * 氷取沢緑地・氷取沢公園などの現地確認
 - * 行政・地域医療施設との協議
 - * 研修・ワークショップ等の開催検討
 - * 広報誌発行
- ③ 昨年度抽出された課題への取り組み

~★~ 会員募集 ~★~

第2土曜日19:00~20:30、氷取沢神社社務所にて開催します
 次回の予定は、10月14日(土)です。
 会合への参加や、活動を一緒にして下さる方は、ぜひ各自自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる事がありますので、お問合せして頂ければ、開催日時・場所をお伝えします。

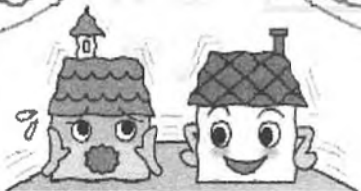
- 磯子台パークハイツ自治会 : [Redacted]
- 氷取沢町町内会 : [Redacted]
- パイロットハウス磯子台自治会 : [Redacted]
- 興人磯子台マンション自治会 : [Redacted]

災害が発生したら どこに避難するの？



危険かな？

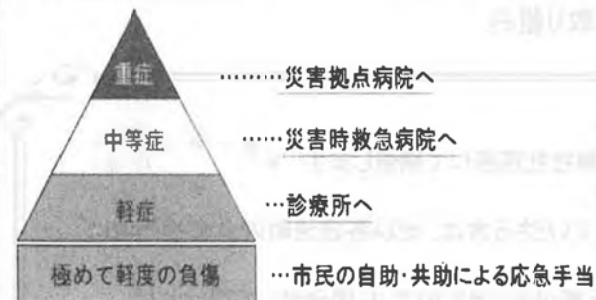
安全かな？



普段からの備え

- * 備蓄品は大丈夫？
- * 持ち出し品の準備は大丈夫？
- * 倒れないように、家具などの固定は？
- * 家族との連絡の取り方は？
- * 避難場所は、知っていますか？
- * 自衛消防隊って知っていますか？
- * 怪我をしたら、どうしたらいい？
- * 避難訓練に参加し、知識を増やしましょう！

平成25年4月の横浜市防災計画修正に伴い、災害により多数の傷病者が発生した場合、医療救護隊が地域防災拠点に避難中の軽傷者に対し、災害状況に応じて巡回診療等を行うことになりました。



家にとどまる

倒壊の危険がない時は、あえて避難する必要はありません。状況に応じて判断しましょう。

まずは「いつとき避難場所」
＜水取沢神社＞＜水取沢公園＞
に避難しましょう！

大地震が発生したら、近くの空き地や公園が「いつとき避難場所」として指定されています。

- * 水取沢町内会
→ 「水取沢神社」
- * 3団地（パークハイツ・興人・パイロットハウス自治会）
→ 「水取沢公園」



広域避難場所へ向かう道や入口の周りには、分かりやすいように看板や標識を設置しています。



地域の力で避難所運営

災害発生時（震度5強以上）に、地域住民の相互協力による災害活動や避難生活維持等が行えるよう、地域・学校・行政からなる地域防災拠点運営委員会が設置されています。



- * 生活・安否確認
- * 食料の給付
- * 宿泊の確保 ...etc.

地域防災拠点 ＜さわの里小学校＞

崩壊のおそれなどで、自宅に戻ることができない場合は…

大火災が発生して、自宅に戻ることができない場合は…

広域避難場所 ＜磯子カンツリークラブ＞

地震による火災が多発し延焼拡大した場合、熱や煙から生命・身体を守るために一時的に避難



水取沢地域の防災について皆で一緒に考えていきましょう！
次号では、普段からの備えを特集する予定です。



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。いざという時に備えて、この地域の特徴に合わせた、防災力を考えていくことが大切です。今年度5回の定例会を開催しています。その内容等を載せましたので、ぜひご一読ください。

1. 今年度の活動内容

- 1) 定例会 …5月13日・6月10日・7月8日・9月9日・10月14日
- 2) 4グループ（課題検討・イベント検討・広報・特命事項検討）での活動
 - ① 氷取沢緑地・氷取沢公園などの現地確認
 - ② 行政・地域医療施設との協議
 - ③ 研修・ワークショップ等の開催検討
 - ④ 広報誌発行
- 3) 昨年度抽出された課題への取り組み



2. 10月14日定例会の主な内容

- 1) ■■■ 医院副院長の講演
 - ① 横浜市の防災時の医療提供体制
現在の横浜市の体制について、詳しく教えていただきました。「平時から地域にある医療機関を知っておく」「緊急度や重症度に応じて、どの医療機関を受診するべきか判断する」ことが大切だと再認識しました。
 - ② トリアージ（START法）について
災害時の救護出動に必要な知識として、傷病者の緊急度・重症度により治療の優先度を定める手順について教えていただきました。
※ 詳しくは裏面ごらんください。
- 2) 磯子区危機管理チームとの協議結果について
 - ① 地域防災拠点のさわの里小学校では収容力不足・遠距離等の問題が、昨年度実施したアンケートに多く寄せられている解決として、氷取沢町内に備蓄倉庫を設置するための課題を、行政と協議しながら検討し集約していきます。
 - ② 災害後のトイレ問題について
下水放流が不可となり、汚物を生ごみと共に各家庭に保管することが基本となります。ごみ収集が長期にわたり収集ができなくなる可能性があるため、「ごみ収集場所」と「廃棄ルール」の町内で検討を行います。
 - ③ 道路や家屋に影響を及ぼす土砂災害警戒区域及び擁壁等について
横浜川崎治水事務所の調査結果を見守ると共に公用地の崖は行政と協議を行います。擁壁は「擁壁チェックシート」を活用して第1次評価を行います。
- 3) イベント検討グループの発表
 - ① (仮称)「減災を学ぼう会」開催企画
住民相互の防災・減災意識と備えの質的向上を趣旨として、自治町内会・管理組合の役員と当会の会員を対象に共通認識を持つ為に開催します。
 - ② 日程は12月10日(日)午前10時～12時
 - ③ 講演内容
 - * 第1部 「災害時に何が必要か・・・自助/共助とは」
 - * 第2部 「平塚パワーズ講習会 災害時の心構えと対応」

- 4) 特命事項検討グループの発表
 - ① 地域防災拠点や町内の情報/通信に有効なツールの調査
 - ② 氷取沢町安全安心マップのバージョンアップ
 - ③ 災害時の安否確認の検討
 - ④ イベントやアンケート結果により得られた意見等の検討



5) 広報グループ発表

- ① 9月26日付で第4号を発行、氷取沢町内全世帯に配布
表面は会の紹介、裏面には保存版「災害が起こった時の避難について」を記載
- ② 次号からも形式は同様。裏面には「普段からの備え」「避難所について」等の紹介
- ③ 次号発行は10月中。裏面には、■■■ 医院副委員長の講演内容を特集

6) 市民防災センターの体験ツアーの公募について

首都圏直下地震を主体とした災害に備えた活動の一環として、横浜市民防災センターの体験ツアーを開催します。昨年リニューアルされ、体験ツアーは下記4施設を専門のガイドと共に約1時間体験します。その後、災害時に役立つワークショップとして、防災スリッパや紙食器等を約30分かけて製作します。

- ① 災害シアター
スクリーンを見ながら、過去の大地震や今後横浜市にて予想される大地震が体験でき、地震による被害状況を分かり易く、知る事が出来ます。
- ② 地震シミュレーター
東日本大震災や阪神淡路大震災の過去の地震、住宅/超高層ビルの揺れ等を映像と共に体験します。尚、車椅子の方も体験出来ます。
- ③ 減災トレーニング
一般家庭の部屋に入って、音響や映像で演出される地震/大雨等の疑似体験しながら、災害時の安全確保から避難まで、身を守る行動を学ぶ事が出来ます。
- ④ 火災シミュレーター
様々の消化器を使った消化体験と煙からの避難行動を体験出来ます。

氷取沢地域から横浜市防災センター（横浜駅）間の江ノ電バス及び京急の往復交通費は会にて負担します。又、横浜市防災センターの体験ツアーは無料です。後日参加募集の案内を発行いたします。

～★～ 会員募集 ～★～

定例会は毎月第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所に開催しています。次回は11月11日(土)に予定していますので、ふるってご参加ください。会合への参加や、活動を一緒にしてくださる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。



※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、お問い合わせしていただければ、開催日時・場所をお伝えします。

- 磯子台パークハイツ自治会
- 氷取沢町内会
- パイロットハウス磯子台自治会
- 興人磯子台マンション自治会



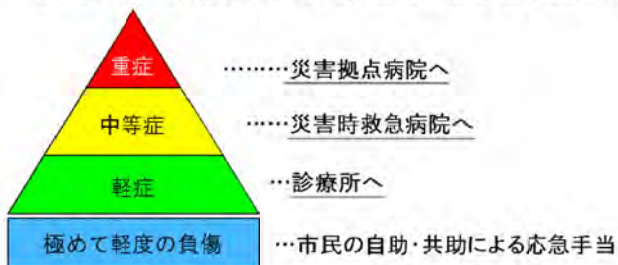
◆ 横浜市の災害時の医療提供体制 ◆

※ 横浜市ホームページより抜粋

災害時には、医療機関に多くの負傷者が殺到し、非常に混乱する可能性があります。限られた市内の医療機関の中で、混乱なく受信するために大切なことは、

- 1 平時から、地域にある医療機関を知っておく。
- 2 緊急度や重症度に応じて、どの医療機関を受診すべきか判断することです。

★災害時にけがをしたり、病気になってしまったら～横浜市の災害時の医療提供体制イメージ～



★緊急度・重症度の目安と、対応する医療提供体制

重症度等	目安	主な医療提供主体	主な医療活動の内容
重症	生命の危険の可能性がある又は生命の危険が切迫している	○ 災害拠点病院 ○ 災害時救急病院のうち、重症の負傷者等の受け入れが可能な病院	入院による診療等
中等症	生命の危険はないが、入院を要する	災害時救急病院 (災害拠点病院以外で、災害時に負傷者等を受け入れる病院)	入院による診療等
軽症	生命の危険がなく、入院を要しない	負傷者等の受け入れが可能な診療所	○ 創傷、打撲、やけど、骨折等の外傷に対する応急医療 ○ 内因性疾患に対する応急医療
極めて軽度の負傷		市民による自助、共助	市販消毒液による傷口の消毒や、包帯等による応急手当

災害拠点病院とは？

災害拠点病院とは、災害時に後方医療機関として地域の医療機関を支援する機能を有し、重症・重篤な傷病者を受け入れるなど、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院です。

横浜市内では、13病院が指定されています。

※災害時に被災を免れ、診療が可能な場合は「診療中」を表す赤い旗を掲げます。

★横浜市内の災害拠点病院

病院名	住所
横浜労災病院	横浜市港北区小机町3211
済生会横浜市東部病院	横浜市鶴見区下末吉3-6-1
昭和大学横浜市北部病院	横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
昭和大学藤が丘病院	横浜市青葉区藤が丘1-30
けいゆう病院	横浜市西区みなとみらい3-7-3
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町56
国立病院機構横浜医療センター	横浜市戸塚区原宿3-60-2
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	横浜市旭区矢指町1197-1
横浜市立みなと赤十字病院	横浜市中区新山下3-12-1
横浜市立大学附属病院	横浜市金沢区福清3-9
横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜南区清瀬町4-57
横浜南共済病院	横浜市金沢区六浦東1-21-1
済生会横浜市南部病院	横浜市港南区港南台3-2-10

災害時救急病院とは？

災害拠点病院以外の病院で、災害時に被災を免れた場合に、主に中等症の負傷者受け入れについて協力いただく病院です。

発災後は、市が病院ごとの受入可否等の情報をとりまとめ、避難所等へお知らせします。

※災害時に被災を免れ、診療が可能な場合は「診療中」を表す黄色い旗を掲げます。

診療所での対応

入院を要しない、軽度の負傷や疾患については、近くの診療所で被災を免れたところで診療を受けましょう。

※災害時に被災を免れ、診療が可能な場合は「診療中」を表す黄色い旗を掲げます。



地域防災拠点や避難所等での対応

地域防災拠点や避難所等では、軽症者に対して「医療救護隊」が診療を行います。

医療救護隊は、地域の医師・看護師・薬剤師などで編成され、巡回診療あるいは定点診療を行います。

◆ 災害時の救護出動に必要な知識と技術について ◆

★ トリアージ (START法)

人的・物的資源が限られた状況で最大多数の負傷者に最善の医療を施すため、負傷者の緊急度・重症度により治療の優先度を定めることがトリアージの定義です。

救助者に対し傷病者の数が特に多い場合に対し、判定基準を出るだけ客観的かつ簡素にした物がSTART法である。これは、救急救命室で用いられる外傷初期診療ガイドライン日本版にて、ブライリー・サーバイド用いられるABCDEアプローチに基づいたものとなっており、具体的には以下ようになる。

A: 歩けるか？

歩ける → 緑 → 状態の悪化がないか絶えず観察

歩けない → Bへ

口頭の答えを鵜呑みにせず介添えはせずに本人に起立させ歩行出来るかどうか確認することが重要。

B: 呼吸をしているか？

気道確保をしても、呼吸がない → 黒

気道確保がなければ呼吸できない → 赤

気道確保がなくとも呼吸できる → Cへ

C: 呼吸はどうか？

頻呼吸 (30回/分以上) もしくは徐呼吸 (10回/分未満) → 赤

10~29回/分 → Dへ

なお、災害医療においては、所要時間短縮のため、6秒間で呼吸数を計る。

D: 循環状態はどうか？

橈動脈を触知できない → 赤

橈動脈を触知できる → Eへ

※ショック状態が疑われる場合 (脈が弱く速い、皮膚が冷たく湿っているなど) は赤を選択する。

爪床圧迫法、CRT (毛細血管再充満時間 (英語版)) の場合、

CRTが2秒以上である → 赤

CRTが2秒未満である → Eへ

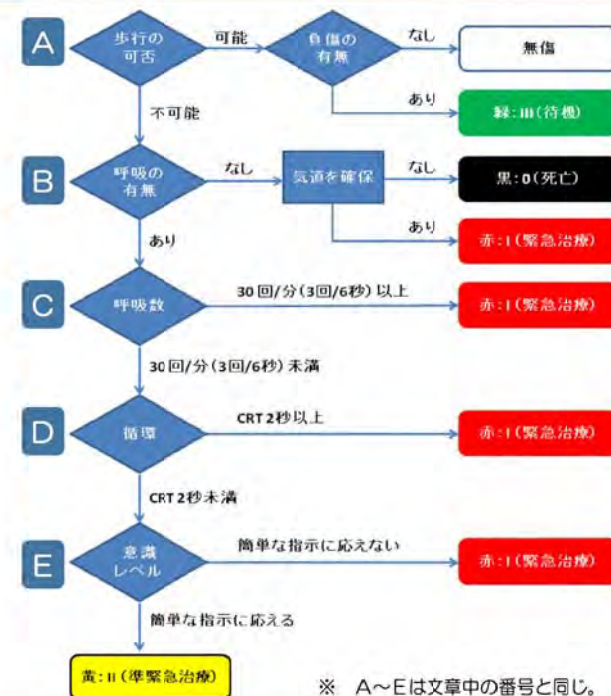
E: 意識レベルはどうか？

簡単な指示 (例: 「手を握ってください (ただ手を握らせるのではなく、きちんと握ることが出来るか確かめる)」「誕生日を教えてください」など) に従えるかどうかによって判定する。

応えない → 赤

応える → 黄

小規模の災害なら赤になる例でもSTART法では黒になってしまう事が多くなるが、これは (現場に混乱を来してしまうほどの) 大規模災害のために考え出されたものである。また、この方式は腹痛刺激症状やクラッシュ症候群などの病態を無視しており、追って詳細な状態観察とトリアージが継続されることを前提としている。何度も繰り返し行うことで傷病者の重症化を未然に発見し、対処することが重要である。



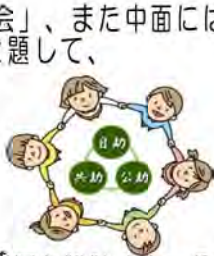
※ A~Eは文章中の番号と同じ。



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会・の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。

今年度第6回定例会を11月11日（土）に開催しました。定例会の内容と、12月10日（日）に予定されています「研修会」、また中面には「災害！いざという時に備えて、皆で考えていきましょう！」と題して、「今、震災に備えてできること」を身近な問題としてとらえ、皆さんで考えていく内容を載せました。ぜひ一読いただき、一緒に防災意識を高めていきましょう。



1. 「第6回定例会」11月11日（土）の主な内容

- 1) 特別養護老人ホーム磯子自然村との協議結果
 氷取沢小学校跡地として建設されたこともあり、地域応援協定を締結することも今後の課題である。
- 2) 課題検討グループの今後の活動計画
 - ① 備蓄倉庫設置場所として、氷取沢公園と横浜教会前の横浜市管轄地を候補地として検討する。
 - ② 災害時のトイレ問題・生ごみの保管場所の確保等が課題。
 - ③ 10月台風時に土砂崩れにより、土砂災害特別警戒区域となった所があると聞いている。
 暴風雨発生時の避難場所の確保や、首都圏直下地震等の大災害時は地域の施設との協定を締結することを検討していく。
- 3) 特命事項検討グループ
 - ① 地域防災拠点や町内の情報/通信の有効ツールの調査についてアマチュア無線では災害時の有志の会があるが、氷取沢地区での会員がいない。
 情報入手は地域防災拠点から4自治町内会へトランシーバーで伝達が有効。その伝達訓練は定期的に行う必要がある。
 - ② 氷取沢町安全安心マップのバージョンアップについて
 エリア内のAED配備状況再調査、帰宅困難協力店を継続調査、ガソリンスタンドの自家発電機配備調査を表記する。
 - ③ 災害時の安否確認について
 自治町内会ごとでの取り組み方を考えていく必要がある。
- 4) 広報グループの発表
 - ① 第5号を10月に発行
 「会の紹介」「横浜市の医療体制について」「トリアージ法」について特集した。
 - ② 第6号を11月に発行予定。
 - ③ 広報誌の構成として、表面には会の紹介、裏面はいざという時に備えて何ができるかを特集していく。
- 5) イベント検討グループの発表 ※ 3.にて内容を掲載

2. 「横浜市民防災センター体験ツアー参加申し込み」について

前回会報（NO.5）にてお知らせしました通り、「横浜市民防災センター体験ツアー」の参加を募ります。来年1月を予定しています。子どもと一緒に学べるツアーですので、多くの皆さんの参加をお待ちしています。参加申込書は、各自治町内会を通じて配布します。

3. 防災講習会「減災を学ぼう会」の開催について

住民相互の防災・減災意識と備えの質的向上（発災～自助・共助の対策）を趣旨として、氷取沢防災まちづくりの会では、住民の皆さんと一緒に学べる講習会を企画しました。その第1回目として、以下の通り計画しました。



- 1) 開催場所・日時
 開催場所：パークハイツ管理棟
 日時：平成29年12月10日（日）午前10時～12時
- 2) 参加申し込み方法
 氷取沢町内にお住まいの方に限らせていただきます。
 当日直接会場へお越しください。
 なお詳細については、所属されている自治町内会へお問い合わせください。
- 3) 主な内容
 - ① 第1部 講話「災害時に何が必要なのか… 自助/共助とは」
 講師：相澤 友之 氏 磯子区役所総務部総務課危機管理・地域防災担当係長
 - ② 第2部 平塚パワーズ講習会「災害時は助け上手、助けられ上手」
 - * 防災・減災に対する講話
 - * 3カ所に分かれてワークショップ
 A. ダンボールトイレ
 B. バスタオルの防災頭巾
 C. 応急手当
 - ※ 順番に回り、全てのワークショップを体験



◆◆ 平塚パワーズ（女性防災クラブ）の紹介 ◆◆

女性の視点に立って減災に関する知識、技術の向上を目的として活動を始め、21年目になります。「自分の命を守り、家族を守り、そして地域を守ろう」を基本に、各地域の防災訓練や各種イベントへ参加し身近な物でつくる減災グッズの作り方の普及や応急手当等の様々な減災まちづくり活動を行っています。

～★～ 会員募集 ～★～

定例会は毎月第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所にて開催しています。次回は12月9日（土）に予定していますので、ふるってご参加ください。会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。



※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、お問い合わせしていただければ、開催日時・場所をお伝えします。

磯子台パークハイツ自治会 : [Redacted]
 氷取沢町内会 : [Redacted]
 パイロットハウス磯子台自治会 : [Redacted]
 興人磯子台マンション自治会 : [Redacted]

★災害!いざという時に備えて、皆で考えていきましょう!★

◆◆◆ 4つのテーマ ◆◆◆

1. 家族との安否確認の方法は大丈夫ですか?
☆ 情報発信の方法を知っておきましょう。

2. すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!
☆ 食料・飲料などの備蓄は十分ですか?

3. 家庭でできる安全対策は何がある?
☆ 簡単にできる耐震を身につけましょう!

4. 外出先でいつも身につけておきたいものは何?
☆ 自宅にいるときに震災が起こるとは限らない!

4つのテーマにわけ、4回に渡って特集していきます。
今回は、『1. 家族との安否確認の方法は大丈夫ですか?』。
防災意識を高めるため、ぜひご覧ください。

『家族との安否確認の方法は大丈夫ですか?』

大規模な災害が発生したとき、twitterやLINEなどのSNSの他に、家族や知人への安否情報や避難場所の連絡等に『災害用伝言サービス』があります。これを機会に連絡の取り方を決めておきましょう!



電話で安否確認

被災地の固定電話番号を使用して、伝言を録音・確認することができます。「171」をダイヤルさえすれば、ガイダンスに従って操作できます。

災害用伝言ダイヤル(171) ①



新機能

災害用伝言ダイヤル(171)は、平成28年3月から機能の拡充が行われています。主な内容としては、以下のものになります。

- 固定電話だけでなく、携帯電話からも登録することができます。
- 災害用伝言板(web171)と相互に確認することができます。

※災害用伝言ダイヤル(171)で登録した音声は災害用伝言板(web171)で再生することが可能
※災害用伝言板(web171)で登録した伝言を音声に変換し、災害用伝言ダイヤル(171)で再生することが可能

※ 総務省 広報誌(平成28年8月号)からの抜粋のため、見えにくい部分があります。詳しくご覧になりたい場合は、「総務省ホームページをご覧ください。」

② 災害用音声お届けサービス

音声メッセージで安否確認

スマートフォン等で録音したメッセージ(音声ファイル)をパケット通信で送信するサービスです。携帯各社が提供する災害時アプリから利用できます。



※ スマートフォンで利用する場合、専用のアプリケーションを携帯電話各社のアプリマーケットやGoogle Play, Apple Storeからダウンロードする必要があります。 ※フィーチャーフォンで利用する場合、SMSで通知がきます。 ※上記イメージは、スマートフォン利用時のものとなります。

③ 災害用伝言板(web171)

インターネットで安否確認

スマートフォン、パソコンから文字で安否情報を登録できます。詳しい利用方法は、以下のNTT東日本、西日本のHPをご覧ください。



- NTT東日本
<https://www.ntt-east.co.jp/saiga/web171/>
- NTT西日本
<https://www.ntt-west.co.jp/dengon/web171/>

災害用伝言サービスの使い方

文字でお届け



音声でお届け



ご紹介した災害用伝言サービスは、以下の期間に体験利用することができます。いざという時に備えて、使い方を確認しておきましょう。

利用日

- 毎月1日・15日
- 防災とボランティア週間(1月15日)
- 正月三が日(1月1日~3日)
- 防災週間(8月30日~9月5日)

④ 災害用伝言板

モバイルサイトで安否確認

被災地で「無事です」「被害があります」「避難所にいます」といった安否情報と100文字までの文字メッセージを登録できます。また、登録された安否情報は、他社の携帯電話やスマートフォン、パソコンからも確認可能です。



※上記イメージは、スマートフォン利用時のものとなります。

さあ、始めよう! 今からすぐ出来ること...

次号では、『2. すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!』を特集する予定です!



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会・の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。

今年度第8回定例会を開催しました。
 防災研修会「減災を学ぼう会」を、12月10日（日）に開催しました。その内容をご報告いたします。
 また中面には、「災害！いざという時に備えて、皆で考えていきましょう！」と題して、「今、震災に備えてできること」を身近な問題としてとらえ、皆さんで考えていく内容を載せました。
 ぜひ一読いただき、一緒に防災意識を高めていきましょう。



1. 「第7回定例会」（12月9日）、「第8回定例会」（1月13日）含めた主な内容

- 1) 地域施設との協議
 「介護老人保健施設ほのぼの」と「介護老人保健施設ひとりざわ」と協議し、首都圏直下地震及び風水害時に地域住民が緊急避難出来る協定書を作成し、地域との連携を今後図る事となった。これまでの、ケアプラザ及び特別養護老人ホーム自然村と共に協定書作成する。
- 2) 防センアカデミーわが家・地域の災害対策への出席報告
 横浜市民防災センターにて開催された「改訂された横浜市の地震災害対策」及び「熊本地震を振り返る(自助、共助)」についての講義の受講内容を報告した。
- 3) 擁壁調査結果について
 昨年度のアンケートにて不安視されていた、興人法面の擁壁及びいっとき避難場所である氷取沢神社裏の擁壁について、行政及びコーディネーターと共に横浜市が採用している我が家の擁壁チェックシートに基づいた、調査結果の報告があった。
 コメントとしては擁壁に生えている草木の除去や問題にはならないクラックは生じているのでモルタル補修等による内部鉄筋腐食対策を行えば更なる延命が図れる事の報告があった。
- 4) 防災備蓄倉庫設置場所について
 防災備蓄倉庫設置場所は地域防災拠点であるさわの里小学校からの情報入手及び支援物資を受入に容易な候補地を優先する事とし、本箇所での設置が困難な場合は現状設置可能な氷取沢公園を視野に入れて検討する事となった。
- 5) 本年度の活動収支状況の報告
 12月末での収支状況を確認し、各自自治町内会からの拠出金を依頼する事となった。
- 6) 氷取沢安全安心マップのバージョンアップについて
 これまでの各自自治町内会にて作成されていた安全安心マップを一本化した安全安心マップに追加すべき事項の結果報告があった。行政から氷取沢町の安全安心マップの原稿を受領し来年度にバージョンアップ版を発行する事になった。

2. 「横浜市民防災センター体験ツアー」について

「横浜市民防災センター体験ツアー」を計画いたしましたでしたが、参加申込者が少なく、今回は見送らせていただきました。
 申し込みいただいた方には、申し訳ございませんでした。



3. 防災講習会「減災を学ぼう会」の報告

住民相互の防災・減災意識と備えの質的向上（発災前、発災後～自助・共助の対策）を趣旨として、住民の皆さんと一緒に学べる講習会を企画し、その第1回目として、以下の通り報告いたします。



- 1) 開催場所・日時
 開催場所：パークハイツ管理棟
 日時：平成29年12月10日（日）午前10時～12時
- 2) 参加状況
 パークハイツ自治会46名・興人マンション自治会12名・パイロットハウス自治会10名・氷取沢町内会10名・平塚パワーズ7名・横浜市磯子区行政他4名、合計89名でした。

- 3) 主な内容
 - ① 第1部 講話「災害時に何が必要なのか… 自助／共助とは」
 講師：相澤 友之 氏 磯子区役所総務部総務課危機管理・地域防災担当係長
 - ② 第2部 平塚パワーズ講習会「災害時は助け上手、助けられ上手」
 * 防災・減災に対する講話
 * 3カ所に分かれてワークショップ
 A. ダンボールトイレ
 B. バスタオルの防災頭巾
 C. 応急手当
 ※ 順番に回り、全てのワークショップを体験



◆◆講話を聴いていた平塚パワーズ（女性防災クラブ）の皆さん◆◆

- 4) アンケート結果から
 - ① 第1部の講話「災害時に何が必要なのか… 自助／共助とは」の内容は、「とても良かった・良かった」が98.3%で高い評価でした。
 - ② 第2部の平塚パワーズ講習会「災害時は助け上手、助けられ上手」の内容は、「とても良かった・良かった」が96.7%で高い評価でした。
 - ③ 行ったワークショップの中では、ダンボールトイレが好評で、実際に作ってみようと思われた方が大半でした。
 - ④ 全体的な感想からの主な意見
 * 勉強になりました実際に学ぶことが大事だとわかりました、共助の大切さを学びました。
 * 日常生活用品で作っておけると言うこと、大変参考になりました、
 * 定期的な開催を希望します。
 * 気にはなりつつ実際はどうにかなるだろう的な甘い考えがまだある、準備だけでも確認しようと思った。
 - ⑤ 今後どのような講習会・研修会を開催してもらいたいですか？
 * 防災について活用できるものを紹介して、震災での経験なども聞きたい。
 * 回数を重ねて身につける。
 * 一回限りではあまり多すぎる内容なので再度同じような内容でお願いしたい。

2月10日（土）19:00～20:30、パークハイツ管理棟にて開催される第9回定例会から今年度の取組の取纏めと今後のプラン検討を含めた進め方主体として、協議する事になりました。
 氷取沢町内住民皆様からのご意見伺いたく、当日のご参加をお待ちしております。

※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、お問い合わせいただければ、開催日時・場所をお伝えします。

磯子台パークハイツ自治会
 氷取沢町内会
 パイロットハウス磯子台自治会
 興人磯子台マンション自治会



★災害!いざという時に備えて、皆で考えていきましょう!★

◆◆◆ 4つのテーマ ◆◆◆

1. 家族との安否確認の方法は大丈夫ですか?
☆ 情報発信の方法を知っておきましょう。
2. すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!
☆ 食料・飲料などの備蓄は十分ですか?
3. 家庭でできる安全対策は何がある?
☆ 簡単にできる耐震を身につけましょう!
4. 外出先でいつも身につけておきたいものは何?
☆ 自宅にいるときに震災が起こるとは限らない!



4つのテーマにわけ、4回に渡って特集しています。
今回は、『2.すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!』です。
防災意識を高めるため、ぜひご覧ください。

『すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!』

大震災が発生した場合、横浜市では3日間の備蓄が呼びかけられています。
これは、ライフライン(ガス・電気・水道)が3日で復旧するという意味ではありません。
支援物資が3日後から配られるだろうという想定です。
また、自治町内会の備蓄は、「救援物資」が中心です。
「食料・トイレなどについては、各家庭で揃える」という、普段からの備えが重要になります。
支援物資は「さわの里小学校地域防災拠点」を通し、各自治町内会単位で配給されます。
ここでは支援物資の内容に限らせていただきますが、**氷取沢町全域への支援物資は、本当に3日後に届くのでしょうか?**
磯子区でも奥まった地である氷取沢地区、独自の防災を考えていくことが不可欠です。

まず各家庭で揃えられる物を考えていきましょう!!

ちょっと考えを変えるだけで、備蓄品のイメージが変わります。

- ☆ 冷蔵庫の中には何が入っている?
- ☆ お米ってどのくらい普段からある?
- ☆ 乾麺(そうめん・うどんなど)は?
- ☆ せんべいやチョコレートなどのお菓子は?
- ☆ レトルトカレー・カップ麺・缶詰 etc.

これらも立派な備蓄品です。
すでにこれだけ合わせれば3日分くらいにはなりそう…。



またローリングストック(使った分だけ買い足す)をすることによって、「賞味期限が過ぎてしまった!」などの心配も少なくなります。
いざ被災時に食べる順番も考えておくことも必要。
「外に出ていてすぐ腐ってしまいそうな物」→「冷蔵庫に入っている物」→「米・レトルト食品」→「缶詰類」といった順番がよさそうですね。

食料以外の備蓄品は大丈夫ですか?
「トイレトーパー」「ティッシュ」「ラップ」「薬」「生理用品」etc. これも同じようにちょっと多めに保管し、「ローリングストック」をすれば、置き場所の心配も軽減されます。



いざという時のために「特別な物を揃える…」という物は、実際には少ないと言えます。
「普段使っているものを多めに買って置く」「取り出しやすい所へ置く」といったことが本当は大事です。
また、ペットを飼われている方にとっては大切な家族。ペットに必要な物もきちんと揃えておきましょう。

● 備蓄品や非常持出品を準備していますか?

- 災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。
また、すぐ取り出せるところに非常持出品を準備しておきましょう。
- 備蓄する量の目安は**最低3日分**です。
- 家族構成や生活スタイルにあわせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく循環型備蓄(ローリングストック)という考え方もあります。



～備蓄品～

飲料水

1人3日分で9ℓが目安です。
(例) 3人家族の場合
3人×9ℓ=27ℓ



食料品

クラッカーなど調理せずに食べられるもの、缶詰(缶切りが不要なもの)など
※食物アレルギーのある方は、自分に適したものを備蓄するようにしましょう。

トイレパック

家庭のトイレなどに設置して使用する「凝固剤」と、「処理袋」のセットです。ホームセンターなどで購入できます。



～非常持出品～

懐中電灯・ランタン

予備電池も用意しましょう。



携帯ラジオ

AM、FM両方聞けるものを用意し、予備電池は多めに用意しましょう。

貴重品

現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証

その他

紙皿、紙コップ、救急医薬品(ばんそうこうなど)、常用薬、携帯電話充電器、ウェットティッシュ、生理用品、ビニール袋、タオル、歯磨用品、軍手、食品用ラップ

■ こんな家庭にはこんな非常持出品も!!

乳幼児のいる家庭で用意するもの

ミルク、ほ乳びん、離乳食、スプーン、おむつ、おしりふき、着替え、ベビー毛布、おんぶひも、乳幼児のおもちゃ



要介護者のいる家庭で用意するもの

着替え、おむつ、障害者手帳、補助具等の予備



妊婦のいる家庭で用意するもの

さらし、脱脂綿、ガーゼ、母子手帳、新生児用品

■ 過去の大地震経験者から学ぶ ～被災時にあってよかったもの～

過去の大地震では、断水が起きたため、生活用水(洗濯、入浴、洗面)やトイレ、飲食用の水で困った人が多くいました。そこで、水の備蓄はもちろん、水を運ぶポリタンクや台車、身体をふくウェットティッシュが特に役立つと言われていました。
また、停電やガスの不通によって、食事や家族間の連絡で困った人も多くおり、懐中電灯や携帯ラジオ、携帯電話用充電器、乾電池、卓上コンロも重宝されました。
さらに、女性については、生理用品などの備蓄も役立つと言われていました。

自分そして家族の性別や年齢を考慮し、必要な備蓄を行いましょう。



さあ、始めよう!今からすぐに出来ること…

次号では、『3.家庭でできる安全対策は何がある?』を特集する予定です!

※ 横浜市危機管理室発行の「防災よこはま」より転載しています。
詳しくは、「横浜市民危機管理室」<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/kikikanri/>をご覧ください。



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会・の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。
 平成29年度の取り組みについて、皆様に広く知っていただくために、ご報告させていただきます。

※ 定例会にて活動内容は報告されていますので、その内容を抜粋しています。

- 第1回定例会 5月13日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 定例会は1回/月とし、各グループの検討結果の報告を定例会にて討議する事となった。
- 第2回定例会 6月10日(土) 19:00～20:30 パークハイツ管理棟1階
 懸念事項としては、土木事務所が氷取沢緑地の擁壁上の排水口の土砂を除去したとの事であったが、未だに閉塞している為、6月10日に土木事務所と確認する事とした。
- 第3回定例会 7月20日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 - 活動助成金交付申請と7月の助成金振込まれる時期の報告を行った。
 - 氷取沢緑地の排水溝が土砂で埋まっている事に対する対処を区政推進課、土木事務所と現地にて立会い調査結果を基に8月に実施する事が決定した。
 - 神奈川県横浜川崎治水事務所が氷取沢地区等の「土砂災害特別警戒区域の指定に向けた、崖地の現地調査等」を国際航業(株)に発注している事が判明し、今後の基礎調査結果の公表及び住民説明会に注目する事とした。
 - 町内の医療機関である■■■■医院に首都圏直下地震等の大災害時の医療、応急処置に必要な医療器材の備蓄等に関する協議依頼書を検討した。今後着目する事とした。
- 第4回定例会 9月9日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 - 7月26日(水)氷取沢神社社務所にて行われた、■■■■医院の副院長との協議結果を報告した。
 - 横浜市民防災センターにて行われている防センアカデミー「わが家・地域の災害対策」等への研修を紹介し、受講による防災力向上の自己啓発を促した。
 - イベント検討グループが計画している「減災を学ぼうの会」の企画(案)が報告され、開催趣旨、開催場所、講習項目/方法及びスケジュールについて討議した。
 - 特命事項検討グループから防災拠点/自治町内会間の通信有効ツール調査、氷取沢町安全安心マップのバージョンアップ及び安否確認に関する調査結果の報告があった。
- 第5回定例会 10月14日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 - 横浜市の災害時の医療提供体制及びトリアージ(START法)について中里医院副院長の講演を受講した。
 重症・中等症・軽傷を判断する事は大災害時は必要となるので分かり易く説明して頂いた。講演資料を基にしたカラー印刷された会報を発行/全戸配布する事とした。
 - 備蓄倉庫は市の直轄地以外に空家対策がある、トイレ問題について市は排泄物を生ごみとしての処理を4日後より収集運搬する事を目標としているが、町内に最低でも1週間分の収集場所の確保を目指し検討する。土砂災害については横浜川崎治水事務所の調査結果の公表/住民説明会と公用地は行政との協議を行う事とし、擁壁については「擁壁チェックシート」を活用して第1次評価を行う事とした。
 - 特命事項検討グループからアマチュア無線クラブ、AED配置状況、帰宅困難者協力店、自家発電設備保有ガソリンスタンド等の調査状況の報告があった。

- 市民防災センター体験ツアー、まちづくりコーディネーター等派遣申請書、特養自然村との協議案内書を基に協議した。
- 第6回定例会 11月11日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 - 特養自然村及びケアプラザとの打合せにて、自然村は大災害時67人、ケアプラザは90人の受入を計画し3日分の食料品/おむつ及び毛布等の備蓄品を自然村は3年計画で準備中、ケアプラザは完了していた。但し、備蓄品は高齢者を対象としている。地域応援協定書を締結して、町内からの受入協定を目指す又、老健ほのぼの/ひとりざわとの打合せを行い、町内の避難所の確保を目指す事とした。
 - 課題検討グループの今後の活動計画にて備蓄倉庫は横浜教会前の市直轄地は町内の中心地域であり、最適地として定例会終了後、登記関連の資料を行政に渡し、調査して貰う事とした。
 - イベント検討グループは11月8日(水)に平塚パワーズの講習を5名受け、段ボールトレ/バスタオルの防災頭巾/応急手当のワークショップを行う事とし、ポスター案が提示された。
- 第7回定例会 12月9日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 行政とコーディネーターと共に課題検討グループから興人法面及び氷取沢神社奥の擁壁調査結果の報告があった。調査は国交省発行の「我が家の擁壁チェックシート」(横浜市は本シートにて1次評価として活用している。)を使用して行われた。その結果、安全度は現状ほど安定した擁壁と評価された。但し、擁壁に生えている草木の除去やクラックのモルタル補修による鉄筋腐食対策等の助言があった。
- 第8回定例会 1月13日(土) 19:00～20:30 氷取沢神社社務所
 - 老健ほのぼのとの打合せにて、地震や風水害時に町内からの受入に関しては今後協定書を作成して協議する事となった。
 - 防災倉庫設置候補地について、行政との協議を行って来たが、教会近くの私有地所有者の方から倉庫設置の提案があり、傾斜地の安全対策含めた設置費用と市民まち普請事業への申請を検討する事となった。
 - 「減災を学ぼうの会」のイベントにて行った、アンケート速報があった。住民参加者76名、ゲスト11名計87名で予定の参加者であった。アンケート結果は好評であった。反省点等を含めた今後の意見として、「防災意識の少ない人達をどの様にして参加してもらうか?」「イベント参加者に会員になって貰う手段」「ターゲットを絞った講座にて勉強しながら興味をテーマによる意識作り」等があげられた。
 - 特命事項検討グループが作成した「氷取沢安全安心マップ」を基にした討議を行った。
- 第9回定例会 2月10日(土) 19:00～20:30 パークハイツ管理棟
 - 老健ひとりざわとの打合せ結果、協定書を作成し、避難者の受入れの締結を目指す。
 - 平成29年度ヨコハマ市民まち普請事業 二次コンテスト 1月27日(土) 9:30～16:00横浜市市民活動支援センターに出席した結果報告があった。
 - イベント検討グループから、問題点・課題、対応方法・案及び来年度に掛けての展開案が提案された。
 - 防災講座の紹介がされた。
 - 特命事項検討グループから氷取沢安全安心マップバージョンアップ版と今年度の取組の取組めと今後の進め方の報告があった。



介護老人保健施設での防災訓練の様子(2018.3.6)

4月(来年度)からも、平成29年度同様に定例会で協議を重ね、グループにわかれて活動を進めていく予定です。
 ぜひ、たくさんの方のご参画をよろしくお願いいたします。

※ 下記へお問い合わせしていただければ、開催日時・場所をお伝えします。

磯子台パークハイツ自治会 :
 氷取沢町内会 :
 パイロットハウス磯子台自治会 :
 興人磯子台マンション自治会 :

★災害!いざという時に備えて、皆で考えていきましょう!★

◆◆◆ 4つのテーマ ◆◆◆

1. 家族との安否確認の方法は大丈夫ですか?
☆ 情報発信の方法を知っておきましょう。
2. すぐに揃えられる備蓄品を考えてみよう!
☆ 食料・飲料などの備蓄は十分ですか?
3. 家庭でできる安全対策は何がある?
☆ 簡単にできる耐震を身につけましょう!
4. 外出先でいつも身につけておきたいものは何?
☆ 自宅にいるときに震災が起こるとは限らない!



4つのテーマにわけ、4回に渡って特集しています。今回は、『3.家庭でできる安全対策は何がある?』です。防災意識を高めるため、ぜひご覧ください。

● 震度の揺れの目安(気象庁震度階級関連解説表より)

震度1 屋内にいる人の一部がわずかに感じる	震度4 座りの悪い置物が倒れる	震度6弱 固定していない家具の大半が移動し、ドアが開かなくなることがある。
震度2 電灯など下げものがわずかに揺れる	震度5弱 下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類が落ちることがある。	震度6強 窓ガラスは破損し、固定していない家具の多くが倒れる。
震度3 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる	震度5強 固定していない家具が、倒れることがある	震度7 固定していない家具のほとんどが倒れ、飛ぶこともある。

● その場に合った身の安全とは?

大きな地震が起きたら、冷静に対応するのは難しいものです。しかし、一瞬の判断が生死を分けることもあります。地震が起きたら、あわてず、落ち着いて行動するために、「その場に合った身の安全」を身に付けましょう。自分の身は自分で守ることが基本です。

■ 自宅にいるとき

- クッションや布団、枕など近くにあるもので頭を守る。
- 丈夫な机の下に身を隠す。
- ガラスの破片などでケガをしないように注意する。
- あわてて外に飛び出さず、ドアや窓を開けて出口を確保する。



● 家の中の安全は大丈夫?

- 家の中の安全を点検し、必要な対策をしましょう。



家具転倒防止器具を取付けよう!!



『家庭でできる安全対策は何がある?』

ちょっとした工夫で、簡単にできる耐震を身につけましょう。基本的なコツをちょっと覚えれば、家庭の色々な場所を今よりももっと『地震に備えた我が家』に変えることができます。

- ◆◆◆ 普段からの備え ◆◆◆
- ☆ 家具の固定をしましょう。
 - ☆ 玄関(出入口)に倒れてふさいでしまうようなものは置かない。
 - ☆ 寝ている時に頭に落ちてきそうなものは置かないように。
 - ☆ テレビの固定も忘れずに。
 - ☆ 割れて飛び散りそうなガラスには、飛散防止用フィルムなどの対策をしましょう。



- ◆◆◆ 家具の固定のポイント ◆◆◆
- ☆ 新聞紙や本などを挟んでいませんか?これって実は何の意味もありません! 摩擦で滑って何も挟んでいないのと同じ状態です。
 - ☆ ボール式器具で固定する場合、奥(壁側)に取り付け、床にもストッパーなどで固定しましょう。
 - ☆ 上下に分かれている家具は、連結しておきましょう。
 - ☆ 観音扉はとめ金などを取り付けておくことで安心ですね。
 - ☆ とめ金で固定する場合、壁ごと抜けてしまわないかもチェックしましょう。
 - ☆ キャスター付きの家具には、下皿を付けましょう。

- ◆◆◆ ちょっとした知恵 ◆◆◆
- ☆ 使った包丁や食器は、すぐにしましましょう。
 - ☆ 寝室にはすぐに履ける履物を用意しておきましょう。
 - ☆ かかどがきちんとあるものがお勧めです。
 - ☆ その履物の中に靴下も入れておくといいですよ。
 - ☆ カーテンは閉めて寝ましょう。窓ガラスが割れた場合の飛散防止になります。



皆さんが知っている防災対策もぜひ教えてください! 皆で知恵を出し合ひましょう!!

さあ、始めよう! 今からすぐ出来ること...

次号では、『4.外出でいつも身につけておきたいものは何?』を特集する予定です!



氷取沢町内住民の皆様

「ひとりざわ防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。
 今年度の初報となる「会報No.9」を発行します。表面には活動報告として今年度の活動計画/状況、裏面には7月15日(日)に開催した「第2回減災を学ぼう会」について報告します。又、次号「会報No.10」では、「4.外出でいつも身につけておきたいものは何?」を特集する予定です!
 ぜひ一読いただき、一緒に防災意識を高めて行きましょう。

S1 今年度の活動計画

- ①住民が活用出来る機能を有した、防災備蓄庫の整備
 - ・選定した設置候補地に於ける災害時と定常時の機能、仕様の検討
 - ・備蓄機材のリストアップと防災拠点での機材取扱訓練
 - ・機材購入費用対策として寄付金等の事前調査
- ②トイレ問題
 - 首都圏直下地震等の大震災後は下水処理場/管渠が損壊し、トイレが長期間使用不可となり、排泄物は生ごみとして処分する事になる。
 - ・町内の各所に生ごみを最低一週間廃棄保管出来る場所の選定
 - ・衛生対策/カラス対策/ブルーシート等の飛散防止機材と備蓄検討
 - ・廃棄保管する為のルール等の構築
 - ・構築したルール等の周知徹底の為の訓練
- ③町内の避難所の確保
 - ・町内の3施設との地域交流を深める事による協定書の締結
 - ・協定書に基づく、町内での相互協力と大災害時の協力体制の構築
 - ・大災害時の高齢避難者や体の不自由な方々の避難ルールの構築
- ④大災害時の医療課題の検討
 - ・大災害時の横浜市の医療体制/トリアージに関する講演の検討
 - ・救援救助のワークショップ等による地域の防災力向上検討
 - ・住民にて出来る軽症者への医療に要する医療品備蓄検討
- ⑤土砂災害危険個所に対する対応
 - ・横浜川崎治水事務所が実施した町内土砂災害調査結果の把握
 - ・土砂災害特別警戒区域等に対する行政との協議と対応策の検討



S2 今年度の活動状況

今年度は役員会、重要事項検討G、IA* 検討G、広報G等の報告を定例会にて討議して、防災まちづくりのプランの構築に向け推進している。

- ①「第10回定例会」5月20日 19:00~20:30氷取沢神社社務所
 - ・18年度地域まちづくり活動助成金交付申請書、活動計画書、収支予算書等の申請状況の確認
 - ・3月20日に行った「老健ひとりざわ」との地域交流会の報告と地域交流協定書(案)に関する協議
 - ・7月開催予定の「防災を学ぼう会」の計画についての協議

- ②「第11回定例会」6月17日(日) 19:00~20:30氷取沢神社社務所
 - ・備蓄庫の仕様検討を行い、住民の憩いの場とする為にも窓、換気扇 LED蛍光灯、断熱工事及びソーラー発電を設けた見積の実施を決定
 - ・備蓄器材リスト(案)を基に検討し、備蓄庫含めた財源について協議
 - ・備蓄機材等の点検および作業訓練について協議
 - ・7月15日の午前中にパークハイツ管理棟にて「減災を学ぼうの会」を開催する事とし、開催内容について協議
- ③「第2回減災を学ぼう会」7月15日(日)10:00~12:00パークハイツ管理棟にて開催
 - ※詳細は裏面を参照
- ④「第12回定例会」7月15日(日) 19:00~20:30氷取沢神社社務所
 - ・大阪北部地震及び西日本記録的豪雨の状況を基にした協議
 - ・ブロック塀の改造・補強に関する資料を基にした協議
 - ・大岡川水系洪水浸水想定区に関する協議
 - ・磯子区洪水ハザードマップに関する協議
 - ・備蓄庫の概算見積書を基にした協議
 - ・第2回減災を学ぼう会の結果速報
 - ・スクールゾーンに設置の擁壁上ブロック塀を7月15日に調査し、その結果を速報配筋、控え壁及び鉄骨補強が施工され、外見上問題点が無い事を確認した。但し、擁壁とブロックとの接合部の差筋等は高所作業車と鉄筋探査機による点検が必要で、今後、行政含め検討を行う事となった。
- ⑤地域交流協定書の協議
 - 地域交流協定書(案)を基に介護老人保健施設ひとりざわ/ほのぼの及び特別老人ホーム磯子自然村との協議を開始
- ⑥「第3回減災を学ぼう会」11月25日(日)開催予定
 - ・女性防災クラブ平塚パワーズの講演予定
 - ※詳細については、後日地域の掲示板にてお知らせします。



~☆☆~ 会員募集 ~☆☆~

定例会は毎月第3日曜日19:00~20:30、氷取沢神社社務所にて開催しています。
 会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】

- ★ 氷取沢町内会
- ★ パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会

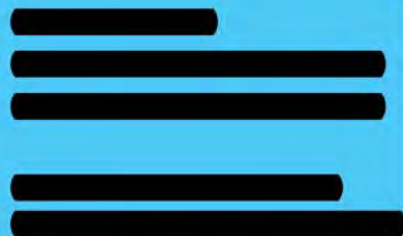


『第2回 減災を学ぼう会』の報告

7月15日(日)に第2弾として、「女性目線での震災に備えて」をテーマに『減災を学ぼう会』をパークハイツ管理棟で開催しました。

☆☆☆ プログラム ☆☆☆

- ① 氷取沢防災まちづくりの会の活動報告
- ② 地震の発生にともなう被害予測と対応
- ③ 家屋内の減災(安全対策)
- ④ 映画【隣の防災家族】
- ⑤ 備蓄品と使い方
- ⑥ 非常食の作り方と試食



【参加者人数】	
① パークハイツ自治会	40名
② 興人マンション自治会	14名
③ パイロットハウス自治会	9名
④ 氷取沢町内会	6名
⑤ 役所関係	3名
⑥ 上笹下地域ケアプラザ	1名
合計	73名



☆☆☆ アンケート結果 ☆☆☆

- 1「地震の発生にともなう被害と対応」の内容について
 - A.とても良かった 61.2%
 - B.良かった 38.8%
- 2「家屋内の減災」の内容について
 - A.とても良かった 55.1%
 - B.良かった 40.8%
 - C.あまり良くなかった 4.1%
- 3「隣の防災家族」は如何でした
 - A.とても良かった 61.2%
 - B.良かった 38.8%
- 4「備蓄品と使い方」の内容について
 - A.とても良かった 59.2%
 - B.良かった 36.7%
 - C.あまり良くなかった 4.1%
- 5 ご意見(抜粋)



- ・最低の備蓄を用意したつもりがまだまだ不足しているので、早速実行します。・気がついたところあり。
- ・分かり易く為になりました。・勉強になった。・参考になりました。・家の中を点検して準備したい。
- ・知恵やアイデアを共有することの大切さが分かりました。・身近な内容の講習会をお願いします。
- ・顔見知りになる事が大切なことだと思います、と同時に地域での活動の重要性を感じました。
- ・詳しく調べてくださって、とても分かり易かったです。自分でしっかり準備しようと思いました。

→アンケートご意見の続き

- ・写真の説明で分かり易かったです。・実物が見れて良かったです。
- ・この様な機会がないと防災について考えるタイミングは中々持たないので良かった勉強になりました。
- ・具体的に(避難場所経路)等を、意外と知らない人が多く見受けられた。
- ・備蓄品の買い替え補充を考える。室内の防災の弱点箇所をチェックしたい。・備蓄品の一式をまとめて配布してほしい。
- ・地震・大雨で対応の仕方が違うので区別した説明会を企画してほしい。
- ・参考になった。家に帰ったらすぐ出来る事はしようと思う。・氷取沢エリアの危険箇所がわかった。
- ・頑張ってください。いつもありがとうございます。・普段来ない人が如何に集まるかが大切だと思う。
- ・口の中の口腔ケア用ウエットティッシュは早速用意したいと思います。
- ・トイレの水は流してはいけないと聞いています。凝固剤やトイレ用のビニール袋等備蓄しています。
- ・よく調査されていてとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・前回の防災講習会で教わったパスタオルでの防災頭巾作ってあります。家族分ですがとても勉強になりました。
- ・あまり意識してこなかったことを教えてもらい、良い内容だと思いました。
- ・地域の避難場所の確認が改めて理解できた。ビデオみて参考になりました。
- ・日頃から地震対策は常に備蓄品を点検しておく必要を痛感しました。
- ・トイレ問題など参加者以外への広報が必要だし、必ず徹底してもらうことが重要で難しいと思います。
- ・何度も同じ事であっても重要だと思います。・講演内容が分かり易かった。
- ・地域に住んでいる方が中心となった活動組織が行っている講座ということもあり参加者が多いと感じた。
- ・今後も地域に向けて、防災、減災知識の普及、体制づくり よろしくお祈りします
- ・トイレに水を流さない様に全体に知らせてほしい。お風呂の水を流そうと思っていた。
- ・備えの大切さと防災に対してもっと意識を高く持つことを改めて実感しました。住んでても知らない所があり参加して良かった。



「雑感」アンケートを集計・考察していて…

- 「第2回減災を学ぼう会」開催の趣旨は、ズバリ、平塚パワーズの氷取沢版を狙ったものです。とかく「防災対策」というと男性優位で、弱者を助けてあげよう精神が全面に出てきますが、現実はどうでもなく、被災現場の力仕事は別にして、避難所運営等は女性が多く活躍しています。
- 今年は7-8月に台風が多く、風水害が全国的に発生し、大きな傷跡を未だに残しています。直近では北海道の南部の地震で北海道全域が停電(ブラックアウト)し、札幌市内でも電化の進んだ高層マンションは悲惨な事態に！過去の教訓が生かされず、熊本や北大阪の地震でも多くのマンションで同様の被害が発生、結局防災計画があっても全く機能しなかった集合住宅が大半という報告も出ています。官民挙げての対策不足は「想定以上…」という逃げ口上では済まされないものがあります。
- しかし、被災された方々の気の毒な状況に同情するもの自分自身はどうなのか。最近では識者が「諦念、忘却、楽観 私達は惨禍から学んだのか」と言い、某週刊誌が「国も認めた危険度82%の横浜にまもなく大地震 その時なにか…374万人に逃げ場はあるのか？」と個人の自覚と社会全体の対応準備の重要性を数字を挙げて力説しています！
- 発災直下、自分の身は自分で守るしか道はありません！「ああして、こうしておけば…」と被災してから反省しても時はすでに遅し。須らく何事も【事前の備え】が肝要なのですが、「年を経ると人は一様に自分自身では、なかなか自身の人生の修正をし難いものだな」と改めて考えさせられています。外圧をかけられ、脅かされて丁度良い加減なのかもしれません。

イベントリーダー [Redacted] 記

さあ、始めよう！今からすぐ出来ること…

次号では、【4.外出でいつも身につけておきたいものは何?】を特集する予定です！





氷取沢町内住民の皆様

「ひとりざわ防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。
「会報No.10」を発行します。表面には今年度の活動状況、裏面には11月25日(日)に開催した「第3回減災を学ぼう会」について報告します。又、前号「会報No.9」に今回の会報にて報告を予定していた、「4.外出でいつでも身に付けておきたいものは何？」は次号にて特集します。
ぜひ一読いただき、一緒に防災意識を高めて行きましょう。

§1.定例会及び減災を学ぼう会の開催日時

	開催日時	開催場所
第13回定例会	9月23日(日)19:00～20:00	氷取沢神社社務所
第14回定例会	10月21日(日)19:00～20:00	氷取沢神社社務所
第15回定例会	11月25日(日)19:00～20:00	パークハイツ管理棟
第16回定例会	12月16日(日)19:00～20:00	パークハイツ管理棟
第3回減災を学ぼう会	11月25日(日)10:00～12:00	パークハイツ管理棟

§2.活動概要

1.防災倉庫の設置

大災害発生後、生存率が急激に低下する72時間以内に救援救助する為には防災拠点に救援救助機材を取りに行くのでは間に合いません。災害時は機材備蓄庫として、平常時は住民の憩いの場を兼ねた防災倉庫を氷取沢公園又は老健ひとりざわ近くの遊休地のいずれかに設置する事で費用対効果を検討しています。又、防災倉庫が有する機能として災害時と平常時の比較検討している事項を以下に記載します。

①災害時

- ・4自治町内会及び地域防災拠点(さわの里小学校)との連携を図る機能
- ・備蓄機材の搬出/運搬性の機能
- ・軽症者の応急手当が行える治療場機能
- ・記録的大雨時の緊急避難所機能

②平常時

- ・備蓄機材の訓練、整備/メンテナンス及び員数チェック等の利便性
- ・新規購入備蓄機材の受取/搬入等の利便性
- ・住民が利活用する際の利便性

③平常時の住民の方々が活用出来る併設機能の現状の意見収集結果

- ・新鮮な地元野菜をボランティアの協力の基販売する所
- ・地域から寄贈された書籍類による図書館
- ・子育てママや介護者の方々がホット出来るよろづや相談カフェ
- ・肩/腰をほぐす簡易マッサージをして貰える所
- ・散歩途中に休息が取れ、コミュニケーションが取れる場

防災・減災



2.大災害時のトイレ問題

首都圏直下地震等の大震災時は湾岸部にある下水処理場が損壊する事が想定されます。又、横浜市は下水道管の耐震化が遅れている事から排泄物は生ごみと共に焼却処分されます。収集車による回収は大災害発生後1週間程度は行われない事が想定されます。現状の生ごみ収集場所付近に少なくとも1週間程度保管可能な場所を4自治町内会(3団地は管理組合との協議を要す)が主体となって原案を作成し、臭気/衛生・カラス対策等を付加して住民に報告/アンケート等を行います。更に、大災害時に多量に発生する災害ごみの廃棄場所に関しては行政と協議して廃棄場所を確保します。

3.老健ほのぼの/ひとりざわ及び特養自然村の3施設との地域交流協定書の締結

地域と3施設の交流を深め地域交流協定書を締結し、首都圏直下地震等の大災害時はお互いに助け合い、町内の要援護者、地域防災拠点に行けない高齢者及び体が不自由な方々等の被災者を受け入れて貰う事を目指しています。課題としては横浜市は民間施設含め福祉避難所としての協定を推進している為、地域交流協定書の締結を阻害する可能性があります。氷取沢小学校の廃校に伴い町内にあった地域防災拠点がなくなった経緯があり、横浜市との協議を行いながら、民間施設である老健ほのぼの/ひとりざわとは地域枠を設けて頂いて町内の避難者の受入の確保を目指します。

4.今年度指定された町内の土砂災害特別警戒区域について

これまで、町内には特別警戒区域の指定はなかったが、昨年度神奈川県横浜川崎治水事務所が氷取沢地域等の現地調査・測量した結果、今年度町内に多くの土砂災害特別警戒区域が指定されました。土砂災害に伴う被害想定と横浜市と協議しながら氷取沢防災ハザードマップを作成すると共に対応策を検討します。

5.大災害時の医療問題

首都圏直下地震等の大災害時は全国からの応援部隊が到着するまでは地域の共助が主体となって救援救助を行わなければなりません。一方、横浜市の医療体制では磯子区に重症者を受入れる病院はありません。近場としては横浜国立大学附属病院、横浜南共済病院及び済生会横浜市南部病院となっています。中傷者を受入れる近場の病院は金沢文庫病院等ですが、必ず開院するとは決まっていません。又、国道16号線と鎌倉街道は大災害時に一般車は通行出来ない故、それらの道路のバイパスでもある笹下釜利谷道路は交通渋滞が発生する事が想定されます。第6分団、消防及び行政等の関連部署を含めた協議の基に対応策を検討する事になります。会として行う大災害に備えた医療対策を以下に記載します。

- ①最大多数の傷病者に最善の医療を施す為、傷病者の緊急度・重症度により治療の優先度を定めるトリアージ(START法)が行われます。トリアージ及び横浜市の大災害時の医療体制に関する、講習会を今後開催します。
- ②町内の医療機関は診療所と歯医者2箇所故、応急手当を望まれる軽症者の為の治療所を防災倉庫に併設すると共に応急手当に必要な備品を備蓄します。
- ③減災を学ぼう会にて行って来た身近の物で応急手当を行うワークショップを継続的に開催します。

～☆☆～ 会員募集 ～☆☆～

定例会は毎月第3日曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所又は、パークハイツ管理棟にて開催しています。

会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】

- ★ 氷取沢町内会
- ★ パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会

『第3回 減災を学ぼう会』の報告

11月25日(日)に、女性防災クラブ平塚パワーズの皆さんを講師に迎え、研修会を開催いたしました。参加状況とアンケートの結果をお知らせいたします。



地域防災力は女性パワーでアップ!
平塚パワーズは、女性の視点に立つて防災に関する知識、技術の向上を目的として結成されたボランティア団体です。日頃は各地域の防災訓練や各種イベントへ参加し、身近な物で作る防災グッズの作り方の普及や応急手当などのさまざまな防災啓発活動を行っています。

試食したカップケーキの作り方

おやつやデザートに カップケーキ

材料 (10個分)
ホットケーキの素 200g
卵 1個、水または牛乳 200cc
チョコチップ少々、紙コップ 10個、輪ゴム

作り方

1. 材料をすべてボリ袋に入れよく混ぜ合わせる
 2. 一袋に3〜4個位入れ空気をしっかり抜き口は輪ゴムでしっかり留める
 3. 大きめの鍋を選び、沸騰したらボリ袋を入れてふたをして20〜30分加熱する
- *カップの上からクルクルとむいて食べると手が汚れません。
*小麦粉(200g)とベーキングパウダー(10g)でもできます。
*卵や牛乳を使用しなくてもホットケーキの素なら水だけでOK!



I. 参加状況とアンケート回収数

【参加者自治町会別】	人数	【内当会会員】	人数
①パークハイツ自治会	48名	①内当会会員	9名
②興人マンション自治会	8名		3名
③パイロットハウス自治会	13名		5名
④氷取沢町内会	1名		1名
⑤役所関係	2名		
⑥上笹下地域ケアプラザ他	4名		
	計76名		計18名

会員と外部視察者除く一般参加者は52名、但しアンケート提出は54名になっています。



II. アンケート結果について

①数値結果報告

【総数54名】

- 1「女性防災クラブ平塚パワーズ」による研修は如何でしたか？
- | | | |
|-----------|-----|-------|
| A.とても良かった | 44名 | 81.5% |
| B.良かった | 10名 | 18.5% |
- 実戦形式だった点が良かった パンダナ・三角巾の実際の使い方が良かった

- 2「防災グッズ等」は参考になりましたか？
- | | | |
|-----------|-----|-------|
| A.とても良かった | 39名 | 72.2% |
| B.良かった | 15名 | 27.8% |
- 初めて知ったグッズ・方法が多かった

- 3「本日の全体的な研修会の内容は如何でしたか？
- | | | |
|-----------|-----|-------|
| A.とても良かった | 42名 | 77.8% |
| B.良かった | 12名 | 22.2% |

- 参加者のコミュニケーションの場としても機能していた 今後も定期的開催を！忘れない為に！
聞いているだけではわからないことを体験出来た すごく勉強になりました



②記述結果報告(ランダム)

4市の助成金を活用して防災倉庫を町内に設置する事で検討しています。
町内の方々が活用できる機能を併設した場合、どの様なものが良いですか？

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 地元農家の協力でとれた野菜を販売する | <input type="checkbox"/> ハザードマップに表示 |
| <input type="checkbox"/> 小さな図書館、誰でも立ち寄れるカフェタイプの場所に | <input type="checkbox"/> リサイクル市場は |
| <input type="checkbox"/> 犬・猫用の飼料の備蓄も必要では？ | <input type="checkbox"/> 子供の遊び場・勉強できる場所が良いのでは |
| <input type="checkbox"/> 氷取沢公園に防災倉庫が出来れば良いです | |
| <input type="checkbox"/> みんなが集まれる場所が出来ると良いです | |
| <input type="checkbox"/> 防災倉庫はそれだけで良いのでは。色々付けると有事の際にスムーズにゆかないのでは | |
| <input type="checkbox"/> 防災倉庫とても良いと思います。避難先がさかの里小学校では歩けない方も多いため | |
- 中間施設としてパークの管理棟が利用できれば嬉しいです



5氷取沢町をどのような『まち』にしたいと思いませんか？自由に書いてください！

- 災害に強いまち、耐えられる、一体で動くまちへ
- 災害の時に共助できるまちでありたいです
- マンションと町内会の交流がもっとあったらよいと思います
- 4自治町内会が仲良くできるのを望みます
- 明るいまちで助け合えるようにしたいですね
- 地域ぐるみで助け合い共に絆をきづいてゆきたい
- 安全・安心の町
- 楽しいまち
- 住民達の顔が見えるまちになったら良いと思います
- どんな方がお住まいか、風通しの良いまちで、困り事も気軽に相談できる
- 安全で清潔なまちにしたい
- 風通しの良い、住民の顔が見えるまち
- 挨拶ができるまち
- 安心して住めるまち
- お互いに協力しあう仲間づくり
- コミュニケーションが充実したまち
- 先ず顔見知りになり、話合える環境づくりをして頂きたい
- 氷取沢町と三田地がもっと交流して活発な活動が出来ると良い
- 4自治町内会が仲良くできるのを望みます
- 高齢者が多くなってきたので、声かけやすい関係を維持
- みんなが気軽に声かけができるまち
- 今までのように緑豊かで安全なまちであり続ける様に、地域の人みんなで守ってゆきたいですね
- 地域の方々との交流を増やし、安心して毎日が送れるまちにしたい

6「氷取沢防災まちづくりの会」に対するご意見を自由にお書きください

- いつもご苦労様です、頑張ってください
- 協力が大切
- 勉強になりました
- 高齢者が多いので、少しづつ自分で出来る体制で
- まちづくりの会の継続発展が望ましい
- 積極的な取組に対して素晴らしいと思います
- 防災のイベントはとても勉強になります、ありがとうございます
- 活動ご苦労様です、全所に認知してもらえよう、広がっていくことが大事ですね
- 何も無いことが一番良いですが、有事の時に機能できれば良いと思う
- 皆が積極的に参加できるよう防災の時に限らず同好会祭り・夏祭り等でお顔を覚えてキズナを深めてゆく等
- 災害が多い最近ですが、ぜひ盛んに活動をお願い致します

7今後どのような講習会・研修会を開催してもらいたいですか

- 防災拠点の設置等話し合いもお願いしたい
- 繰り返しの訓練が必要だと思います
- ケースバイケースで、今まで知らなかったこと等、いろいろ知りたいです
- ペットを飼っている方もいるので、犬・猫の怪我や共同生活上のヒントがあれば教えてほしい
- 減災を学ぼう会の様な、実施にやってみるの為に必要になります
- 地震体感
- 本日の様に直接係のような研修会が良いですね
- 又このような講習会を開いて頂きたいです
- 同じ内容でもよいので、繰り返し繰り返し実施して頂ければと思います
- 今回の会がとても良かった
- 今日の様に身近な物を使って役立つ事をお願いします
- 同じような講習会を続けてほしい
- 繰り返す事も必要だと思いますが、新しい事も知りたいです
- 具体的な方法を教えてもらいたい
- 今回と同じ、何回でも多くの方が出席をされるよう呼びかけをする
- 新しい情報
- 避難訓練も氷取沢公園を使って、できれば備蓄も管理棟に備われば良いなと思う
- 常に4自治町内会が如何に連携できるかが一番と思うので、その工夫を考えて頂きたいと思ます



「雑感」アンケートを集計・考察して...

今回は氷取沢町内会でご不幸があり、関係者がそろって通夜葬儀に参列が必要となり、参加者が1名のみになりました。過去3回の「学ぼう会」の講師・外部来賓/視察者除くスタッフ入れた住民参加者数は第1回が78名(89名)第2回69名(73名)、第3回70名(79名)で()内は講師他全体数、今回も第1回同様氷取沢の参加あれば実数は変わらない結果となっています。動員に対する反省は各自自治会毎の総括に任せますが、イベント部の全体の運営からすると適正規模で、逆に参加者が多いと運営面で会場の狭さから混乱を招く形になっていたと考えます。今回の様に、実技実習を全員が体験する形で開催するなら70名、講義のみであれば100名規模が限界と感じており、今後の開催の参考になりました。想定どおり、実践演習を組んだ研修会にするには事前準備が必要で手間がかかるのですが、参加者の相互の交流が発生したり、笑いがあつたり、賑やかな雰囲気「場」を盛りあげ防災の研修効果以上に、地域の高齢者のふれあい事業の様相となり、健康福祉面での効果が現れていました。普段話した事もない人達が、同じ研修を共にする中で知り合つてゆくのは、ご近所力を鍛えてゆく事と同じで地域の活性化に間違いなくつながってゆきます一良い体験をさせて頂いたと感じています。

平塚パワーズのメンバーは現場の経験を相当積んでいるので、教え方やフォロー/進め方等々、ゆとりをもって「場」の雰囲気を見ながら研修を行う力を持っておられました。今回は傍で十二分に実力を見せて頂きましたがすぐには真似が出来ない”差”を感じています。また、同時に我々の手で実践主体の研修会を自前で開催する事が可能であるか否か、この機会にメンバーとよく検証したいと思っています。アンケートの中の期待や希望に沿う活動のあり方等、全体の総括の中で来期に向けて課題の抽出と対策策定を進めたいと思ます。

イベントリーダー



氷取沢町内住民の皆様

「ひとりざわ防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。

「会報No.11」を発行します。表面には活動状況と「外出先でいつも身につけておきたいものは何？」について報告します。裏面には来年度('19年度)に完成する予定の「氷取沢防災ハザードマップ」の基本図を記載します。基本図は磯子区洪水ハザードマップに表示されている大岡川の氾濫による浸水の恐れのある区域及び今年度氷取沢地域に指定された土砂災害特別警戒区域等を表示しました。

来年度は本図に首都圏直下地震及び記録的大雨発災時に備えた情報を加え皆様のご意見を反映させ、横浜市関連機関と協力して作成して行きます。

S1.活動概要

これまで、地域の現況・課題を検討し、皆様のアンケート結果を踏まえ、課題に対する防災まちづくりの方向性と取組について検討して来ました。来年度は横浜市に防災まちづくりのプランを提出し、プランに基づいて活動を推進して行きます。今年度12月以降はプランのたたき台を検討して来ました。3月2日(土)19:30～21:00パークハイツ管理棟にて開催される定期総会にてこれまでの活動を総括した「氷取沢防災まちづくりプランのたたき台」を協議する事で計画しています。S2.項に一部の検討事項を記載します。

S2.地域の現況・課題に対する方向性と取組

地域の現況・課題	現況・課題に対する方向性と取組
2.1 町内にあった防災拠点(氷取沢小学校の統廃合に伴い、2008年度からさわの里小学校に移行したが、遠くなったことに加え、範囲が拡大したことによる機材/被災者の備蓄/収容能力不足や行政との連携等が課題。	72時間以内に救援救助する機材を備蓄し、平常時は住民が活用出来る機能を有した防災棟の設置を検討します。また、行政との連携の構築を検討していきます。
2.2 高齢化に伴い、4自治町内会の要援護者は約100名登録されています。しかし、未登録の体が不自由な方々が多数います。	横浜市関連機関と協議しながら町内の福祉施設への被災者受入を目指した地域交流協定及び受入細目の締結を検討します。
2.3 大災害時の医療問題 町内には診療所が箇所近場に重症者を受入る医療機関がありません。 更に、釜利谷道路が閉塞・渋滞時のバイパス幹線道路がありません。	軽症者への応急手当・市の医療体制・トリアージ・クラッシュ症候群等のワークショップを継続的に開催します。 釜利谷道路以外の幹線道路に関しては、長期検討事項として市との協議を開始します。

その他の主な取組

- 1.首都圏直下地震等発生時のトイレ問題
- 2.土砂災害特別警戒区域・大岡川氾濫・擁壁/ブロック塀等の危険箇所への対応



☆災害！いざという時に備えて、皆で考えていきましょう！

第4弾「外出先でいつも身につけておきたいものは何？」

～自宅にいるときに震災が起こるとは限らない！～

「仕事中」「通勤通学中」「買い物中」etc.災害が発生した時、必ずしも自宅にいるとは限りません。平均して自宅にいる時間は、16時間程度とされています。

残りの8時間(3分の1)は、外出中ということになります。

外出時に災害が発生した場合、その場所ごとにすべきことは変わってきます。日頃からイメージしておくことがまずは大切です。

そして、何が必要になるのか、最低限の備えを普段から用意しておきましょう。

① 常に常備しておくもの

- * 身元がわかるもの 健康保険証や運転免許証。
- * 緊急連絡先 家族などの連絡先がわかるもの。
普段から連絡方法について、話し合っておきましょう。
- * 常備薬・処方薬のメモ(お薬手帳など)・病院名
数日帰宅できないことを考えて準備しておきましょう。
- * 飲料水・飴やチョコレート
閉じ込められた時などの最低限の飲食になります。
- * その他に便利なもの
 - ・ハンカチ 常に清潔な物を入れておきましょう。
軽症時のガーゼの代用にもなります。
 - ・使い捨てマスク 火災・煙・埃対策のために。
 - ・小型ライト 夜間に被災した場合の停電対策のために。
 - ・笛 閉じ込められた時に周囲へ知らせるために。
 - ・携帯充電器 長時間充電ができない場合を考え、準備しておくといいでしょう。



② 仕事先

- * 食料・飲料水 自宅と同じように最低3日分用意しておきましょう。
- * 動きやすい靴 徒歩で帰宅することを考え、用意しておきましょう。
- * 自宅までの経路地図 携帯電話はすぐに充電が切れてしまいます。
ペーパーで持っているのが良いでしょう。
- * ビニール袋 ゴミや排泄物を入れるなど衛生を保つため、多めに準備しておきましょう。



③ 自家乗用車などでの移動中

徒歩よりも多くの荷物を積んでおくことが出来ます。最低限の飲食料を準備しましょう。また、車はプライバシーが保たれる安全な避難場所になります。エンジンをかけなくても過ごすことが出来るように、寝袋など軽量の就寝グッズや、レジャーシートを用意しておくといいでしょう。



～☆☆☆～ 会員募集 ～☆☆☆～

4月からの来年度も、月1回定例会を開催し、活動していく予定です。
 会合への参加や、活動を一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

【連絡先】

- ★ 氷取沢町内会
- ★ パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会

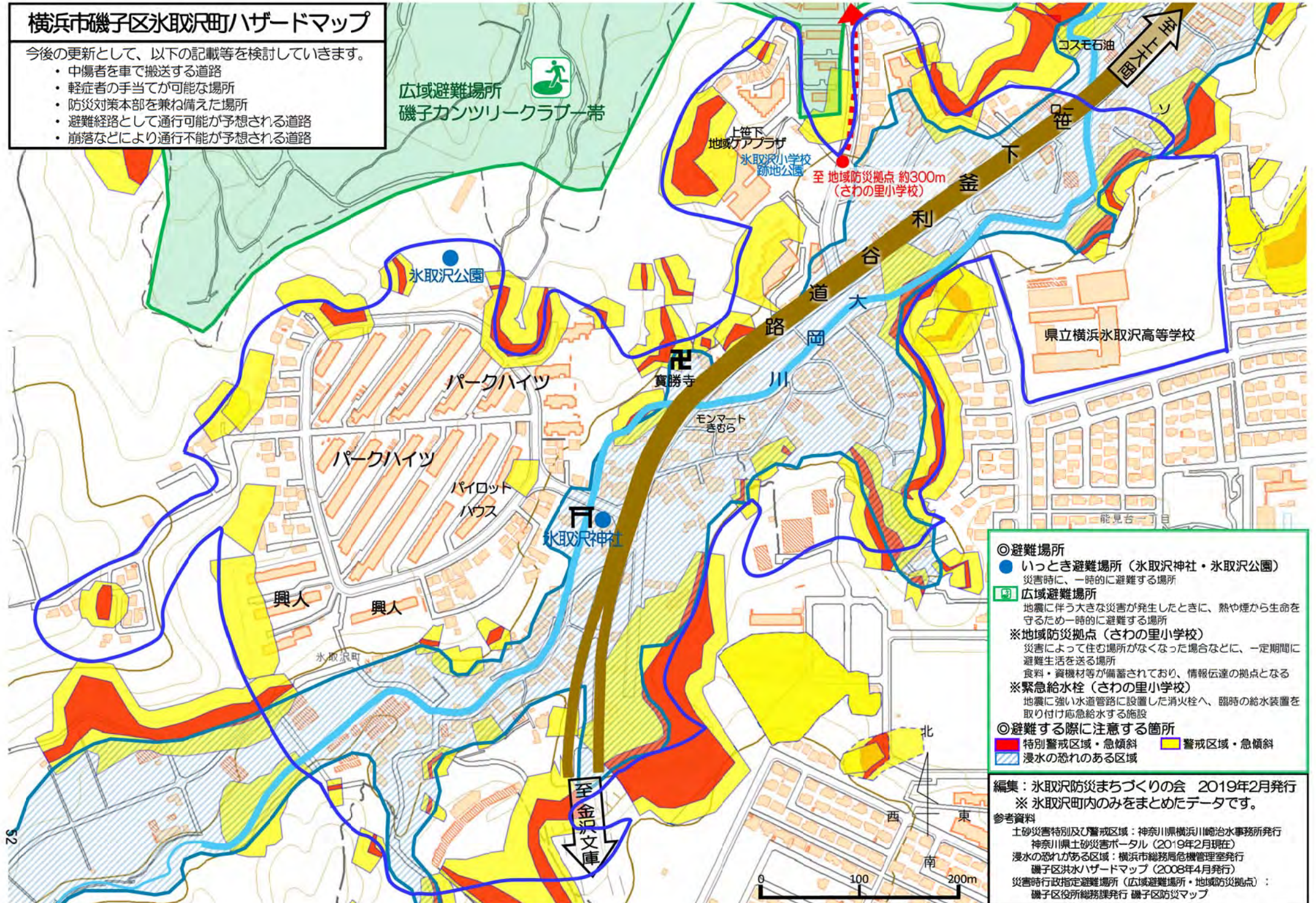


横浜市磯子区水取沢町ハザードマップ

今後の更新として、以下の記載等を検討していきます。

- ・ 中傷者を車で搬送する道路
- ・ 軽症者の手当てが可能な場所
- ・ 防災対策本部を兼ね備えた場所
- ・ 避難経路として通行可能が予想される道路
- ・ 崩落などにより通行不能が予想される道路

広域避難場所
磯子カンツリークラブ一帯



◎避難場所

- いっつき避難場所（水取沢神社・水取沢公園）
災害時に、一時的に避難する場所
- 広域避難場所
地震に伴う大きな災害が発生したときに、熱や煙から生命を守るため一時的に避難する場所
- ※ 地域防災拠点（さわの里小学校）
災害によって住む場所がなくなった場合などに、一定期間に避難生活を送る場所
食料・資機材等が備蓄されており、情報伝達の拠点となる
- ※ 緊急給水栓（さわの里小学校）
地震に強い水道管路に設置した消火栓へ、臨時的給水装置を取り付け応急給水する施設

◎避難する際に注意する箇所

- 特別警戒区域・急傾斜
- 警戒区域・急傾斜
- 浸水の恐れのある区域

編集：水取沢防災まちづくりの会 2019年2月発行
※ 水取沢町内のみをまとめたデータです。
参考資料
土砂災害特別及び警戒区域：神奈川県横浜川崎治水事務所発行
神奈川県土砂災害ポータル（2019年2月現在）
浸水の恐れがある区域：横浜市総務局危機管理室発行
磯子区洪水ハザードマップ（2008年4月発行）
災害時行政指定避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）：
磯子区役所総務課発行 磯子区防災マップ



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は、氷取沢町内会・磯子台パークハイツ自治会・パイロットハウス磯子台自治会・興人磯子台マンション自治会の約1,200世帯を母体とした、横浜市に登録された団体です。

「会報No.12」を発行します。氷取沢防災まちづくりの会は首都圏直下地震及び記録的豪雨時の地域の課題に備え、4自治町内会が連携しコミュニティ・防災・減災力の向上に努め災害に強いまちづくりを目標としています。今年度、住民の皆様のご意見を反映した防災まちづくりプランを横浜市に提出して認定を得る事で考えています。

防災まちづくりプランのビジョンを会報No.12として報告します。併せて、住民の皆様のご意見を反映させる為、アンケートを添付しますので、ご協力の程宜しく願います。また、裏面の7月14日に開催いたしました『第4回減災を学ぶ会』の報告もご覧ください。

防災まちづくりプランのビジョン

1. 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点づくりへの取組

① 目指す将来像

住民の憩いの場を兼ね備えた防災倉庫を有するまちづくり

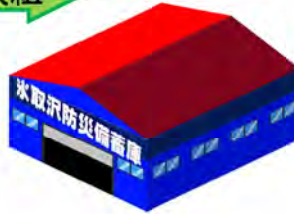
② 現況と課題

- ・ 救援救助部隊到着は72時間以上(地域共助を要す)
- ・ 地域防災拠点の救援救助機材の備蓄数量は不足
- ・ 町内に記録的豪雨等の緊急避難所確保の住民要望
- ・ 日常時は住民の憩いの場を併設の住民要望

③ 対応策

4自治町内会の連携を図る防災拠点として、救援救助等の機材を備蓄庫と以下の機能設置のための検討を実施

- ・ 設置場所は災害時に安全性を維持出来る環境か
- ・ 備蓄資機材を活用した防災訓練が出来る環境か
- ・ 応急手当と手当てに必要な資材等のスペース確保検討
- ・ 日常時に住民が要望している利活用出来る機能検討



2. 町内の避難所確保に向けた取組

① 目指す将来像

要援護者や中等症者以上の被災者を受入れて貰える町内避難所があるまちづくり

② 現況と課題 ※防災に関するアンケート結果より

- ・ 小学校の統廃合で町内に地域防災拠点がなくなった
- ・ 現地域防災拠点の老朽化や収容機能への疑問
- ・ 現地域防災拠点は、遠く登り坂のため避難が困難
- ・ 町内に要援護者が避難出来る所の確保

③ 対応策

- ・ 町内の老健及び特養施設との協力・連携
- ・ 施設の防災訓練やイベントでの交流、協力体制の強化
- ・ 行政と町内の福祉避難所に於ける要援護者地域枠の交渉等



3. 大災害時のゴミ・トイレ問題に備えた取組

① 目指す将来像

大災害時に、ゴミ集積場所の確保やトイレ問題による、不衛生状況や体調不良を防ぐまちづくり

② 現況と課題

- ・ 下水処理場までの下水管の耐震化未施工
- ・ 下水処理場の液状化・津波等による損壊が想定
- ・ 発災後、集合住宅排水管の使用可否の検査と啓発が必要
- ・ 未収集物(排泄物・生ゴミ等)の長期集積場確保と衛生対策
- ・ 家具・電化製品及び瓦礫類等の災害ゴミの対応

③ 対応策

- ・ 排泄物を含んだ生ゴミ等の長期保管場所の確保と衛生管理対策
- ・ 震災時トイレの使用ルールづくりと周知・啓発
- ・ 災害ゴミの集積場の確保に関する行政との協議及びルール化



4. 大災害時の医療対策に対する取組

① 目指す将来像

大災害時に地域での負傷者を助け合うまちづくり

② 現況と課題

- ・ 地域の診療所は1箇所のみ。中等症者及び重症者を受入れる医療機関は近場がない
- ・ 災害時の軽症者の重症化を防ぐ機材、体制及び場所等が必要
- ・ 幹線道路である笹釜道路が通行不可や渋滞となった場合のバイパス道路がない

③ 対応策

- ・ 軽症者への応急手当のワークショップを継続実施及び診療部隊体制づくり
- ・ 横浜市の医療体制、トリアージ及びクラッシュシンドロームの啓発
- ・ 軽症者の重症化を防ぐ機材の備蓄と治療場所の確保
- ・ 笹釜道路の災害時バイパス道路の確保に関する行政との協議



5. 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組

① 目指す将来像

危険箇所及び防災・減災に関する様々な情報を可視化した氷取沢防災ハザードマップの継続的な更新と発行

② 現況と課題

各種ハザードマップ等が行政から発行されているが、それらを網羅した町内の土砂災害洪水・冠水等の危険箇所及び防災・減災情報が一見出来る地域限定の拡大ハザードマップが必要

③ 対応策

氷取沢ハザードマップ基本図に防災・減災に係る情報を追記し、全戸配布と住民からの意見聴取に努め、継続的にバージョンアップ等を行う



～☆☆☆～ 会員募集 ～☆☆☆～

定例会は毎月第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所又は、パークハイツ管理棟にて開催しています。会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

- 【連絡先】
- ★ 氷取沢町内会
 - ★ パークハイツ自治会
 - ★ パイロットハウス磯子台自治会
 - ★ 興人磯子台マンション自治会



水取沢町内住民の皆様

「水取沢防災まちづくりの会」は水取沢町町内会と3団地自治会を母体とした、横浜市に登録された団体です。「会報No.13」を発行します。当会は首都圏直下地震及び記録的豪雨時の地域の課題に備え、4自治町内会が協力し合いコミュニティ・防災・減災力の向上に努め災害に強いまちづくりを目標としています。公民連携した大災害に備える「水取沢防災まちづくりプラン草稿」を市に提出する為、会報No.12にて住民の皆様のご意見を反映する為のアンケートを行いました。アンケートの回収率は約20%と低い結果でありましたが多くのご意見・提案等を頂きました。ご意見・提案に関しては、別途意見交換会を開催します。以下アンケート結果の報告を掲載します。

1) 9月1日(水)発行アンケート結果報告

1. 回答数	バイロッド 140世帯	興人 138世帯	パーク 560世帯	水取沢 320世帯	合計 1158世帯
回答数	30.7%	17.4%	10.2%	34.1%	20.1%
	43	24	57	109	233

意見交換会は
2020年2月8日(土)
午前10時から予定!



◆◆◆ 地域まちづくりプランとは... ◆◆◆
地域の目標・方針やものづくり・自主活動など課題解決に向けた取り組みを、地域街づくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまた計画を、地域まちづくりプランとして、市長が認定する制度です。

2. アンケート結果

※パーセントは、回答数での割合です。

問1 あなたや家族、お住まいの状況についてお聞きします。

1-1 年齢で当てはまるものを一つだけ選んでください。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 20～34歳	1	0	0	2	3 1.3%
② 35～49歳	3	2	6	21	32 13.7%
③ 50～64歳	6	6	9	28	49 21.0%
④ 65～74歳	12	10	28	32	82 35.2%
⑤ 75歳以上	18	6	13	21	58 24.9%
⑥ 記入なし	3	0	1	5	9 3.9%
合計	43	24	57	109	233

1-3 お住まいは次の内どれですか。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 戸建て	0	0	0	89	89 38.2%
② マンション	43	24	57	11	135 57.9%
③ アパート	0	0	0	1	1 0.4%
④ その他	0	0	0	3	3 1.3%
⑤ 記入なし	0	0	0	5	5 2.1%
合計	43	24	57	109	233

1-2 家族構成はどれですか。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 一人暮らし	12	4	6	8	30 12.9%
② 二人暮らし	22	14	36	33	105 45.1%
③ 三人以上	8	6	15	62	91 39.1%
④ 記載なし	1	0	0	6	7 3.0%
合計	43	24	57	109	233

1-4 現在お住まいの場所に何年お住まいですか。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 5年未満	6	3	2	13	24 10.3%
② 5～14年	4	2	6	22	34 14.6%
③ 15～29年	9	5	21	21	56 24.0%
④ 30年以上	23	14	28	48	113 48.5%
⑤ 記入なし	1	0	0	5	6 2.6%
合計	43	24	57	109	233

問2 「水取沢防災まちづくりの会」の活動について

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① よく知っており、防災イベント等に参加したことがある	12	14	23	19	68 29.2%
② 会報などを見たことはある	27	9	30	76	142 60.9%
③ 今回初めて知った	1	0	4	13	18 7.7%
④ 記入なし	3	1	0	1	5 2.1%
合計	43	24	57	109	233

問3 あなたが不安に感じている災害は何ですか。次から選んでください。(複数回答可)

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 火災	29	9	32	48	118 50.6%
② 洪水	6	1	3	18	28 12.0%
③ 土砂災害	12	10	10	44	76 32.6%
④ 地震	42	22	56	90	210 90.1%
⑤ その他	2	0	13	1	16 6.9%
⑥ 特になし	0	1	0	4	5 2.1%
⑦ 記入なし	0	0	0	0	0 0.0%
合計	91	43	114	205	453

⑤ その他の記載

※ 暴風雨・雷による停電
※ 停電・断水・トイレが使えない。風災害。ライフラインが止まる。ゲリラ豪雨の対応

※ 文章での回答

※ 立地条件(土砂、崖) 15
※ ライフライン(停電等) 7
※ 高齢化 4
※ 災害への不安・対応困難 7



問4 「防災まちづくりプランの目標」について、あなたの考えに最も近いもの一つを選んでください。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	41	24	55	102	222 95.3%
② 反対	0	0	1	0	1 0.4%
③ どちらでもない	2	0	1	3	6 2.6%
④ 記入なし	0	0	0	4	4 1.7%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* 共助の必要性 15
* 具体的な取り組みを 共助のメリットは何?
* 日常の取組みが大事
* 自助の限界・不安 11
* 自助への不安(10) * 自助の強化を(1)
* 備えの必要性 9 * 情報の共有 4
* 総花的ではなく、具体的提案、行動を

問5 「防災まちづくりプラン」の目標を基に5つの取組みを進めたいと考えています。

5-1 「4自治町内会の連携防災拠点づくり」の取組みと、その理由をお書き。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	34	24	52	101	211 90.6%
② 反対	0	0	1	1	2 0.9%
③ どちらでもない	4	0	2	3	9 3.9%
④ 記入なし	5	0	2	4	11 4.7%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* 防災拠点の必要 8 * 組織づくり 4
* 連携強化(拠点・組織) 5 * 共助の推進 3
* 町内会、自治会の充実 2 * 情報の共有 1
* 防災拠点の復活を * 機材・スペース不足で困難
* 備蓄機材の充実(各自治会、町内会で)
* 拠点を複数箇所に設置 * 活動がわからない

5-2 「町内避難所の確保」の取組みと、その理由をお書き。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	33	23	53	100	209 89.7%
② 反対	0	0	0	1	1 0.4%
③ どちらでもない	2	1	3	4	10 4.3%
④ 記入なし	8	0	1	4	13 5.6%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* 身近な避難所の必要 20
* 他の避難場所の確保 3
* 一人暮らしのため不安 2
* 安全な避難所の必要 2
* 一人暮らし、高齢者対応 * 活動がわからない
* 協定に基づき避難者受入 * 避難路の確保を
* 自宅避難等の推進を



5-3 「災害時トイレ・ごみ対策」の取組みと、その理由をお書き。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	36	24	53	99	212 91.0%
② 反対	0	0	0	0	0 0.0%
③ どちらでもない	1	0	3	2	6 2.6%
④ 記入なし	6	0	1	8	15 6.4%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* 災害ごみ対策 20 * 災害時トイレ対策 21
* ごみの分別の徹底
* ルールの徹底、訓練実施を
* 運営マニュアルによる被災者自身による分担
* 協定に基づき協力する * トイレ用水の確保口
* 避難路の確保を * 活動がわからない

5-4 「災害時の医療対策」の取組みと、その理由をお書き。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	35	23	50	99	207 88.8%
② 反対	0	0	0	0	0 0.0%
③ どちらでもない	2	1	5	2	10 4.3%
④ 記入なし	6	0	2	8	16 6.9%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* 共助の推進 7 * 自助による備え 3
* 高齢者対応 4 * 医療機関との連携 6
* 応急手当等技能の向上 * 活動がわからない
* 通行不能時のバイパス確保 ※ 軽症者受入、診療等への対応可能(協定等)

5-5 「危険箇所、避難場所、防災資源等のマップ化」の取組みと、その理由をお書き。

	バイロッド	興人	パーク	水取沢	合計
① 賛成	35	23	53	98	209 89.7%
② 反対	0	0	0	0	0 0.0%
③ どちらでもない	1	1	2	5	9 3.9%
④ 記入なし	7	0	2	6	15 6.4%
合計	43	24	57	109	233

※ 文章での回答
* マップは有効・重要 14 * マップ化の継続を 4
* 日頃から地域を確認しリスクを知る
* マップを使った訓練を * マップの周知、啓発を
* わかりやすく見やすい工夫を * 活動がわからない
* 避難方法が不明 * 住民参加でマップづくりを
* 避難場所、避難路、う回路、水、電気等の掲載、大木、土砂等危険箇所の記載

問6 「問5」の5つの取組み以外について、ご意見、ご提案がありましたら、下記にご記入ください。

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| * 各自治会・町内会での備蓄も | * 停電時の連絡方法・体制 |
| * 食料、水の備蓄・補給方法 | * 災害時マンションのトイレ使用可否の周知徹底 |
| * マンション上層階からの救助方法 | * 地域住民へのわかりやすい周知・意識啓発 |
| * 避難所以外での避難生活対応 | * 現実的な避難路、避難場所の確保 |
| * 災害時用おむつ開発 | * 危険箇所マップと対策一覧表の作成 |
| * 各取組みの周知、PR | * 公助との連携 |
| | * 自助の推進 |



問7 大災害時や備えの為にあなたが協力出来る事がありますか。

その内容を具体的にお書き下さい。

	パイロット	興人	パーク	氷取沢	合計	※文章での回答
① 登録する	2	5	1	8	16	* 高齢のため不可 7 * 資格がないため不可 4
② 登録できない	26	15	41	75	157	* 経験がないため不可 2 * 体力無し、病床のため 3
③ 記入なし	15	4	13	26	58	* 協定により協力可能
④ 登録している	0	0	2	0	2	* できることは協力、何が出来るかわからないが協力する
合計	43	24	57	109	233	* 登録できる人16名中具体的な記述は2名 (医師・看護師、荷物運び)

問8 防災まちづくりプランの作成に向け、今後の氷取沢防災まちづくりの会の取組みや進め方について、具体的なご意見、ご提案がありましたら以下にご記入してください。

- * 他の活動拠点の確保の検討 * さわの里小への避難路(機子カントリークラブ内ルート)の確保
- * プランの広報、見える化 * 住民意識啓発、継続 * 提案メニューの具体化 * 町内会との関係向上
- * 日頃の防災訓練・教育の早期実行 * 共助を支える必要人材のスキル内容の整理
- * 近隣とのコミュニケーション向上の工夫 * 4自治町内会の取り組みとの関係整理、推進体制整備



3. 氷取沢防災まちづくりプラン(ビジョン)アンケート結果について

大澤浩一(まちづくりコーディネーター)より

今回のアンケート結果で、全体的な傾向と気になったところを取り上げます。

- * 回答者の年齢では65歳以上の高齢者が約6割で、氷取沢では5割程度、3団地では7割前後となっています。65歳以上の高齢者の方からのご意見、考え方が反映されたかたちになっていますが、今後の息の長い防災・減災活動を考えて、若い世代の自助・共助への意見や取組が重要となって来ます。若い世代の声に耳を傾け、関心を引出し参加して頂けるような取組の工夫も望まれます。
- * 「氷取沢防災まちづくりの会」の活動について、2016年に行った全戸アンケートでは知っている方が5割でしたが、今回は9割と大幅に増えており、会の活動が広く認知されてきていると思われます。
- * 不安を感じている災害では、1位が地震で9割強、2位が火災で5割、3位が土砂災害で3割強となっており、この防災まちづくりプランが首都直下型大震災を対象としていることによって、これらの不安への対応として有効であると考えられます。
- * 「防災まちづくりプランのビジョン」については9割を超える賛同が得られています。まちづくりのビジョンおよび目標としておむね共有されていると考えられます。
- * 一方で、「どちらでもない」や無回答の方が数名から十数名みられ、詳細にみるとこれらの多くが防災まちづくりの会を知っている人です。理由として「活動がわからない」等があがっており、まちづくりの目標や内容について理解が十分ではないように思われます。今後はさらに丁寧な説明や周知・普及啓発の方法に工夫が望まれます。
- * さらに、大災害時や備えの為に協力出来る事への登録については、7割近くの方が「登録できない」との回答があり、理由として「高齢のため」「資格がないため」「経験がないため」などが多く上がっています。ビジョンには賛同するものの協力するまでの行動には至っていないようです。一方で、どのような協力が必要なのかとの意見もあり、今後必要とされるスキルなどを具体的に示していくとともに、会の活動やプランの内容が日常生活や会話の中で出てくるような、広報面で気軽に協力いただける多様な広報啓発メニューを検討していくことも必要です。

4. アンケート結果に基づく、防災まちづくりプランに於ける5項目の取組の概要

- ① 自治町内会の連携防災拠点づくりの取組
設置場所は公園又は空地のいずれかにて検討しています。公園設置の場合に備えて、土木事務所や関連部署との協議を開始します。拠点には救援救助、トイレ・ごみ対策及び応急手当用機材を備蓄し、ソーラパネル・蓄電池と暖房器具を設け、日常時は住民の憩いの場として、備蓄庫を含め概ね5m×6mのユニットハウスの設置を検討します。尚、飲料水(最低3ℓ×7日/人)、食料品及び普段使う紙類・ラップ・葉等はローリングストックにて各家庭にて備蓄願います。
- ② 町内避難場所確保に向けた取組
老健ほのぼの・ひとりざわ及び特養磯子自然村と避難が必要となった高齢者、負傷者を含む障害者等を介護者が付添いする事で受入れて貰う為の協議を行っています。避難者受入を表明された施設とは受入頂く細則等を締結する事が必要となっておりますので、現状は未だ避難する事は出来ません。
- ③ 大災害時のゴミ・トイレ問題に備えた取組
首都直下地震等の大災害時は地震に強い下水道管への更新がされていない事と下水処理場が破壊する可能性が高い為、トイレが使用出来なくなります。(特に、3団地は震度5強以上の地震発生時は排水管の点検が完了するまで排水は一切出来ません。)排泄物を含んだ生ごみ等は収集運搬車来るまで、町内に長期間保管する事が必要となります。その為の諸対策を検討します。又、災害ごみは行政と協議して町の保管場所を検討します。
- ④ 災害時の医療対策への取組
軽症者の重症化を防ぐ為の診療部隊の構築を目指して「減災を学ぼうの会」等にて応急手当のワークショップを継続的に開催すると共に診療部隊の増員に取組みます。
- ⑤ 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組
行政にて公表された土砂災害及び洪水ハザードマップを一体化すると共に防災・減災に関わる情報が一見出来る氷取沢地域に限定・拡大した氷取沢防災ハザードマップを定期的にバージョンアップしたものを作成し、全戸配布します。

2) 今後の予定



1. 意見交換会の開催

2020年2月8日(土)午前10時からのパークハイツ管理棟1Fホールにて、今回のアンケートに関する意見交換会を開催します。ぜひ、多くの皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

2. 防災まちづくりプラン素案の作成

意見交換会の結果をまとめて、防災まちづくりプラン素案につなげます。

3. 次年度活動計画の作成

- * 防災まちづくりプラン素案を作成します。
- * 防災まちづくりプラン素案を基に、都市整備局地域まちづくり課等の行政機関と情報共有・調整します。
- * 防災まちづくりプラン素案について、最終アンケートを作成し実施します。
- * 最終アンケートを踏まえて、防災まちづくりプランを作成し、10月に開催予定の「横浜市地域まちづくり推進委員会」に付議します。

3) 会報の閲覧について

各自治町内会に、現在まで発行された会報を閲覧できる場所を設けました。
各自治町内会に閲覧場所をご確認の上、ぜひご覧ください。



～☆☆～ 会員募集 ～☆☆～

定例会は原則毎月第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社社務所又は、パークハイツ管理棟にて開催しています。

会合への参加や、活動を一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※ 開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】	★ 氷取沢町内会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■
	★ パークハイツ自治会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■
	★ パイロットハウス磯子台自治会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■
	★ 興人磯子台マンション自治会	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■



氷取沢防災まちづくりプラン（案）についての アンケートへのご協力をお願い


氷取沢防災まちづくりの会（氷取沢町内会、磯子台パークハイツ自治会、パイロットハウス磯子台自治会、興人磯子台マンション自治会で構成）は、2016年7月に設立され、アンケートやイベントなどを通じて地域の防災・減災について検討してきました。2019年の素案に対するアンケート調査結果を基に意見交換会などを踏まえ、このたび「氷取沢防災まちづくりプラン（案）」を取りまとめました。

横浜市地域まちづくり推進条例に基く市長の認定を受ける為の最終アンケートを実施し、皆様のご意見を伺いたいと思います。このアンケートでの回収率と大多数の賛同を得る必要がありますので、ご協力程宜しくお願いします。横浜市長からプランの認定を受けるとプランに基づき地域の課題に向けて市からの助成を受けられ、災害に強いまちづくりを目指します。尚、アンケートは11月中旬に各自治会町内会の役員(班長)が取に伺います。プラン案について多くの住民の方からの賛同をいただき、横浜市長からプラン認定を受けることを目指しています。

会報No.14に記載いたしました『氷取沢防災まちづくりプラン（案）』をご精読いただき、できるだけ多くの方にアンケートにご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。

このアンケート調査は、氷取沢町の全世帯の皆様を対象に、当会の会報に掲載し各自治会、町内会を通じて各戸に配布し回収いたします。ご回答いただいた内容は統計的に処理し、その他の目的に使用することはありません。みなさまのご協力をお願い申し上げます。なおご不明な点等の問合せは下記へお願いいたします。

令和2年11月



氷取沢防災まちづくりの会 会長 

<問合せ>

氷取沢町内会  

磯子台パークハイツ自治会  

パイロットハウス磯子台自治会  

興人磯子台マンション自治会  

氷取沢防災まちづくりプラン（案）についてのアンケート

問1 世帯主の方や家族、お住まいの状況についてお聞きします。

1-1 世帯主の方は氷取沢町内にお住まいですか。

①町内に住んでいる ②町外に住んでいる→問2に進んでください

1-2 世帯主の方の年齢で当てはまるものを1だけ選んでください。

①20～34歳 ②35～49歳 ③50～64歳 ④65～74歳 ⑤75歳以上

問2 「氷取沢防災まちづくりの会」の活動について、ご存知ですか。以下から一つだけ選んでください。

①よく知っており、イベント等に参加したことがある

②会報などを見たことはある ③今回初めて知った

ここからは、氷取沢防災まちづくりプラン（案）について伺います。

問3 5項目の取組を進めたいと考えています。5項目の取組に対して賛成又は反対のどちらかを選んでください。

3-1 4自治町内会連携防災拠点づくりへの取組

① 賛成 ②反対

3-2 町内の避難所確保に向けた取組

① 賛成 ②反対

3-3 災害時トイレ・ごみ対策の取組

① 賛成 ②反対

3-4 災害時の医療対策の取組

① 賛成 ②反対

3-5 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組

① 賛成 ②反対

問4 上記の5項目の取組や防災まちづくりプランの実現に向けて「氷取沢防災まちづくりの会」の今後の取組・進め方について、ご意見、ご提案がありましたら、下記にご記入ください。

ご意見・ご提案

ご協力ありがとうございました。



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は氷取沢町町内会と3団地自治会を母体とした、横浜市に登録された団体です。

当会は、首都圏直下地震及び記録的豪雨時において、地域の課題に備えて4自治町内会が協力し合い、「コミュニティ・防災・減災力」の向上に努め災害に強いまちづくりを目標として、お知らせして参りました通りに「5つのビジョン」を掲げ活動をしています。

昨年度度は、会報No.12にて住民の皆様のご意見を反映するためのアンケートを行いました。そのアンケートでのご意見・提案に関しては、会報No.13で報告し、後日には意見交換会を開催いたしました。

公民連携した大災害に備える「氷取沢防災まちづくりプラン(案)」を市に提出するため、最終アンケートを11月中に行わせていただきます。

本号No.14ではその資料として、再度「5つのビジョン」を掲載しました。ぜひご一読いただきアンケートへご回答いただき、「氷取沢防災まちづくりプラン(案)」への反映の検討を行います。

ご協力のほどよろしくお願いたします。

☆☆☆地域まちづくりプランとは…☆☆☆

地域の目標・方針やものづくり・自主活動など課題解決に向けた取り組みを、地域街づくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、地域まちづくりプランとして、市長が認定する制度です。



1) 防災まちづくりプラン「5つのビジョン」

- I 4自治町内会連携防災拠点づくりへの取組
- II 町内の避難所確保に向けた取組
- III 大災害時のトイレ・ごみ対策の取組
- IV 大災害時の医療対策の取組
- V 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組



2) それぞれの「ビジョン」について

I 4自治町内会連携防災拠点づくりへの取組

i 現状の課題と目指す目的

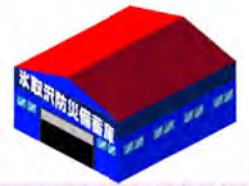
約14年前の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず地域防災拠点も統合されました。以前の地域防災拠点に準ずる4自治町内会連携での防災拠点(以下、町内防災拠点と略称)づくりを目指します。

救援救護、トイレ・ごみ対策、応急手当及び炊き出し用資機材等の備蓄庫並びに記録的豪雨等の緊急避難場所、大震災時は4自治町内会が協力して復興活動の拠点と、平常時は地域住民が活用しながら防災・減災情報入手が出来る町内防災拠点についての検討を行います。なお、大震災時の被災者の避難先に関しては、町内の避難所確保に向けた取組について検討します。

ii 解決のための方策

町内防災拠点づくりに必要な建物と備蓄機材のメンテナンス、防災訓練及び応急手当所(テント小屋)が併設可能なスペースを確保します。設置場所としては、土砂災害等に対して安全性を維持可能な場所として、公用地、空き家・空き地等を調査しました。

その結果、現状では氷取沢公園、氷取沢小学校跡地に建設された磯子自然村の空き地及び住民から提供を受けている空き地を候補地として、町内防災拠点の構想及び備蓄資機材リスト(案)を基に、行政等の助言を得ながら、町内防災拠点づくりを推進します。



備蓄資機材リスト(案)

i 救援救助機材 ・防塵マスク、皮手袋及び軍手 ・担架用ボール及び毛布 ・スコップ(全長970mm) ・ロープ(200m) ・掛谷(全長970mm大木槌) ・大パール ・ガス及びガソリン発電機 ・ヘルメット ・アルミ梯子 ・ハンドマイク ・投光器	iii 応急手当用資機材 ・消毒用水 ・応急手当用手袋 ・マスク ・ガーゼ、包帯 ・松葉杖及び毛布類 ・ラップ、レジ袋及び雑誌等 ・応急手当設置用テント ・ブロック、レンガ等のかまど用機材 ・竹藪、杉の葉、新聞紙及びライター
ii トイレ・ごみ対策用資機材 ・ゴミ識別看板 ・ブルーシート及び固定金具 ・消臭剤 ・簡易トイレ ・段ボールトイレ用資機材 ・猫砂 ・テント	iv 炊出し用機材 ・ブロック、レンガ等のかまど用機材 ・竹藪、杉の葉、新聞紙及びライター
v その他 ・リアカー ・ブルーシート ・保温シート ・給水用水槽 ・暖房機 ・仮眠用毛布 ・土嚢袋 ・消火器 ・ソーラーパネル及び蓄電池設備	



II 町内の避難所確保に向けた取組

i 現状の課題と目指す目的

『小学校の統廃合により、町内にあった地域防災拠点がなく、大震災後に坂道を登り遠く離れ、老朽化し災害規模によっては収容能力が不足する可能性がある「地域防災拠点(さわの里小学校)」に行けない。』といった住民意見が寄せられています。

住民意見を反映する為、被災した要援護者や体の不自由な方々等の避難先を町内の施設等に受入ってもらう事を目指します。



ii 解決のための方策

- ・町内の福祉施設との地域交流協定書の締結による、被災した要援護者や体の不自由な方々を受入れて頂く細則を定めると共に、協力して地域防災拠点に届く情報・物資の地域への一括運搬体制等を構築します。
- ・各自治町内会で、高齢者及び身障者等の要援護者の要介護認定の有無と同伴介護者を確認した被災者名簿等を福祉施設等と協議して、定期的に名簿等の更新を行い、いざという時に備えます。
- ・その他、町内の大型店舗等の駐車場での車中避難場所を確保するために、事業者と交渉し、協定書を締結します。

4 自治町内連携防災拠点の構想

平常時

- 店舗
- 新鮮な地元野菜販売所
- 地域からの寄贈書籍類による図書館
- 子育てママ・介護者のよろず相談カフェ
- 肩・腰の簡易マッサージスペース
- 散歩途中の休憩、コミュニケーションの場
- 子どもの学習教室
- 資機材のメンテナンス・員数チェック
- 防災訓練
- イベント時の機材置場

平常時・非常時

- 救援救助機材の管理
- 炊き出し用機材の管理
- トイレ・ごみ対策用機材の管理
- 応急手当用資機材の管理
- 機器・資材等の収納
- ソーラパネル・蓄電設備による電源確保
- 給水水槽、空調等の確保

非常時

- 大災害時の4自治町内会連携防災拠点
 - 地域防災拠点(さわの里小)との連絡、物資・輸送、地域への情報伝達、物資配給等
 - 崖崩れ等緊急時の少人数の一時避難
 - 炊き出し
 - 軽症者の応急手当場
- ※大災害時の避難者の受入は「町内避難所の確保」取組にて行っています

必要な施設・設備・備品の整理

4自治町内会との連携

町内「福祉施設」との連携

地域防災拠点(さわの里小)との連携

III 大災害時のトイレ・ごみ対策の取組

i 現状の課題と目指す目的

首都圏直下地震等の大震災時は下水道の被災状況が行政より届くまで、トイレが使用可能でも水すら流せません。特に3団地は震度5強以上の大震災時は排水管の点検後でないと、排泄物や生活水が流せない事が徹底されていません。

排泄物は生活ごみ(可燃ごみ)と共に収集運搬されますが、大震災後は1週間以上収集車が来ない事を想定した対策が必要です。長期保管場所を定め、保管場所の課題及び廃棄ルール等を纏め、いざという時に備えます。又、家具・電化製品及び瓦礫等の災害ごみは大量に発生する事も想定しなくてはなりません。生活ごみ及び災害ごみは、運搬・廃棄ルールに対する課題を纏めて、町内に災害ごみが山積みとなり、生活ごみ等が混ざらないようにする必要があります。



ii 解決のための方策

大震災後の下水放流の可否に関しては、今後、行政等の助言を基にまとめる事とします。

3団地に関しては、大震災後の排水管の点検と排水を流す為の判断は、管理組合と協議する必要があります。

排泄物を含んだ生活ごみ等の長期保管場所は各自治町内会において、現在の収集場所を主体として検討して、氷取沢防災ハザードマップに明記していきます。

長期保管場所での鳥・衛生・飛散対策と必要な資機材等のリストアップ及び保管する際のルール化の構築を行います。また災害ごみは今後、運搬・廃棄ルール等を構築して、生ごみ等と混在しないように、いざという時に備えます。

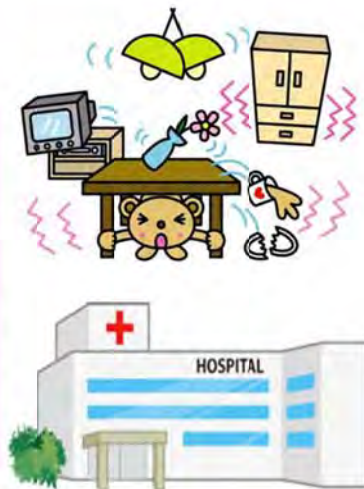


IV 大災害時の医療対策の取組

i 現状の課題と目指す目的

町内には診療所が1箇所しかなく、中等症者及び重症者を受入れる医療機関は近隣にはありません。又、幹線道路である笹釜道路が通行不可や渋滞になった場合のバイパス道路がありません。

軽症者の重症化を防ぐ為、手当てが出来る部隊及び地域防災拠点へのルートが土砂災害等によって通行不可になった場合に備えて、町内の連携による復旧部隊の構築を目指します。



ii 解決のための方策

- ・ 横浜市の医療体制、トリアージ及びクラッシュシンドローム等の啓発を行うと共に、地域の診療所と連携した応急手当のワークショップの継続実施による軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊を育成し構築します。
- ・ 応急手当用資機材を町内連携防災拠点に備蓄し、備蓄しているテントにて応急手当所を町内防災拠点に併設できるようにします。
- ・ 地域防災拠点へのルートが土砂災害等にて通行不可になった場合は、公助が届くのに時間を有する為、町内の重機を保管する会社と連携して復旧部隊を構築します。
- ・ 笹釜道路が通行不可になった時の孤立化を防ぐ為、能見台方面への道路を調査して、安全性を主体に検討し、氷取沢防災ハザードマップに載せます。

V 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組

i 現状の課題と目指す目的

各種ハザードマップ等が行政から発行されているが、それらを網羅した地域の土砂、洪水及び冠水災害等の危険箇所、防災及び減災情報が一見出来る、地域限定の拡大されたハザードマップは現在ありません。

2019年度に様々な情報を可視化した当会で独自に作成した「氷取沢防災ハザードマップ基本図(P7に掲載)」を基に、継続的なバージョンアップを目指します。



ii 解決のための方策

氷取沢防災ハザードマップ基本図に更新された危険箇所、防災及び減災情報を追記すると共に、「減災を学ぼう会」等にて住民からの意見聴取に努め、継続的にバージョンアップを行います。

又、大岡川の冠水に備えて、土囊ステーションの設置場所を検討し、ハザードマップに明記します。

バージョンアップされた「氷取沢防災ハザードマップ」は、全戸配布すると共に4自治町内会の集会所等で、誰もが閲覧できるように拡大版を掲示します。



3) 今後の活動

I アンケート結果及び集計



各自治町内会を通して、「氷取沢防災まちづくりプラン(案)」を市に提出するため、最終のアンケートを11月初旬に行い、11月中旬以降に自治町内会の役員(班長)が取りに伺います。アンケート結果につきましては、統計的に処理し、その他の目的に使用することはありません。

アンケート結果は会報No.15にて報告させていただきます。



II 「氷取沢防災まちづくりプラン」の付議と今後の活動

1. 住民意見の反映検討を12月下旬迄に行い、1月中旬迄にまちづくりプラン(案)を修正します。
2. アンケート結果は会報No.15を1月下旬頃発行して報告します。
3. 地域まちづくり組織の申請及び審議書作成・検討を行い2月中旬迄に提出します。
4. 横浜市まちづくり推進委員会への付議を2月下旬頃行います。
5. 付議結果の報告はポスター等にて、3月上旬頃に掲出します。
6. 氷取沢防災まちづくりの会の定期総会は3月中旬に開催し、横浜市への氷取沢防災まちづくりの会実績報告書を3月下旬提出します。

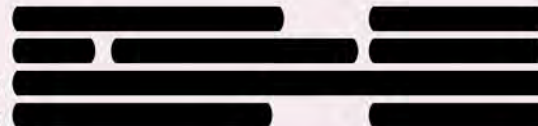
～☆☆☆～ 会員募集 ～☆☆☆～

会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】

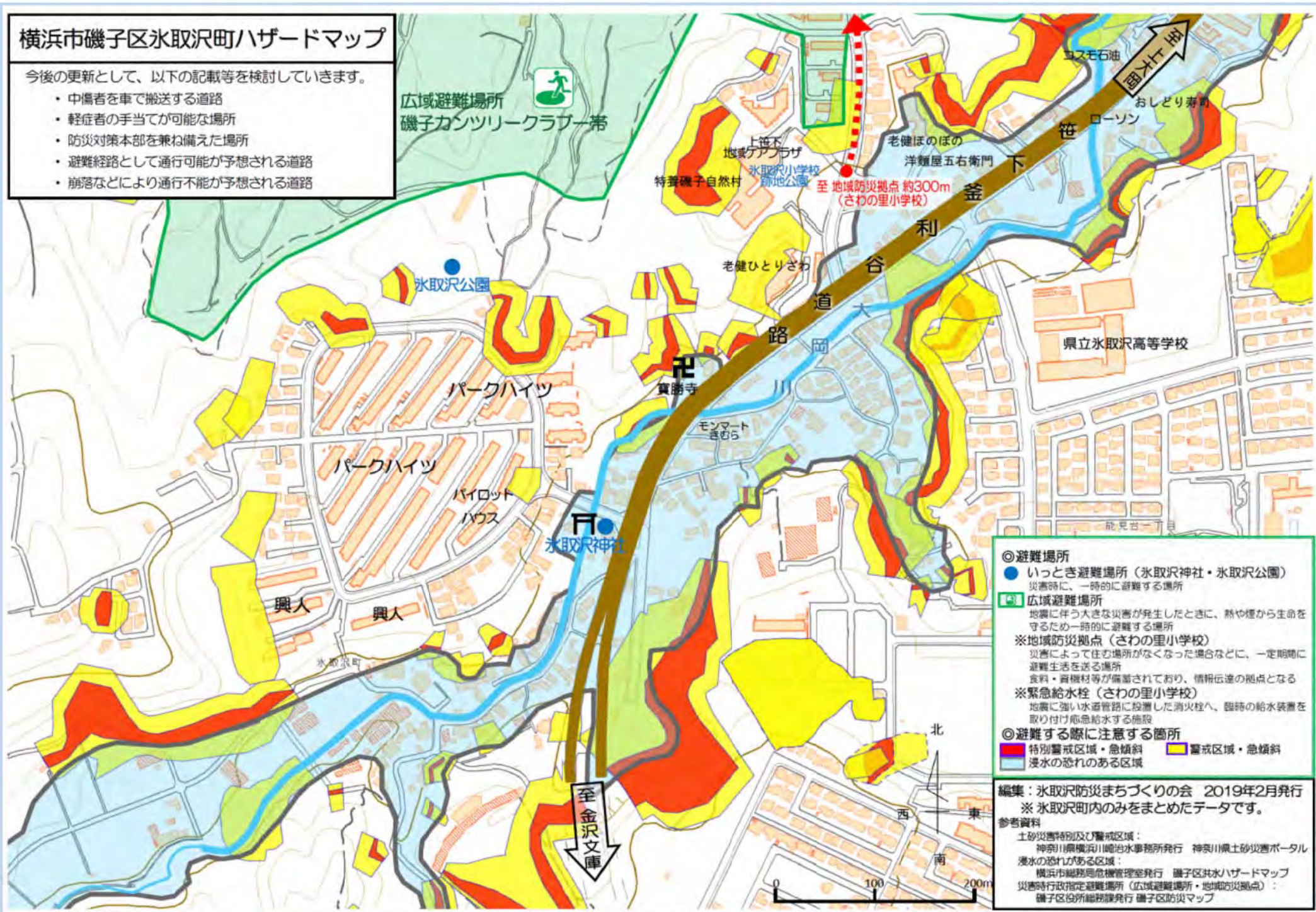
- ★ 氷取沢町内会
- ★ 磯子台パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会



横浜市磯子区氷取沢町ハザードマップ

今後の更新として、以下の記載等を検討していきます。

- ・ 中傷者を車で搬送する道路
- ・ 軽症者の手当てが可能な場所
- ・ 防災対策本部を兼ね備えた場所
- ・ 避難経路として通行可能が予想される道路
- ・ 崩落などにより通行不能が予想される道路



◎避難場所

- いっつき避難場所（水取沢神社・水取沢公園）
災害時に、一時的に避難する場所
- 広域避難場所
地震に伴う大きな災害が発生したときに、熱や煙から生命を守るため一時的に避難する場所
- ※地域防災拠点（さわの里小学校）
災害によって住む場所がなくなった場合などに、一定期間に避難生活を送る場所
食料・資機材等が備蓄されており、情報伝達の拠点となる
- ※緊急給水栓（さわの里小学校）
地震に強い水道管路に設置した消火栓へ、臨時の給水装置を取り付け緊急給水する施設

◎避難する際に注意する箇所

- 特別警戒区域・急傾斜
- 警戒区域・急傾斜
- 浸水の恐れのある区域

編集：氷取沢防災まちづくりの会 2019年2月発行
 ※ 氷取沢町内のみをまとめたデータです。
 参考資料
 土砂災害特別及び警戒区域：
 神奈川県横浜川崎治水事務所発行 神奈川県土砂災害ポータル
 浸水の恐れのある区域：
 横浜市総務局危機管理室発行 磯子区洪水ハザードマップ
 災害時行政指定避難場所（広域避難場所・地域防災拠点）：
 磯子区役所総務課発行 磯子区防災マップ

※『氷取沢防災まちづくりの会』会報No.11(2019年2月発行)に掲載した「氷取沢町ハザードマップ」です。

- * 各種資格等保持者の把握(登録してもらい、協力を信頼する)(例:保健士、看護師、建築士、土木技術士、電建保持者等)
- * 医師及び看護師の資格を持っている方々の協力を得て体制作りを強力に進めて欲しいと考えます。
- * 老健ひとりざわ、ほのぼの、自然村、中傷・軽病者を受け入れ準備はできないか? いっつき避難場所に上笹下地域プラザ氷取沢高校は?
- * 大震災後、笹釜道路が通行不可になる事は目に見えています。さわの里小学校だけでは不安です。(収容能力不足・距離etc)氷取沢高校なども防災拠点に加えていただけると助かります。
- * 笹下釜利谷道路が浸水域に想定されている。よって3団地側からさわの里小学校(地域防災拠点)までの通行が難しくなることがあり得るのでこのような取組みは必要と思う。
- * いざ災害が発生した時、特に団地居住者の皆様がどこまでわかっているのか不安要素あり(トイレ使用時の階下への汚水漏れ)家族がそれぞれの地域にいる時の情報伝達
- * 遠方で収容人数の少ない防災拠点に頼らないで、近くの避難場所等の確保他、町ぐるみの防災対策等の充実。
- * 防災拠点づくりは絶対に必要な事だと思う。この地域は現在拠点はさわの里小学校にあり、その規模はあまりに小さく災害が起こった時は頼りない存在だと思う。行政はそういった事を把握できているのか疑問である。平常時の拠点の利用方法に期待しているが、その運営は大変だと思うのでボランティアを募ったらどうかと思う。最後に防災まちづくりの会に関わる方々に感謝しています。
- * 3ヶ月に1回でもいいですから防災の取組みの要点を「町内会報」として流してもらえればありがたいと考えます!“具体策を流して下さい!”“まず知ることが第一と考えます。”
- * いつも有り難うございます。一度イベントに参加させていただきましたが、とても有意義な会でした。家庭での取り組みを見直すきっかけにもなりました。
- * 子供、高齢者、障害者等を含めたプラン作りをお願いします。・なん度が防災訓練に参加しましたが、組織的な活動が弱いと感じています。防災のつながりをもっとPRして下さい。

その他にも、多くの方からの意見を伺う事が出来ました。
又、この他感謝や励ましの声も頂きました。
皆様からの意見は会員全員で共有させていただきます。
ありがとうございました。



3. アンケート結果の総評

- * '20年度は4自治町内会の協力にて氷取沢町内の各世帯及び地権者の方にアンケートの配布並びに回収を行って頂き、目標回収率30%を大きく上回る52%でした感謝すると共に今後の活動に活かして行きます。
- * 5項目の取組の賛成は'19年度約90%だったのが'20年度は約96%以上となり、会の活動が理解されて来ました。横浜市のまちづくり推進委員会に付議して具体的な活動を推進して行きます。

～☆☆☆～ 会員募集 ～☆☆☆～

定例会は原則毎月第2土曜日19:00～20:30、氷取沢神社事務所又は、パークハイツ管理棟にて開催しています。

会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

- 【連絡先】
- ★ 氷取沢町内会
 - ★ 磯子台パークハイツ自治会
 - ★ パイロットハウス磯子台自治会
 - ★ 興人磯子台マンション自治会



氷取沢町内住民の皆様

「氷取沢防災まちづくりの会」は氷取沢町町内会と磯子台3団地自治会を母体として、横浜市に登録された団体です。

当会は首都圏直下地震及び記録的豪雨時の地域の課題に備え、4自治町内会が連携しコミュニティ・防災・減災力の向上に努め災害に強いまちづくりの推進を目的としています。

公民連携した大災害に備える「氷取沢防災まちづくりプラン(案)」を市に提出する予定です。より多くの皆様のご意見を反映するため、昨年11月発行の会報No.14にて最終アンケートを行いました。今回は会報No.15にて、アンケート結果を報告させていただきます。

地域まちづくりプランとは...
地域の目標・方針やものづくり・自主活動など課題解決に向けた取り組みを、地域街づくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、地域まちづくりプランとして、市長が認定する制度です。

2020年11月発行アンケート結果報告

1. 回答数

氷取沢 (320世帯)	パイロット (140世帯)	興人 (134世帯)	パーク (551世帯)	4自治町内会 合計 (1,145世帯)	地権者 回収数36
62.5%	72.9%	82.1%	33.6%	52.1%	

- * アンケートの目標回収率30%(19年度回収率20%)に対して、4自治町内会の協力により、約52%と大幅に目標を上回りました。
- * 氷取沢町は63%、パイロットハウスは73%及び興人は82%の回収率で大多数の世帯からのアンケートが回収出来ました。
- * 地権者(各種施設、会社経営、賃貸アパート・マンション保有者及び空家・空地所有者等)からは36箇所アンケートの回収が出来ました。

2. アンケート結果

※パーセントは、回答数での割合です。

問1 家族・お住まいの状況について

1-1 地権者の氷取沢町在住について

①町内に住んでいる	63.9%
②町外に住んでいる	30.6%
無回答	5.6%

約64%の方が町内に住んでいます。



1-2 回答者の年齢について

	氷取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①20～34歳	2.5%	3.9%	3.6%	1.1%	2.5%	0.0%
②35～49歳	16.5%	9.8%	10.0%	5.9%	10.9%	19.4%
③50～64歳	22.0%	21.6%	22.7%	22.2%	22.1%	11.1%
④65～74歳	35.0%	34.3%	38.2%	40.0%	37.0%	27.8%
⑤75歳以上	23.0%	30.4%	24.5%	29.7%	26.6%	11.1%
無回答	1.0%	0.0%	0.9%	1.1%	0.8%	30.6%

- * 20～34歳からの回答は4自治町内会共に'19年度と比較して回収率が向上しています。パークハイツと興人は'20年度に初めて20～34歳から回答を得ることが出来ました。
- * パイロットハウスと興人は実態に近い世代からの回答数が届き、65歳以上の回収率は65%と63%でした。4自治町内会全体でも65歳以上は64%であり、高齢化が進んでいます。
- * 氷取沢町は3世代以上の同居世帯があり、今後のアンケートでは考慮します。

問2 「水取沢防災まちづくりの会」活動の周知

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①よく知っており、防災イベント等に参加したことがある	10.0%	17.6%	18.2%	16.8%	14.9%	13.9%
②会報などを見たことはある	70.5%	64.7%	70.0%	69.7%	69.2%	55.6%
③今回初めて知った	17.0%	15.7%	10.0%	12.4%	14.1%	30.6%
無回答	2.5%	2.0%	1.8%	1.1%	1.8%	0.0%

- * '19年度は回収率が20%と低く、会の活動を知っている世帯からの回答が約90%でした。極端なのが興人は'19年度は「会の事を知っていた」方のみが回答していました。'20年度は「会の事を知っていた」世帯は84%と少し下がりましたが、回答率が高かった事により、多くの方に認知されたと考えています。
- * 地権者の約70%の方が会の事を知っていました。

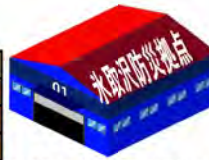


問3 「防災まちづくりプラン」の目標を基に5つの取組みについて

問3は「5項目の取組を進めたいと考えています。世帯主の考えに最も近いもの一つを選んで下さい。」と問うていたので、22世帯の方が5項目の取組の一つ選んで賛成と回答されていました。5項目の各取組の賛否を答えて頂くところ問の不備があり申し訳ありません。

3-1 「4自治町内会の連携防災拠点づくり」の取組み

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①賛成	99.0%	98.0%	97.3%	96.8%	97.8%	100.0%
②反対	0.5%	2.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	2.7%	3.2%	1.7%	0.0%



- * 4自治町内会全体では約98%の世帯が賛成でした。反対は3世帯でした。'19年度は全体で賛成は91%であったので、7ポイント上回っていました。
- * '19年度は1自治会が約12%の無回答の結果でした。迷いとか理解が充分でないところ'20年度は無回答がなくなり、理解されて来たと考えています。
- * 地権者の方が100%賛成でした。会としては驚くと共に住民の方々からも一番賛成が高かった為、本項目は最重要取組事項として捉えています。



3-2 「町内避難所の確保」の取組み

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①賛成	97.5%	97.1%	97.3%	95.7%	96.8%	97.2%
②反対	0.0%	2.0%	0.9%	0.0%	0.5%	0.0%
無回答	2.5%	1.0%	1.8%	4.3%	2.7%	2.8%

- * 4自治町内会全体では97%の世帯が賛成でした。反対は3世帯でした。'19年度は全体で賛成は90%であったので、7ポイント上回っていました。
- * '19年度は1自治会が約19%の無回答の結果でした。'20年度は大幅にさがり理解されて来たと考えています。
- * 地権者の方は97%賛成でした。又、反対が無かった事に安心しています。



3-3 「災害時トイレ・ごみ対策」の取組み

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①賛成	97.0%	97.1%	98.2%	94.6%	96.5%	97.2%
②反対	0.5%	2.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%
無回答	2.5%	1.0%	1.8%	5.4%	3.0%	2.8%

- * 4自治町内会全体では97%の世帯が賛成でした。反対は3世帯でした。'19年度は全体で賛成は91%であったので、6ポイント上回っていました。
- * '19年度は1自治会が約14%の無回答の結果でした。'20年度は大幅にさがり理解されて来たと考えています。
- * 地権者の方は97%賛成でした。又、反対が無かった事に安心しています。



3-4 「災害時の医療対策」の取組み

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①賛成	97.0%	97.1%	98.2%	94.6%	96.5%	97.2%
②反対	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
無回答	3.0%	1.0%	1.8%	5.4%	3.2%	2.8%



- * 4自治町内会全体では97%の世帯が賛成でした。反対は2世帯でした。'19年度は全体で賛成は89%であったので、8ポイント上回っていました。
- * '19年度は1自治会が14%の無回答の結果でした。'20年度は大幅にさがり理解されて来たと考えています。
- * 地権者の方は97%賛成でした。又、反対が無かった事に安心しています。

3-5 「危険箇所、避難場所、防災資源等のマップ化」の取組み

	水取沢	パイロット	興人	パーク	全体	地権者
①賛成	95.5%	97.1%	97.3%	94.6%	95.8%	97.2%
②反対	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
無回答	4.0%	2.0%	2.7%	5.4%	3.9%	2.8%



- * 4自治町内会全体では96%の世帯が賛成でした。反対は2世帯でした。'19年度は全体で賛成は90%であったので、6ポイント上回っていました。
- * '19年度は1自治会が16%の無回答の結果でした。'20年度は大幅にさがり理解されて来たと考えています。
- * 地権者の方は97%賛成でした。又、反対が無かった事に安心しています。



問4 「防災まちづくりプラン」の目標についてのご意見等

※ 記載より抜粋

- * 特に3-3、3-4は取組に力を入れてほしいです。その為には出来る限りの協力はしたいと思えます。大変だと思えますがよろしくお願い致します。
- * 3-2・・・高齢世帯として遠く危険箇所を通っての避難場所への避難は不安。自宅での避難生活の可能性はあるか。3-3・・・3団地内にはゴミの収集場があるが、一戸建の住居の方々は道路側にゴミを出している。検討されたい。※自助を充実させることで、多くの方が助かる可能性がある。関心を持っていただく為に工夫を考えたい。
- * 災害時に各世帯が直面する課題(トイレ問題等)への対応の重要性を認識させるような取組みから、多数の方の興味を引く上で必要ではないでしょうか。
- * 平常時の運営について、もう少し具体的な説明が欲しい。
- * 1~5迄(プラン)とてもよい事です。ぜひ全部進めて下さい。
- * トイレの問題に力を入れてください。
- * 水取沢防災まちづくりの会の活動ご苦労様です。4自治会でのプランは絶対必要だと思いますが各世帯での防災への意識(備蓄・資材等)を強く持つ事が出来ればまちづくりの会の負担も減ると思います。
- * [redacted] は水取沢の中心に有り、災害時の避難場所水、トイレ、その他地元の皆様のお役に立てればと思います。
- * プラン5項目の実現に向けての取組みの迅速な推進をお願いいたします。
- * 団地内と外とは環境・居住条件等全く違うので同じ対策では難しいのではないのでしょうか？
- * ハザードマップが出来た際には神社の掲示板に掲示して下さい。
- * 防災拠点は可能な限り住居に近い所が良いと思う。・平常時も使用するなら地域の交流に役立つ・ハザードマップを見ると避難する場所へ向かう途中に注意する箇所が多くある。
- * 高齢者としては3-2,3,4については特に心配するところあります。対策等のプラン案が実現しましたらぜひ町民に広く早くわかりやすくご指導をお願い致します。
- * ロードマップを作り、短期・中期の目標とゴールを掲げると判り易いものになると思います。
- * ハザードマップを見ますと、いつか避難場所に指定されている水取沢神社は浸水の恐れがある区域でもあります。避難場所として再考の余地があるのでは・・・と思います。最近では水害が多いので。
- * 災害の時、さわの里小学校までは歩けません。
- * 高齢者、特に単身者がとり残される事がない様に住人どうしで気をつけて見守って上げなければ・・・と思っています。(※同様意見数件有)
- * 自閉症という知的障害をもたれた方が現在は平日(月曜日～金曜日)ご自宅を離れ生活をしています。災害時、住民の皆様と同じ避難所等を利用することは難しいのですが、少しでも多くの方々に町内会に障害のある方が住んでいるということを知っていただければ嬉しく思います。

氷取沢防災まちづくりプラン(案)についてのアンケート 集計結果

●配布数及び回収率

・回収率では、パークハイツで33.6%と他に比べ低くなっている。4自治町内会では52.1%であった。前回（2019年9月実施、全戸アンケート）の20.1%に比べ大幅に高くなっている。

	パイロットハウス	興人	パークハイツ	氷取沢	4自治町内会	地権者	全体
配布(世帯)数	140	134	551	320	1145	50	1195
回収数	102	110	185	200	597	36	633
回収率	72.9%	82.1%	33.6%	62.5%	52.1%	72.0%	53.0%

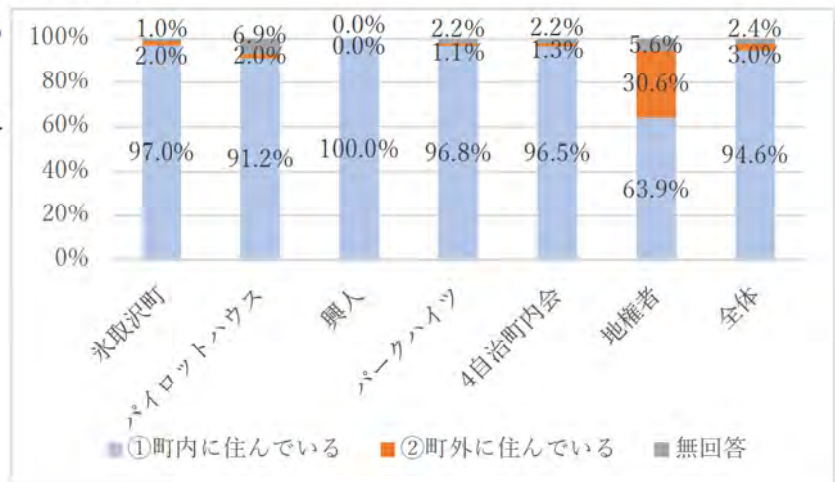
※「地権者」：住民以外の施設・企業代表等

●単純集計（自治会・町内会別）

問1 世帯主の方や家族、お住まいの状況についてお聞きします。

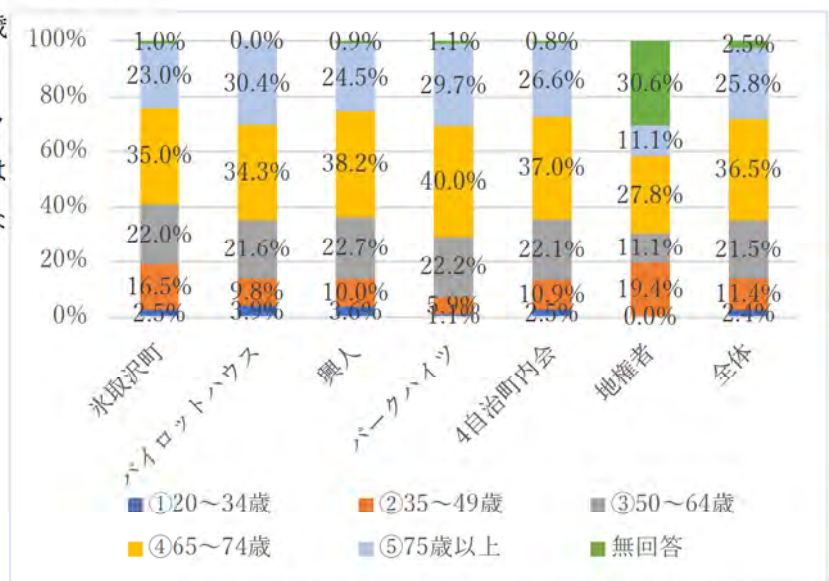
問1-1 世帯主の方は氷取沢町内にお住まいですか。

- ・4自治町内会では、世帯主は96.5%の方が町内に居住している。
- ・地権者では、世帯主は30.6%が町外に居住している。



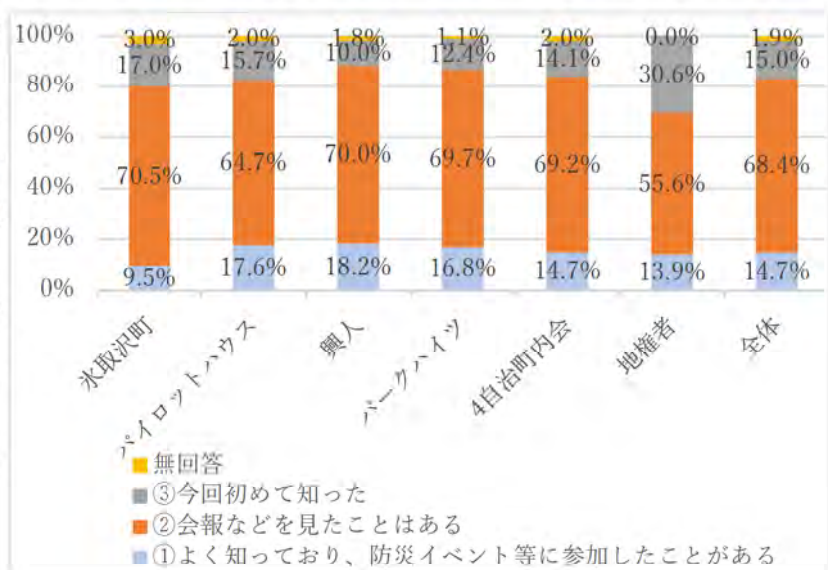
問1-2 あなたの年齢で当てはまるものを1だけ選んでください。

- ・4自治町内会では約6割の人が65歳以上の高齢者である。
- ・高齢者は、パークハイツとパイロットハウスで7割弱と高く、興人では6割強で、氷取沢町では5割強となっている。



問2 「氷取沢防災まちづくりの会」の活動について、ご存知ですか。以下から一つだけ選んでください。

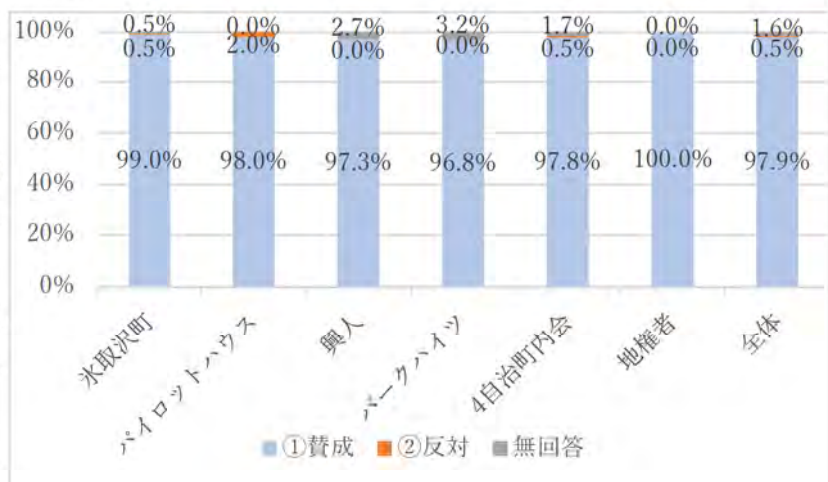
- ・4自治町内会では8割以上の方に会が認知されている。
- ・「よく知っており、防災イベント等に参加したことがある」人が4自治町内会で14.7%あり、一番多いのは興人で18.2%ある。
- ・2019年に行った全戸アンケートでは知っている方が約9割だったが、今回は若干減少している。
- ・地権者では約7割の方に会が認知されている。



問3 5項目の取組を進めたいと考えています。世帯主の方の考えに最も近いものを一つ選んでください。

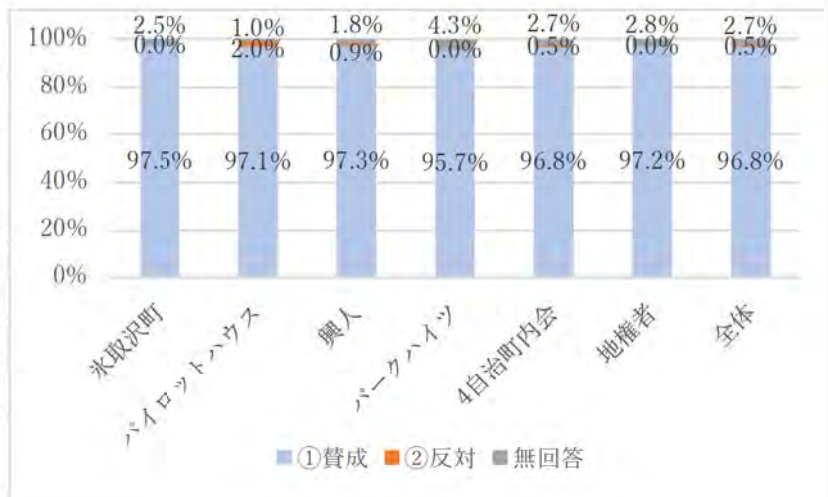
3-1 4自治町内会の連携防災拠点づくりの取組

- ・「賛成」は全体で620名、配布数に対する割合は51.9%、回収数に対する割合は97.9%である。
- ・回収数に対する割合は、4自治町内会では97.8%の方が賛成している。反対の方が3名いる。
- ・前回アンケートの同取組の賛成90.6%が、今回は7ポイント強増えている。
- ・地権者では全員賛成となっている。



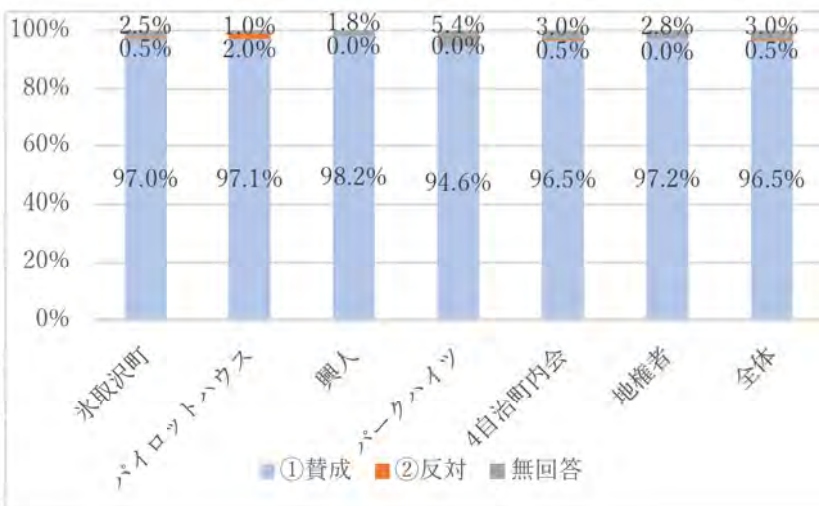
3-2 町内の避難所確保に向けた取組

- ・「賛成」は全体で613名、配布数に対する割合は51.3%、回収数に対する割合は96.8%である。
- ・回収数に対する割合は、4自治町内会でもともに96.8%の方が賛成と回答している。反対の方が3名いる。
- ・前回アンケートの同取組の賛成89.7%が、今回は約7ポイント増えている。
- ・地権者では97.2%の方が賛成で、反対はいない。



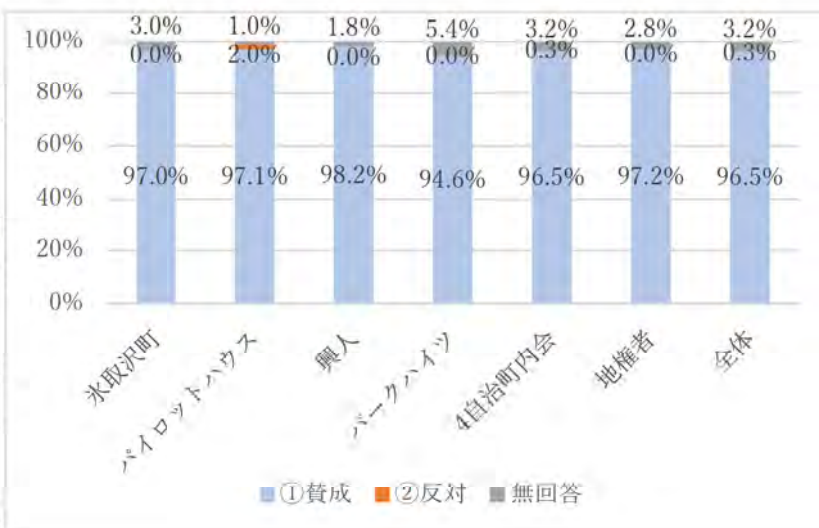
3-3 災害時トイレ・ごみ対策の取組

- ・「賛成」は全体で 611 名、配布数に対する割合は 51.1%、回収数に対する割合は 96.5%である。
- ・回収数に対する割合は、4 自治町内会とともに 96.5%の方が賛成している。反対の方が 3 名いる。
- ・前回アンケートの同取組の賛成 91.0%が、今回は 5.5 ポイント増えている。
- ・地権者では 97.2%が賛成で、反対はいない。



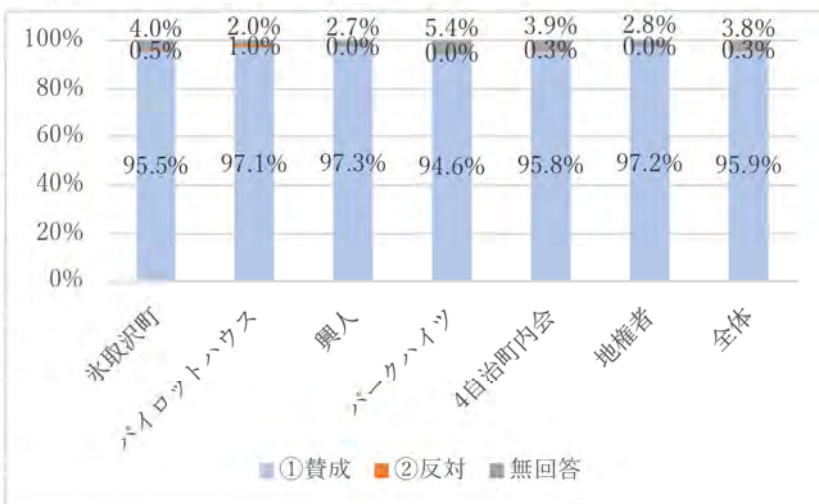
3-4 災害時の医療対策の取組

- ・「賛成」は全体で 611 名、配布数に対する割合は 51.1%、回収数に対する割合は 96.5%である。
- ・回収数に対する割合は、4 自治町内会とともに 96.5%の方が賛成している。反対の方が 2 名いる。
- ・前回アンケートの同取組の賛成 88.9%が、今回は 8 ポイント弱増えている。
- ・地権者では 97.2%が賛成で、反対はいない。



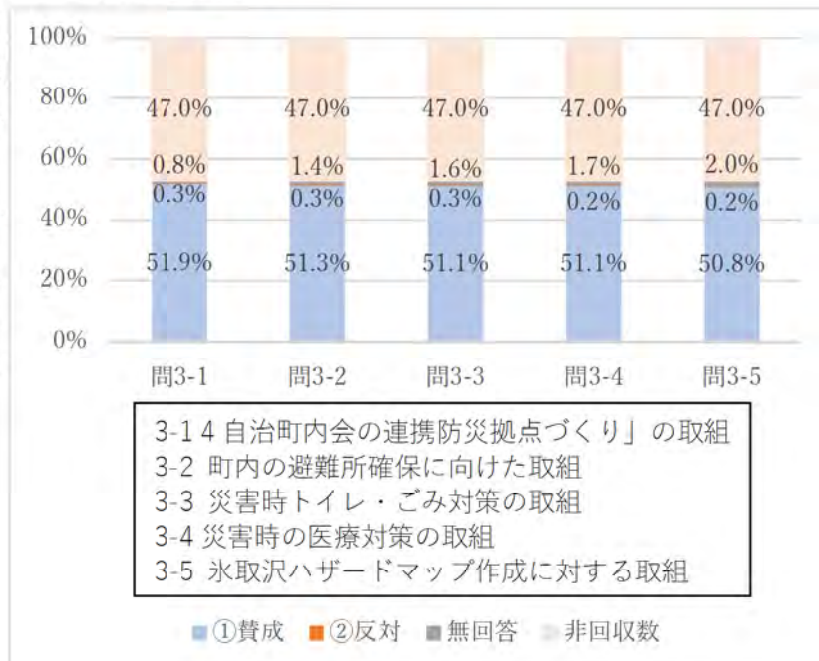
3-5 氷取沢ハザードマップ作成に対する取組

- ・「賛成」は全体で 607 名、配布数に対する割合は 50.8%、回収数に対する割合は 95.9%である。
- ・回収数に対する割合は、4 自治町内会では 95.8%の方が賛成している。反対の方が 2 名いる。
- ・前回アンケートの同取組の賛成 89.7%が、今回は 6 ポイント強増えている。
- ・地権者では 97.2%が賛成で、反対はいない。



【参考】対象地域全体での配布数に対する各取組の賛同率等

- ・対象地域全体でのアンケートの配布数 1195 に対する、各取組の賛同率を見ると、5つの取り組みとも「賛成」が50%を超えている。
- ・5つの取り組みの中では、「4自治町内会の連携防災拠点づくりの取組」が一番「賛成」が多く51.9%である。
- ・一方、「反対」は5つの項目を通じて0.2~0.3%である。



(実数)	①賛成	②反対	無回答・ 無効回答	非回収 数	配布数
問 3-1	620	3	10	562	1195
問 3-2	613	3	17	562	1195
問 3-3	611	3	19	562	1195
問 3-4	611	2	20	562	1195
問 3-5	607	2	24	562	1195

問 4 上記の 5 項目の取組や防災まちづくりプランの実現に向けて「氷取沢防災まちづくりの会」の今後の取組・進め方について、ご意見、ご提案がありましたら、下記にご記入ください。

- ・自由記述（特になしを含まず）は 88 の記載がある。これらを主なキーワードで分類すると、以下の表のように整理される。
- ・キーワード全体の 6 割近くを占める「災害への不安、対策」では、「共助の推進」「身近な避難所の確保」「高齢者、子ども対策」「具体化、具体策」などについての意見が多く出されている。
- ・全体の 4 割を占める「防災まちづくりの会」の「会の活動」では、「活動の評価」が最も多く、次いで「公開・広報、情報伝達」に関する意見が出されている。
- ・会の取組への「協力」の申し出も 6 件出されている。

災害への不安、対策												
身近な避難所確保	避難路確保	建物の耐震性	土砂災害対応	風水害対応	居住条件による対策	高齢者、子ども対策	障がい者対応	専門家の協力	共助の推進	自助の推進	公助の推進	具体化、具体策
12	6	1	5	4	1	12	4	2	12	9	2	10
												計 80

会の活動				その他	キーワード数計
活動の評価	公開・広報、情報伝達	参加	協力	その他	
28	15	3	6	4	
			計 52	計 4	合計 136

●全体を通じて

- ・アンケート回収率 53.0%は、前回（2019 年 9 月 9）20.1%に比べ 2 倍以上に増え、4 自治町内会では全世帯数の過半数を上回った。
- ・まちづくりプラン案の 5 つの取組については、4 自治町内会では賛成が 95%を超えるとともに、前回よりもおおむね 5～8 ポイント増えている。地権者では賛成がほとんどで反対はいない。よって、より地域の意向を反映したプランとなっていると考える。
- ・自由記述では、「身近な避難所確保」「身近な避難所確保」や「土砂災害対応」、「障がい者対応」などきめ細かな対策の要望とともに、「共助の推進」「自助の推進」やプランの「具体化、具体策」などの実行に向けた意見も出されている。
- ・また、継続してきた会の「活動の評価」とともに、プランや活動の「公開・広報、情報伝達」の重要性が多く指摘されている。

**「氷取沢防災まちづくりプラン」及び「氷取沢防災まちづくりの会」
認定に関する最終意向確認のお願い(ご意見用紙)**

氷取沢防災まちづくりの会は、2016年7月に設立され、アンケートやイベントなどを通じて地域の防災・減災について検討してきました。2019年の素案に対するアンケートや意見交換会を行い、2020年度のアンケート結果を踏まえ、2021年7月に「氷取沢防災まちづくりプラン素案」を取りまとめました。

これを基に行政とも連携して防災まちづくりを進めていくため、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく「地域まちづくりプラン」および「地域まちづくり組織」の認定の申出をすることになりました。そこで、このプラン認定と組織認定について、最終の意向確認として皆様のご意見を伺いたいと存じます。この認定を受けることによって、プランに基づく会の活動が広く一般に周知されます。

会報No.16に掲載いたしました「氷取沢防災まちづくりプラン」及び「氷取沢防災まちづくりの会」の活動実績および今後の取り組みをご精読いただき、プラン認定及び組織認定に関してご意見をお聞かせください。ご意見ご提案のある方は下記「ご意見欄」にご記入いただき、ご提出ください。磯子台パークハイツ自治会の方は、管理棟ボックスもしくは自治会棟役員ボックスに投函してください。なお、特にご意見ご提案等がなければ提出は不要です。

この最終意向確認は氷取沢町の全世帯の皆様を対象に行います。プラン素案は当会の会報No.16に掲載し各自治会、町内会を通じて各戸に配布いたします。皆さまのご協力をお願い申し上げます。なおご不明な点等の問合せは下記へお願いいたします。

令和3年8月
氷取沢防災まちづくりの会
<問合せ先>
氷取沢町内会
磯子台パークハイツ自治会
パイロットハウス磯子台自治会
興人磯子台マンション自治会

会長

■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■

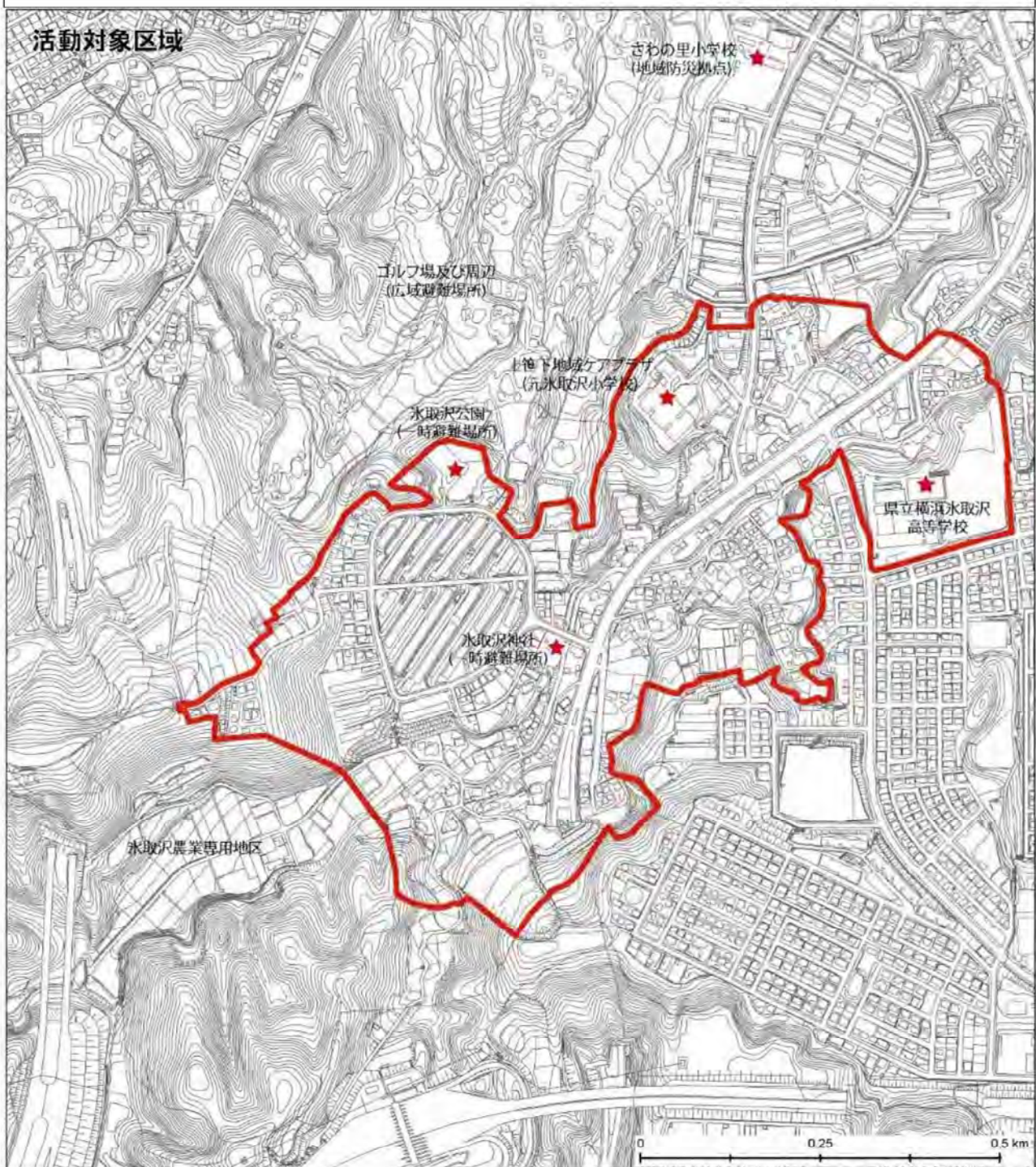
まちづくりプラン・まちづくり組織 認定にかかわるご意見

お名前(会社名): _____ ご連絡先: _____

注意事項

1. ご記入いただいたご意見用紙は、**8月29日**までに提出してください
2. ご記入には万年筆やボールペンをお使いください。フリクションペンは使用しないでください。
3. ご意見をうかがう地域は、下記の区域図（精査中）を参照してください。
4. 皆さまにお配りしたプラン素案（会報No.16）は概要版となっていますので、プラン素案本編をご覧になりたい方は、各自治会管理棟で閲覧できます。又は各自治会・町内会の前ページに記載の問合せ先までご連絡ください。

まちづくりプラン・まちづくり組織 活動対象区域（案）



◇『氷取沢防災まちづくりの会』活動実績

1) 活動年間一覧表

年度	内容	詳細	年度	内容	詳細
2016	定例会	月2回開催	2019	定例会	月1回開催
	町内まち歩き	氷取沢町内探索		第4回「減災を学ぼう会」開催	7月14日開催
	市民防災センター体験ツアーの実施	7月18・23・31日		アンケートの実施	9月1日町内全戸配布
	アンケートの実施	10月1日町内全戸配布		意見交換会の開催	2月8日開催
2017	会報の発行	No.1~3の発行	2020	定例役員会(新型コロナ禍に付き)	月1回開催
	定例会	月1回開催		アンケートの実施	11月6日町内全戸及び地権者配布
	磯子区危機管理チームとの協議	9月27日開催	会報の発行	No.14・15の発行	
	町内まち歩き	氷取沢町内探索	2021	定例役員会(新型コロナ禍に付き)	月1回開催
	中里医院副院長の講習会開催	10月14日開催		会報の発行	会報No.16の発行
第1回「減災を学ぼう会」開催	12月10日開催	横浜地域まちづくり推進委員会への付議			
2018	会報の発行	No.4~8の発行			
	定例会	月1回開催			
	町内まち歩き	氷取沢町内探索			
	第2回「減災を学ぼう会」開催	7月15日開催			
	第3回「減災を学ぼう会」開催	11月25日開催			
会報の発行	No.9~11の発行				



◇『氷取沢防災まちづくりの会』活動から見えてきた課題への目標

～ 活動を通し、明らかになった現況・課題を踏まえ、まちづくりの目標 ～

首都直下地震や記録的豪雨等の大災害時の地域の課題に備え、4自治町内会が連携・協力し合いコミュニティ・防災・減災力の向上に努め、災害に強いまちづくりを継続的に推進する事を目標とします。

『氷取沢防災まちづくりの会』の今後の取組

- 2020年度に行ったアンケートの回収率の目標は30%であったが、52%と高かった事と5項目の取組に対する住民の賛成は96%~98%、地権者(住民以外の施設・企業代表等)は97%~100%でした。防災まちづくりプラン認定後は「4自治町内の連携防災拠点づくり」(住民:約98%が賛成及び地権者:100%が賛成)を最重要課題として、遅くとも2024年度中の建設を目指します。
- 他の4項目の取組に対しては、「解決するための方策」を短~長期に分類します。
 - * 排泄物を含んだ長期保管場所は各自自治町内会ごとに決め、衛生・鳥対策等を含めたルール化(案)等を住民に報告して、いざという時に備えます。
 - * 軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊の育成のため、応急手当カリキュラムを作成します。
- 応急手当及び復旧部隊等を含め、災害に強いまちづくりを継続的に推進するため、会員募集を行うと共に各地で発生している大災害を分析等にて5項目の取組以外の取組の検討を随時行います。

~ ★☆☆ ~ 会員募集 ~ ★☆☆ ~

会合への参加や、活動を一緒にして下さる方は、ぜひ各自自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】

- ★ 氷取沢町内会
- ★ 磯子台パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会

『氷取沢防災まちづくりの会』会報 No.16 発行日 2021年8月7日 文責 氷取沢防災まちづくりの会

「氷取沢防災まちづくりの会」は氷取沢町町内会と磯子台3団地自治会を母体とした、横浜市に登録された団体です。

当会は、首都圏直下地震及び記録的豪雨時において、地域の課題に備えて4自治町内会が協力し合い、「コミュニティ・防災・減災力」の向上に努め災害に強いまちづくりを目標として、「5つのビジョン」を掲げ活動をしています。

その活動については、会報にてお伝えしてまいりました。また、住民の皆様から3回のアンケートをお願いし、そのご意見・提案を反映させながら、「氷取沢防災まちづくりプラン素案」の原稿(以下、原稿と略称)をまとめました。

その公民連携した大災害に備える原稿は、横浜市地域まちづくり推進委員会に提出しますので、その内容をご報告します。又、本会報に対するご意見に関しては、添付「ご意見用紙」を参照願います。

『防災まちづくりプラン』に至る経緯

◇地域性

1) 氷取沢地区について

氷取沢地区は磯子区と金沢区の境界に位置し、中央には大岡川流域に沿って笹下釜利谷道路が横断した谷間と周りの丘陵地帯を開発して発展した地区です。

地区には戸建主体の氷取沢町町内会と集合住宅の磯子台3団地自治会の4自治町内会から構成され、約1,200世帯が居住しています。又、地区内には土砂災害特別警戒区域及び大岡川の浸水区域を有しています。

2) 地区としての課題

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにも関わらず地域防災拠点も統廃合されました。高齢化に伴い坂道を登り遠く離れた地域防災拠点には行けない方々が増大して来ています。又、首都直下地震や記録的豪雨による土砂災害及び水害を含めた様々な課題に備える事が求められています。

◇『氷取沢防災まちづくりの会』発足の準備期間

1) 「地域まちづくり支援制度」の出前塾受講

磯子区区政推進課による「地域まちづくり支援制度」の出前塾を2016年3月12日に受講しました。

2) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足の目的及び組織編成

支援制度を活用し地域の実情に合わせた首都直下地震及び記録的豪雨に備えたプランを策定する事を目的とし、「氷取沢防災まちづくりの会」を立上げるために、4自治町内会を母体として会員を募集しました。横浜市への登録及び地域活動助成金交付取得のための各種申請書、会則、構成員名簿、役員選出、活動計画並びに予算書等の策定を2回の準備会及び行政との協議会にて討議した後、発足総会にて確認・承認して、活動は2016年7月に開始しました。

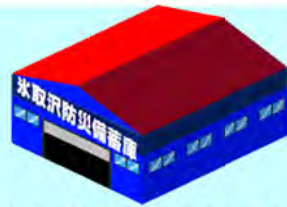


地域防災力の向上を目指して!



『防災まちづくりプラン』提案の詳細内容

水取防災まちづくりの会発足から約6年間の活動から見てきた、水取沢地区における特有の課題を、5項目のビジョンに分けて『防災まちづくりプラン』として、まとめました。



1) 4自治町内会の連携防災拠点づくりへの取組

＜現状の課題と目指す目標＞

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず「地域防災拠点も統合されました。以前の地域防災拠点に準ずる4自治町内会連携での防災拠点（以下、町内防災拠点と略称）づくりを目指します。

＜解決のための方策＞

町内防災拠点づくりに必要な建物と備蓄機材のメンテナンス、防災訓練及び応急手当所（テント小屋）が併設可能なスペースを確保します。設置場所としては、土砂災害等に対して安全性を維持可能な場所とし、公用地、空き家・空き地等を調査しました。水取沢公園、水取沢小学校跡地に建設された磯子自然村の空き地及び住民から提供を受けている空き地を候補地として、町内防災拠点の構想及び備蓄資機材リスト（案）を基に、行政等の助言を得ながら、以下の事項を検討します。

- ・ 備蓄庫として整備する資機材の検討（救援救護、ゴミ・トイレ対策、応急手当及び炊き出し用資機材等）
- ・ 記録的豪雨等の緊急避難場所、大震災時には4自治町内会が連携・協力して復興活動を行う為の拠点とします。平常時は地域住民が利活用しながら防災・減災情報入手が出来る場所であると共に備蓄機材のメンテナンス・備蓄機材を活用した防災訓練等について検討します。
- ・ 大震災時の被災者の避難先に関しては、「町内の避難所確保に向けた取組」にて検討します。

2) 町内の避難所確保に向けた取組

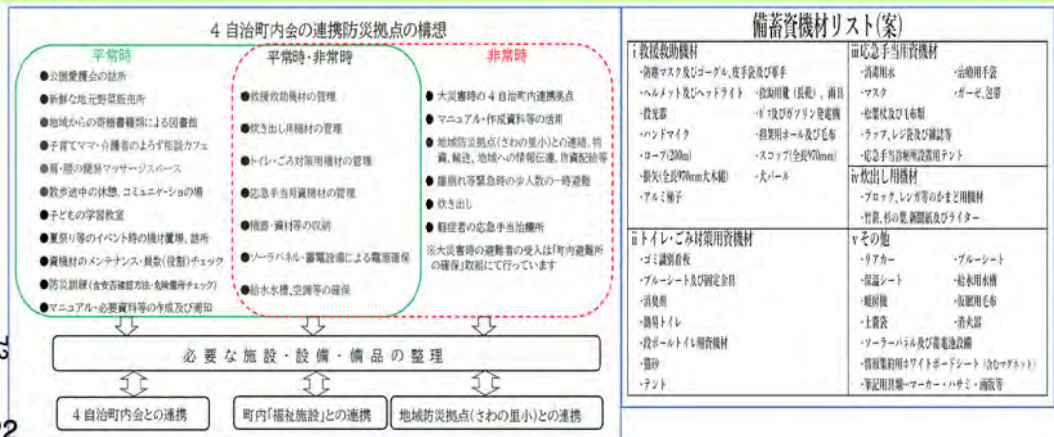
＜現状の課題と目指す目標＞

『小学校の統廃合により、町内にあった地域防災拠点がなくなり、大震災後に坂道を登り遠く離れ、老朽化し災害規模によっては収容能力が不足する可能性がある「地域防災拠点（さわの里小学校）」に行けない。』といった住民意見が寄せられています。住民意見を反映するため、被災した要介護者や体の不自由な方々等の避難先を町内の施設等に受入れてもらう事を目指します。



＜解決のための方策＞

町内の福祉施設との地域交流協定書の締結による、被災した要介護者や体の不自由な方々を受入れて頂く細則を定めると共に、協力して地域防災拠点に届く情報・物資の地域への一括運搬体制等を構築します。各自治町内会で、高齢者及び身障者等の要介護者の要介護認定の有無と同伴介護者を確認した被災者名簿等を福祉施設等と協議して、定期的に名簿等の更新を行い、いざという時に備えます。その他、町内の大型店舗等の駐車場での中継避難場所を確保するために、事業者と交渉し、協定書を締結します。



備蓄資機材リスト(案)

i 救援救助機材 ・救急マスク及びゴブロー、皮手袋及び軍手 ・ヘルメット及びヘッドライト ・救急用機（長靴）、雨具 ・救急箱 ・10kg及び20kg電機機 ・ハンドマイク ・ロープ(20m) ・膨らみ枕(90cm大木脚) ・アルミ箸 ii トイレ・ゴミ対策用資機材 ・ゴミ袋 ・ブルシート ・ブルシート及び固定金具 ・消臭剤 ・消臭剤 ・簡易トイレ ・トイレ用資機材 ・ポット	iii 応急手当用資機材 ・清拭布 ・マスク ・救急袋及び包帯 ・ラップ、レジ袋及び封筒等 ・応急手当訓練施設用テント iv 炊き出し用機材 ・プロパン、レガスのガス用機材 ・竹炭、薪の乾燥機及びライター v その他 ・リザーバー ・保温シート ・防水用機材 ・収束用毛布 ・土嚢袋 ・消火器 ・ソーラーパネル及び充電設備 ・情報取得用GPSトポシート（GPSマーカー） ・備品 ・筆記用具（マーカー、ハサミ、画板等）
--	---

3) 大災害時のゴミ・トイレ問題に備えた取組

＜現状の課題と目指す目標＞

首都直下地震等の大震災時は公共下水道の被災状況の把握が困難で、トイレが使用可能でも、水を流せるかどうか判断出来ません。特に、磯子台3団地は震度5強以上の大震災時は排水管の点検後でない、排泄物や生活水が流せない事が徹底されていません。



排泄物は生活ごみ（可燃ごみ）と共に収集運搬されますが、大震災後は1週間以上収集車が来ない事を想定した対策が必要です。長期保管場所を定め、保管場所の課題及び廃棄ルール等をまとめ、いざという時に備えます。又、家具・電化製品及び瓦礫等の災害ごみは大量に発生する事も想定しなくてはなりません。生活ごみ及び災害ごみは、運搬・廃棄ルールに対する課題をまとめて、町内に災害ごみが山積みとなり、生活ごみ等が混ざらないようにする事が必要です。

＜解決のための方策＞

大震災後の下水放流の可否に関しては、今後、行政等の助言を基にまとめる事とします。磯子台3団地に関しては、大震災後の排水管の点検と排水を流す為の判断は、管理組合と協議します。排泄物を含んだ生活ごみ等の長期保管場所は各自治町内会において、現在の収集場所を主体として検討して、水取沢防災ハザードマップに明記していきます。長期保管場所での鳥・衛生・飛散対策と必要な資機材等のリストアップ及び保管する際のルール化の構築を行います。又、災害ごみは今後、運搬・廃棄ルール等を構築して、生ごみ等と混ざらないように、いざという時に備えます。

4) 大災害時の医療対策に対する取組

＜現状の課題と目指す目標＞

町内には診療所が1箇所しかなく、中等症者及び重症者を受入れる医療機関は近隣にはありません。又、幹線道路である笹釜道路が通行不可や渋滞になった場合のバイパス道路がありません。軽症者の重症化を防ぐ為、手当てが出来る部隊及び地域防災拠点へのルートが土砂災害等によって通行不可になった場合に備えて、町内の連携による復旧部隊の構築を目指します。



＜解決のための方策＞

- ・ 横浜市の医療体制、トリアージ及びクラッシュシンジンドローム等の啓発を行うと共に、地域の診療所と連携した応急手当のワークショップの継続実施による軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊を育成し構築します。
- ・ 応急手当用資機材を町内防災拠点に備蓄し、備蓄しているテントにて応急手当所を町内防災拠点に併設できるようにします。
- ・ 地域防災拠点へのルートが土砂災害等にて通行不可になった場合は、公助が届くのに時間を要するため、町内の重機を保管する会社と連携して復旧部隊を構築します。
- ・ 笹釜道路が通行不可になった時の孤立化を防ぐ為、能見台方面への道路の安全性を主体に調査・検討し、水取沢防災ハザードマップに載せます。

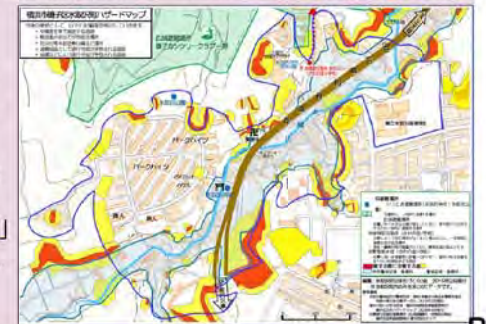
5) 水取沢ハザードマップ作成に対する取組

＜現状の課題と目指す目標＞

各種ハザードマップ等が行政から発行されていますが、地域の土砂、洪水及び冠水災害等の危険箇所、防災及び減災情報が一見出来る、地域限定の拡大されたハザードマップは現在ありません。2019年度に様々な情報を可視化し独自に作成した「水取沢防災ハザードマップ（参考図）」を基に、継続的なバージョンアップを目指します。

＜解決のための方策＞

水取沢防災ハザードマップ（参考図）を更新し、危険箇所、防災及び減災情報を追記すると共に、「減災を学ぼう会」等にて住民からの意見聴取に努め、継続的にバージョンアップを行います。又、大岡川の冠水に備えて、土嚢ステーションの設置場所を検討し、ハザードマップに明記します。バージョンアップされた「水取沢防災ハザードマップ」は、全戸配布すると共に4自治町内会の集会所等で、誰もが閲覧できるように拡大版を掲示します。



令和3年9月

氷取沢防災まちづくりプラン素案認定に関する最終意向確認
各自治町内会が回収等の結果を以下に記載する。

記

1_氷取沢町町内会

- ①高齢者が多くなるため大災害時の避難場所(近い場所)の検討
- ②大岡川の河川敷(雑草、小さな木等)が出ている 環境が悪いため清掃の必要有り
- ③8月広報にも案内があったけれども、マンホールトイレ設置助成金が出るとのことなので、設置できたら良いのでは?と思いました。大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組に追加できたら良いと思いました。

2_磯子台パークハイツ自治会

- ①氷取沢防災まちづくりの会の皆様いつも有難うございます。防災訓練にいつも参加しておりますが、毎回新しい有意義な会で、今後も参加したいと思っております。
- ②町内防災拠点をまずは、氷取沢公園を中心に1日も早く作っていただきたいです。自分たちの地域は地域のみんなで守る。

3_興人磯子台マンション自治会

- ①災害が発生した時、防災まちづくり組織の認知度がどの程度4自治町内会に浸透しているか?
- ②防災まちづくりプラン提案は満足している。
- ③いつも読ませていただき心強いです。ありがとうございます。
- ④トイレ使用等細かいことを徹底される方法があるといいなと思います。
- ⑤興人管理棟集会室にて打合せしたいとの事で、質問を受けた結果の報告
(プラン素案本編を見たいとの事で、本編の説明を行った後、の質疑応答)
質問内容:磯子台3団地と戸建主体の氷取沢町では対策等が異なるので、磯子台3団地で会をつくらなかったのか?

回答:氷取沢地域には、元々氷取沢小学校に地域防災拠点があり、4自治町内会が協力して地域防災拠点運営委員会を行っていた。4自治町内会を母体として助け合う地盤があった事と、磯子台3団地の世帯数は氷取沢地区の約70%が集まっている。氷取沢町内会は南西から東北約1kmと広い範囲での救助が必要となる。大災害発生後、72時間を過ぎると極端に生存率が低下する為、応援部隊が必要一方、氷取沢町内会には重機等を保有する会社があり、地域一体となって大災害に備えて大災害が発生した場合は、各自治町内会毎に救援救助に努め4自治町内会の連携防災まちづくり拠点にて協力して、大災害に立ち向かう災害に強い地域にする為、地域のコミュニティ・防災・減災力向上を行っている等を説明した。結果:説明後、当会の此れ迄の活動及びプラン内容を理解して頂いた。

4_パイロットハウス磯子台自治会

- ①地域の為に日々活動して下さりありがとうございます。

4) 大災害時の医療対策に対する取組

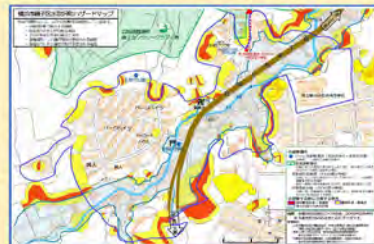
＜現状の課題と目指す目標＞

町内には診療所が1箇所しかなく、中等症者及び重症者を受入れる医療機関は近隣にはありません。また、幹線道路である世下釜利谷道路が通行不可や渋滞になった場合のバイパス道路がありません。軽症者の重症化を防ぐため、手当てができる部隊及び地域防災拠点へのルートが土砂災害等によって通行不可になった場合に備えた、町内の連携による復旧部隊の構築を目指します。

＜解決のための方策＞

横浜市の医療体制及びトリアージ等の啓発を行うとともに、地域の診療所と連携した応急手当のワークショップの継続実施による軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊を育成し構築します。

- ・応急手当資機材を防災まちづくり拠点に備蓄し、備蓄しているテントにて応急手当所を防災まちづくり拠点に併設できるようにします。
- ・地域防災拠点へのルートが土砂災害等にて通行不可になった場合は、公助が届くのに時間を要するため、町内の重機を保有する会社と連携して復旧部隊を構築します。
- ・世下釜利谷道路が通行不可になった時の孤立化を防ぐため、能見台方面への道路の安全性を主体に調査検討し、氷取沢町ハザードマップに載せます。



5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組

＜現状の課題と目指す目標＞

各種ハザードマップ等が行政から発行されていますが、地域の土砂、洪水及び浸水災害等の危険箇所、防災及び減災情報が見える、地域限定の拡大されたハザードマップは現在ありません。2019年度に様々な情報を可視化し独自に作成した「氷取沢町ハザードマップ」を基に、継続的なバージョンアップを目指します。

＜解決のための方策＞

氷取沢町ハザードマップを更新し、危険箇所、防災及び減災情報を追記するとともに、「減災を学ぼう会」等にて住民からの意見聴取に努め、継続的にバージョンアップを行います。バージョンアップされた「氷取沢町ハザードマップ」は、全戸配布するとともに防災まちづくり拠点に、誰もが閲覧できるように拡大版を掲示します。

☆第3章 『防災まちづくりの会』の今後の取組

- 1) 防災まちづくりプラン認定後は「4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組」(2020年11月実施アンケートでの回収率52%中の住民の約98%が賛成、及び回収率72%の住民以外の施設・企業代表等地権者の100%が賛成)を最重要課題として、建設を目指します。
- 2) 他の4項目の取組に対しては、「解決するための方策」を短～長期に分類します。
 - * 排泄物を含んだ長期保管場所は各自治町内会ごとに決め、衛生・鳥対策を含めたルール化(案)等を住民に報告して、いざという時に備えます。
 - * 軽症者の重症化を防ぐ応急手当部隊の育成のため、応急手当カリキュラムを作成します。
- 3) 応急手当及び復旧部隊等を含め、災害に強いまちづくりを継続的に推進するため、会員募集を行うとともに各地で発生している大災害を分析等にて5項目の取組以外の取組の検討を随時行います。

以上の内容を「防災まちづくりプラン」として、横浜市地域まちづくり推進委員会に諮るため、横浜市に提出いたします。3月に予定されています「第53回横浜市地域まちづくり推進委員会」にて提案する予定です。ご意見等がございましたら、下記「連絡先」までご連絡ください。

～☆☆☆～ 会員募集 ～☆☆☆～

会合への参加や、活動と一緒にして下さる方は、ぜひ各自治町内会の担当者に、ご連絡・お問い合わせください。

※開催場所等の変更が生じる場合がありますので、事前にお問い合わせください。

【連絡先】

- ★ 氷取沢町内会
- ★ 磯子台パークハイツ自治会
- ★ パイロットハウス磯子台自治会
- ★ 興人磯子台マンション自治会

『氷取沢防災まちづくりの会』 会報 No. 17 発行日 2022年2月1日
 文責 氷取沢防災まちづくりの会

「氷取沢防災まちづくりの会」は、2016年7月に氷取沢町町内会と磯子台3団地自治会を母体として発足し、横浜市に登録された団体です。当会は、首都直下地震及び記録的豪雨時において、地域の課題に備えて4自治町内会が協力し合い、「コミュニティ・防災・減災力」の向上に努め災害に強いまちづくりを目標として、「5つのビジョン」を掲げ活動をしています。その活動については、会報にてお伝えして参りました。住民の皆様には3回のアンケート、最終意向確認を行い、意見・提案等を反映させながら、「防災まちづくりプラン」をまとめました。さらに、行政関係部門の調整が行われ、横浜市地域まちづくり推進委員会に諮るため、横浜市に提出いたします。その内容をご報告いたします。

横浜市地域まちづくり推進委員会へ提出した「防災まちづくりプラン」の内容

☆第1章 「防災まちづくりプラン」に至る経緯

◇Part1 地域性

1) 氷取沢地区について

氷取沢地区は磯子区(上笹下連合地区南部)と金沢区の境界に位置し、中央には大岡川流域に沿って世下釜利谷道路が横断した谷間と周りの丘陵地帯を開発して発展した地区です。地区には戸建主体の氷取沢町町内会と集合住宅の磯子台3団地自治会(磯子台パークハイツ、パイロットハウス磯子台及び興人磯子台マンション)の4自治町内会から構成され、約1,200世帯が居住しています。また、地区内には土砂災害特別警戒区域及び大岡川の浸水想定区域を有しています。

2) 地区としての課題

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにも関わらず地域防災拠点も統廃合されました。高齢化に伴い坂道が大半の遠く離れた地域防災拠点にすぐには行けない町内住民(以下「住民」という)が増大して来ています。また、首都直下地震等大震災や記録的豪雨による土砂災害及び水害等大災害を含めた様々な課題に備える事が求められています。

◇Part2 『氷取沢防災まちづくりの会』発足の準備期間

1) 「地域まちづくり支援制度」の出前塾受講

磯子区区政推進課による「地域まちづくり支援制度」の出前塾を2016年3月12日に受講しました。

2) 「氷取沢防災まちづくりの会」発足の目的及び組織編成

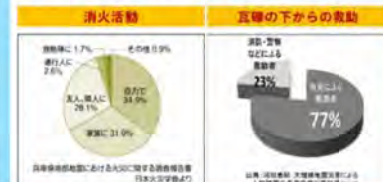
支援制度を活用し地域の実情に合わせた首都直下地震及び記録的豪雨等に備えたプランを策定する事を目的とし、「氷取沢防災まちづくりの会」を立上げるために、4自治町内会を母体として会員を募集しました。市への登録及び地域まちづくり活動助成金交付取得のための各種申請書、会則、構成員名簿、役員選出、活動計画並びに予算書等の策定を2回の準備会及び行政との協議会にて討議した後、発足総会にて確認・承認して、活動は2016年7月に開始しました。

地域防災力の向上を目指して!



参考

口阪神・淡路大震災の消火・救助活動の例



◇Part3 『氷取沢防災まちづくりの会』活動内容

活動年間一覽表

年度	内容	詳細	年度	内容	詳細
2016	定例会	月2回開催	2018	定例会	月1回開催
	町内まち歩き	氷取沢町内探索		町内まち歩き	氷取沢町内探索
	市民防災センター体験ツアーの実施	7月18・23・31日		第2回「減災を学ぼう会」開催	7月15日開催
	アンケートの実施	10月1日町内全戸配布		第3回「減災を学ぼう会」開催	11月25日開催
	会報の発行	No.1~3の発行		会報の発行	No.9~11の発行
2017	定例会	月1回開催	2019	定例会	月1回開催
	親子区輪読会・読書会・地域防災担当との協議	9月27日開催		第4回「減災を学ぼう会」開催	7月14日開催
	町内まち歩き	氷取沢町内探索		アンケートの実施	9月14日町内全戸配布
	中里医院副院長の講習会開催	10月14日開催		意見交換会の開催	2月8日開催
	第10回「減災を学ぼう会」開催	12月10日開催		会報の発行	No.12・13の発行
	会報の発行	No.4~8の発行	2020	定例役員会(新型コロナウイルスに付き)	月1回開催
				アンケートの実施	10月6日町内全戸及び地権者配布
				会報の発行	No.14・15の発行
			2021	定例役員会(新型コロナウイルスに付き)	月1回開催
				会報の発行	No.16・17の発行



【コラム】
※会報No16での最終意向確認に対し、以下の意見をいただきました。(抜粋)

1. 高齢者が多くなるため大災害時の避難場所(近い場所)の検討をして欲しい。
2. 防災まちづくりプラン提案は満足している。
3. トイレ使用等細かいことを徹底される方法があると思いません。
4. いつも読ませていただき心強いです。ありがとうございます。

☆第2章 『防災まちづくりプラン』提案の詳細内容

◇Part1 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョン

「氷取沢防災まちづくりの会」は、「防災まちづくり」を主体として、4自治町内会が連携しながら創意工夫し、地域のコミュニティ・防災・減災力の向上に努め、安全で快適な魅力ある地域主体の災害強いまちづくりを継続的に推進する事を目標としています。また、首都直下地震等の大震災及び記録的豪雨による大災害(以降、大災害と略称)時の地域の課題に備えたプランを策定する事を目的としています。

第1章の「防災まちづくりプラン」に至る経緯に記載した、全戸に配布したアンケート及び「減災を学ぼう会」でのアンケートでは、2007年度の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず地域防災拠点が統廃合されたことによる不満と、住民の高齢化により「坂道が大半の遠く離れた地域防災拠点には歩いていけない」と言った住民の意見が数多く出されています。更に、近年の大災害の事例調査結果から、大災害時のごみ・トイレ問題並びに診療所が1箇所しかない事からの医療対策も氷取沢地域にとっては重要な課題です。従って、地域防災拠点と連携して自主防災活動を行うために町内に4自治町内会の連携防災まちづくり拠点を設け、地域の課題に備えた機材類を備蓄・管理し、救援救助・応急手当等の訓練と住民が防災・減災情報入手できるようにします。また、家屋が倒壊し、地域防災拠点に行けない被災した要援護者・高齢者の避難場所に関しては、福祉避難所等の避難施設が開設される迄の間、避難所となる場所の確保を検討します。

以下に、5項目のビジョンに分け「防災まちづくりプラン」として、まとめました。

- 1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組
- 2) 町内の避難所確保に向けた取組
- 3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組
- 4) 大災害時の医療対策に対する取組
- 5) 氷取沢町ハザードマップ作成に対する取組



◇Part2 『防災まちづくりプラン』5項目のビジョンの詳細

1) 4自治町内会の連携防災まちづくり拠点設置の取組

＜現状の課題と目指す目標＞

2007年の小学校の統廃合により、過疎化が進んでいないにもかかわらず地域防災拠点も統合され、町内には地域防災拠点がなくなりました。地域防災拠点と連携して自主防災活動を行うために町内に「4自治町内会の連携防災まちづくり拠点(以下、防災まちづくり拠点と略称)設置」を目指します。

＜解決のための方策＞

防災まちづくり拠点としての建物の設置と備蓄機材のメンテナンス、防災訓練及び応急手当所(仮設テント等)等の活動が可能なスペースを確保します。防災まちづくり拠点の設置場所としては、土砂災害等に対して安全性が維持可能な場所とし、現時点では住民から提供を受けている空き地等を候補地としつつ、引き続き適地の調査・検討を行います。

また、防災まちづくり拠点については、防災まちづくり拠点の構想及び備蓄資機材リスト(案)を基に、関係行政等の助言を得ながら、以下の事項を検討します。

- ・地域の課題に備えて必要資機材(救援救助、ごみ・トイレ対策、応急手当及び吹き出し用資機材等)とその数量について検討します。
- ・大災害時には4自治町内会が連携・協力して復興活動を行うための拠点とします。平常時は住民が利活用しながら防災・減災情報入手ができる場所であるとともに、備蓄機材のメンテナンス・備蓄機材を活用した防災訓練等について検討します。
- ・大災害時の避難が困難な要援護者等の被災者の避難先に関しては、「町内の避難所確保に向けた取組」にて検討します。

なお、氷取沢公園には、防災倉庫を建てるための条件を踏まえながら防災倉庫の整備を進め、必要資機材とその数量について検討します。

4自治町内会の連携防災まちづくり拠点の構想

備蓄資機材リスト(案)

救援救助機材	応急手当用資機材
・救援マシナリ及びロープ、安全器具及び手袋	・応急用水
・ヘルメット及びヘルメットライト	・応急用食料
・救急箱	・応急用寝具(毛布)
・バンドナイフ	・応急用トイレ
・ロープ(200m)	・応急用照明器具
・懐中電灯(100個)	・応急用トイレ用資機材
・備蓄用(100個)	・応急用トイレ用資機材
・アムール	・応急用トイレ用資機材

2) 町内の避難所確保に向けた取組

＜現状の課題と目指す目標＞

『小学校の統廃合により、町内にあった地域防災拠点がなくなり、大災害後に坂道が大半の遠く離れた、老朽化し災害規模によっては収容能力が不足する可能性がある「地域防災拠点(さわの里小学校)」に行けない。』といった住民意見が寄せられています。住民意見を反映するため、被災した要援護者や体の不自由な方々等の避難先を町内の施設等に受入れてもらう事を目指します。

＜解決のための方策＞

- ・市と協定を結んでいない町内の福祉施設との地域交流協定書の締結等により、被災した要援護者や体の不自由な方々を受入れて頂くとともに、協力して地域防災拠点に届く情報・物資の地域及び施設への一括運搬体制等を構築します。
- ・各自治町内会では、高齢者及び身障者等の要援護者の要介護認定の有無と同伴介護者を定期的に確認し、本人同意のもとに「災害時要支援者名簿」を独自で作成します。これを基に福祉施設等と協議して、定期的な名簿等の更新を行い、いざという時に活用できるように備えます。
- ・その他、町内の大型店舗等の駐車場の避難場所を確保するために、事業者と交渉し、協定書を締結します。

3) 大災害時のごみ・トイレ問題に備えた取組

＜現状の課題と目指す目標＞

大災害時は公共下水道の被災状況の把握が、困難でトイレが使用可能でも、水を流せるかどうか判断できません。特に、磯子台3団地は震度5強以上の大震災時は排水管の点検後でないと、排泄物や生活排水が流せない事が徹底されていません。排泄物は生活ごみ(可燃ごみ)とともに収集運搬されますが、大震災後は1週間以上収集車が来ない事を想定した対策が必要です。長期保管場所を定め、保管場所の課題及び廃棄ルール等をまとめ、いざという時に備えます。また、家具・電化製品及び瓦礫等の災害ごみが大量に発生する事も想定しなくてはなりません。生活ごみ及び災害ごみは、運搬・廃棄ルールに対する課題をまとめて、町内に災害ごみ如山積みとなり、生活ごみ等と混ざらないようにする事が必要です。

＜解決のための方策＞

大災害後の下水放流の可否に関しては、今後、行政等の助言を基にまとめる事とします。磯子台3団地に関しては、大災害後の排水管の点検と排水を流すための判断は、管理組合と協議します。排泄物を含んだ生活ごみ等の長期保管場所は各自治町内会において、現在の収集場所を主体として検討し、氷取沢町ハザードマップに明記していきます。長期保管場所での鳥・衛生・飛散対策と必要な資機材等のリストアップ及び保管する際のルール化の構築を行います。また、災害ごみは生ごみ等と混ざらないように、今後、運搬・廃棄ルール等を構築して、いざという時に備えます。



3-5. 都市防災・防犯の方針

【目標】

安全で快適に住むことができる都市を維持・創造します

【背景】

- ・東日本大震災や熊本地震などの影響により防災に対する市民の意識が高まっています。
- ・市民の生命を守り、経済的・物的な被害を最小化する減災に向けた都市づくりを進めるため、災害時にも対応できる都市構造を構築するとともに、地域の特性に対応した災害対策を強化する必要があります。
- ・大規模地震に対応するため、建築物の耐震化や不燃化を進める必要があります。また、臨海部では津波対策を検討する必要があります。
- ・局地的な大雨などによる水害への対策を検討する必要があります。
- ・地域の防災、防犯力向上に向けて、地域住民が主体となった安全、安心のまちづくりが必要です。

【方針】

(1) 災害に強いまちづくり

①地震に強いまちづくり

- ・地震による被害を抑制し、都市機能が早期に復旧するよう道路・橋梁や鉄道、電気、ガス、上下水道施設などのライフラインの耐震性向上及び災害時の復旧体制の強化を図ります。
- ・公共建築物の耐震対策、啓発・指導などによる民間建築物の耐震化・不燃化を進めます。
- ・木造住宅が密集し、狭あい道路が多い地域では、地震火災が発生した場合の緊急通行車両等の通路の確保や延焼拡大を防止するため、狭あい道路の拡幅、建築物の不燃化や耐震化を行うなど、地域の防災性を高めます。特に、地震火災対策方針の対象地域（滝頭地区、岡村地区、磯子地区の各一部）では、避難路の確保、防災広場などの整備、感震ブレーカーの設置等を進めます。
- ・緊急輸送路の沿道建築物の耐震化対策を進めます。
- ・火災延焼を防止するため、幹線道路沿いの建築物の不燃化を進めます。
- ・大規模工場等と住宅地との国道 357 号等幅員の広い幹線道路は、延焼遮断帯としての機能を維持します。
- ・公園や小広場など避難場となるオープンスペースの確保を図ります。
- ・初期消火器具等の整備促進を図ることにより、地域の初期消火力を高めるとともに、消防団等とも連携し共助の取組を推進します。さらに、必要に応じて地域に小型消防車の配置

やスタンドパイプの導入を促進します。

- ・液状化マップ等により液状化が想定される地域の周知を図ります。
- ・津波による被害が想定される沿岸地域では、安全な高台や建物に避難できるよう津波避難場所、津波避難施設の確保に努めます。
- ・津波警報伝達システムの活用や新たな広報手段を整備するとともに、海拔表示などを活用した防災訓練、講習会等により、住民の防災意識の啓発に努めます。
- ・東京湾沿岸海岸保全基本計画に基づき、防護レベルの津波に対しては、既設の護岸の点検、補強等と海岸保全施設（護岸等）の整備を行います。
- ・津波による二次被害を軽減させるため、不法係留船舶対策を進めます。
- ・災害時の帰宅困難者への対応を検討します。
- ・災害時の下水道直結式仮設トイレの整備を進めます。

②水害・高潮に強いまちづくり

- ・緑地などの保水能力の維持、雨水循環の環境づくりや河川・下水道事業の推進などにより安全性の向上を図り、水害が発生しにくいまちづくりを進めます。
- ・近年、多発している局地的大雨（いわゆるゲリラ豪雨）による被害を低減するため、雨水排水施設の整備・更新を着実に進めるほか、雨水貯留施設や雨水浸透施設による流出抑制対策を推進します。
- ・急傾斜地崩壊危険区域における崩壊防止工事や新たな区域指定など、県と連携した崖崩れ対策を進めます。
- ・土砂災害警戒区域では、土砂災害ハザードマップを通じて周知するなど、警戒避難体制の整備を図ります。
- ・内水ハザードマップの活用とともに、雨水幹線等の整備により内水害対策を進めます。
- ・東京湾沿岸海岸基本計画に基づき、海岸保全施設（護岸など）の整備を行います。

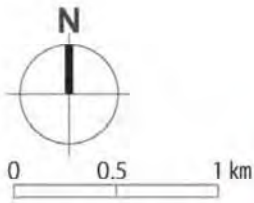
（2）防犯に関するまちづくり

- ・防犯灯の設置、公園・道路の植栽の工夫、垣柵や曲がり角の視認性の改善などによる見通しの確保等、まちの防犯性を高めます。
- ・犯罪の発生を抑止するため、プライバシーに配慮しながら、公共空間への防犯カメラの設置を検討します。
- ・管理の行き届いていない空家等の所有者への啓発、流通・活用促進などを柱とした総合的な空家対策を推進し、犯罪の発生を抑止します。

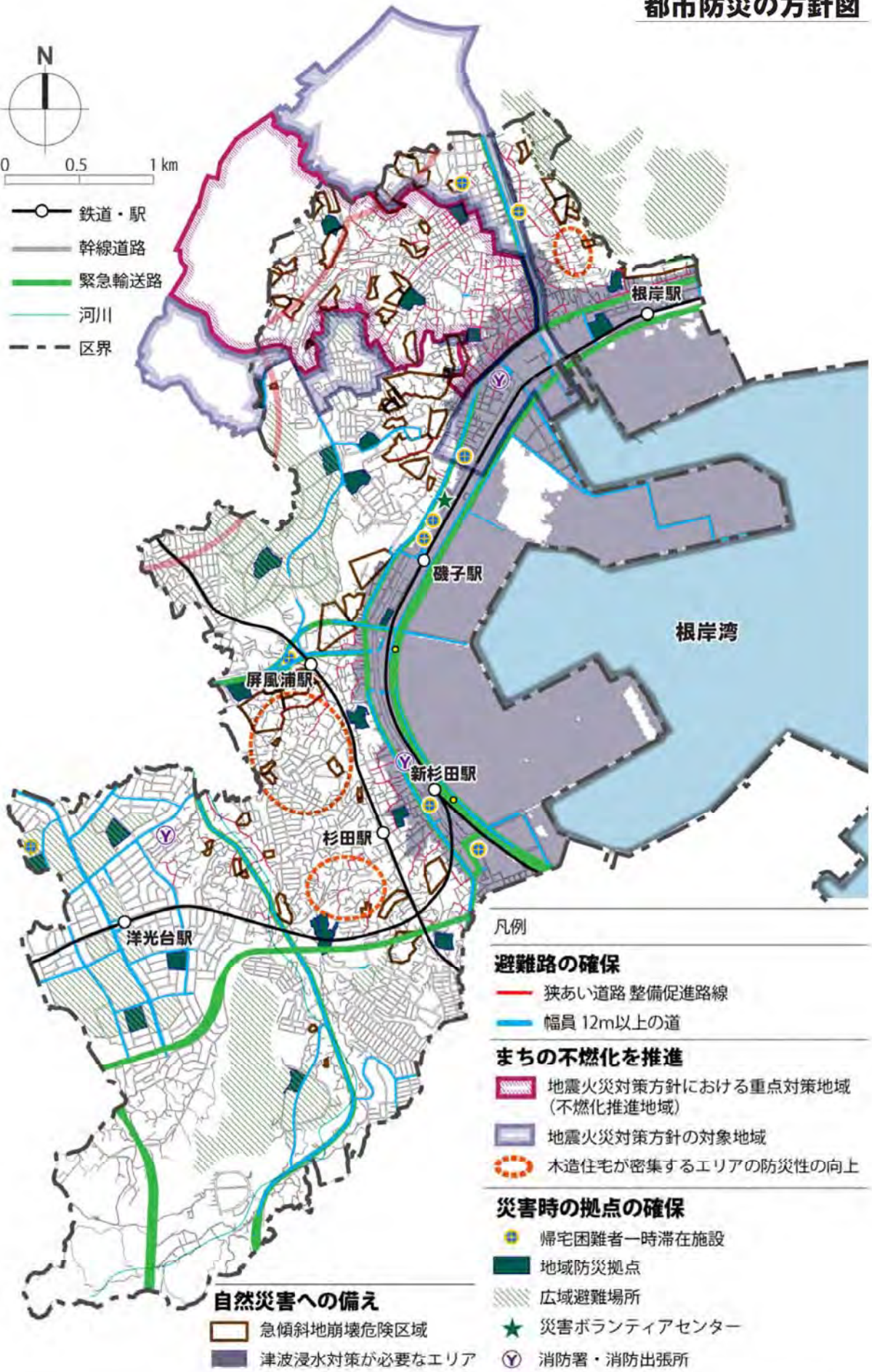
(3) 防災と防犯への日常からの備え

- ・日常的な地域交流により、見守り、支えあいの活動を推進し、必要な時に助け合うことができる共助の体制を整えます。
- ・地域防災拠点を中心とした防災訓練や学校での防災教育などにより、日頃から地域一人ひとりの防災意識を高めるとともに、自治会町内会などまちの防災組織、消防団員や家庭防災員の活動を通して地域防災力の強化を図ります。
- ・災害時の避難場所や避難ルートを周知するとともに、危険な箇所を点検し、改修を検討します。
- ・地域防災拠点に加えて、まちの防災組織、各家庭や各事業所でも、救助用品、救護用品、生活用品、食料、水、非常持ち出し品などの備蓄に努めます。
- ・ハザードマップ等を活用して、自宅周辺の災害危険度の理解を深めるなど、事前の備えや訓練を着実に進め、災害時に必要な情報をあらかじめ入手するなど、自分の身のまわりのことは自分で対応できるよう（自助）に、できることから取り組んでいきます。
- ・地域での防犯キャンペーンや防犯パトロールの実施、防犯講習会の開催などの活動について、引き続き警察等と連携して行います。
- ・日頃から、防犯上危険な場所を把握し、情報を共有するとともに、商店や一般家庭の協力を得て「子ども110番の家」の活動を広げるなど、地域・家庭・学校・企業の連携による安全対策を進めます。
- ・空家の管理（所有）者は、家屋を適正に管理し、可燃物を置かない（放置しない）ようにし、近隣住民と連絡を取り合い、協力して火災予防に努めます。

都市防災の方針図



- 鉄道・駅
- 幹線道路
- 緊急輸送路
- 河川
- - 区界



- 凡例
- 避難路の確保**
- 狭あい道路 整備促進路線
 - 幅員 12m以上の道
- まちの不燃化を推進**
- 地震火災対策方針における重点対策地域 (不燃化推進地域)
 - 地震火災対策方針の対象地域
 - 木造住宅が密集するエリアの防災性の向上
- 災害時の拠点の確保**
- 帰宅困難者一時滞在施設
 - 地域防災拠点
 - 広域避難場所
 - ★ 災害ボランティアセンター
 - Ⓜ 消防署・消防出張所
- 自然災害への備え**
- 急傾斜地崩壊危険区域
 - 津波浸水対策が必要なエリア

4-8. 上笹下地区の背景とまちづくり方針

(1) 上笹下地区の背景

- ・上笹下地区は、横浜市の緑の10大拠点の一つである円海山の緑を抱え、円海山を源流とする大岡川と横浜逗子線を軸とする地域です。
- ・北部の田中・栗木は、地区内では比較的早く開けた住宅地で、緑に恵まれ良好な住環境を形成しており、幹線道路沿いには商店の立地も見られます。
- ・環状3号線より南側の大半が市街化調整区域で、横浜逗子線沿いには緑に囲まれた住宅団地が連なっています。

(2) 上笹下地区のまちづくり方針

【目標】

**円海山周辺の緑や大岡川の清流を守り、
自然と生活利便性が調和したまち**

【方針】

① 良好な住環境を維持・保全し、便利で人にやさしいまちづくりを進めます

- ・低層住宅地では、良好な住環境を維持・保全するため、地区計画、建築協定、景観協定、**地域まちづくり推進条例に基づくルール・プランなどの制度を活用し、住民主体のまちづくり活動を支援していきます。**また、既存のルールについては地域の実状や地域住民のニーズにあった見直しを推進します。
- ・中層住宅地では、建物の長寿命化や建替えを含めた団地再生に向けた活動を支援します。
- ・地区内の生活利便性の維持・向上を図るために、緑の環境に配慮しながら、横浜逗子線沿いに日常的な買物・生活サービス施設等、地域のニーズにあった機能の導入について手法を検討します。

② 円海山周辺の自然的環境を一団として保全するとともに、大岡川の清流を守ります

- ・円海山周辺は、横浜市の緑の10大拠点の1つに位置付けられており、一部は円海山近郊緑地特別保全地区や市民の森、農業専用地区に指定されています。この円海山周辺の恵まれた自然的環境を将来に向け維持・保全していきます。
- ・円海山を源流域としている大岡川は、水辺植生、鳥、魚、昆虫など様々な動植物が生息する、横浜市に残された貴重な清流です。この自然的環境を守り育てていくため、大岡川を水の軸と位置付け、流域全般にわたり、水質浄化やごみの不法投棄対策などを進めるとともに、地域で川の管理を行うことなどにより、「清流の大岡川」として将来に引き継ぎます。

- ・川辺の遊歩道やサイクリングロードなどの整備を検討し、大岡川の魅力向上を図ります。
- ・市民の森の東側にある氷取沢農業専用地区は、区内に残された数少ないまとまりのある農地であり、新鮮な農作物の供給を図っているほか、田園風景を演出している貴重な場であり、訪れる人たちの憩いの場となっています。しかし、農家の高齢化や後継者不足などの課題があり、農業を支える仕組みづくりが必要となってきました。そのため、各種農業振興策により、農地の利活用を図ります。

③崖地対策を進め防災体制を整えます

- ・急傾斜地崩壊危険区域における崩壊防止工事や新たな区域指定など、県と連携した崖崩れ対策を進めます。
- ・土砂災害警戒区域では、土砂災害ハザードマップを通じて周知するなど、警戒避難体制の整備を図ります。

④地域の交通利便性と交通環境の改善を図ります

- ・地区北側の栗木交差点から打越交差点区間は交通量が多いにも関わらず、車線数が少なく、また路上駐車が多いため、渋滞が発生しています。そのため、バスベイの設置や交差点の右左折車線の設置による交差点の改良などの対策を検討するほか、違法駐車取締りを強化することにより、渋滞の緩和に努めます。
- ・地区住民の主な利用駅は洋光台駅、港南台駅、能見台駅などとなっており、交通手段はバスが中心であるため、将来に向けてバス路線の維持が求められています。また、時間帯により極端に混雑するといった課題があります。そのため、バス事業者と連携し地域ニーズにあったバスダイヤの工夫など解決に努めます。
- ・上中里団地の一方通行の道路は、地域の意見を踏まえながら改善の方向性を検討します。

上笹下地区まちづくり方針図

